

(財) 大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第89輯

末廣遺跡・中開遺跡・松原遺跡

関西国際空港連絡道路ならびに連絡鉄道建設に伴う発掘調査報告書 Ⅱ

本文編

1995

大阪府教育委員会
財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第89輯

末廣遺跡・中開遺跡・松原遺跡

関西国際空港連絡道路ならびに連絡鉄道建設に伴う発掘調査報告書 Ⅱ

本文編

1 9 9 5

大阪府教育委員会
財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

序 文

大阪南部の泉州地域は、数多くの文化財が豊かな自然とともに現在に伝えられているところです。和泉山系から大阪湾にむかってのびた丘陵や、和泉山系に発し大阪湾に注ぐ川が、特色ある地域をつくりだしたと言えるでしょう。

このような泉州沖に関西国際空港が建設されることになり、本府教育委員会では財団法人大阪府埋蔵文化財協会を設立して、空港関連の各種公共事業に先立つ発掘調査を円滑に進めるよう努力してきたところであります。

本書は空港関連事業のうち、空港連絡道路建設に先立つ発掘調査の報告書であります。空港連絡道路予定地内には11の遺跡があり、平成元年から4年の月日をかけて発掘調査いたしました。本書には大阪湾に近い末廣遺跡、中開遺跡、松原遺跡の調査成果が掲載されております。本書が泉州の歴史を知るための資料となれば幸いです。

最後になりましたが、事業者をはじめ関係各位にはひとかたならぬ御援助を賜り、厚く御礼申し上げます。今後とも御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成7年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 田中 宏

序 文

当協会は、昭和60年4月に設立され、関西国際空港建設に伴う各種の公共事業に先立ち、事業地内の埋蔵文化財を発掘調査することを主たる業務としてまいりました。

なかでも、空港連絡道路建設に先立つ埋蔵文化財発掘調査は、当協会の最も重要な事業の一つであり、平成元年度から平成4年度までかけて、11遺跡、約40万平方メートルを調査いたしました。

これらの空港連絡道路建設に伴って発掘調査を実施した遺跡については、ひきつづき遺物整理事業を実施してまいりましたが、本書はそれらのうち、海側に所在する、末廣遺跡、中開遺跡、ならびに松原遺跡の調査報告書であります。これらの遺跡では、製塩土器や蛸壺をはじめとして、海にかかわりのある遺物が出土しており、興味深い調査成果を得たと考えております。

当協会では引き続き遺物整理事業を実施し、残る調査報告書の刊行に努めてまいる所存であります。関係各位の更なる御指導、御協力をお願いいたします。

平成7年3月

財団法人大阪府埋蔵文化財協会
理事長 岩井 幹郎

例 言

1. 本書は関西国際空港連絡道路予定地内に所在する末廣遺跡・中開遺跡・松原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は近畿地方建設局・道路公団・JR西日本株式会社・南海電気鉄道株式会社・大阪府土木部の委託を受け、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもとに、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。
3. 発掘調査は財団法人大阪府埋蔵文化財協会技師阿部幸一・石田成年・今村道雄・岩瀬透・岡一彦・岡本武司・城野博文・辻本武・仁木昭夫・藤沢真依・三宅正浩が担当し、平成元年度に着手し、平成4年度10月に終了した。
4. 発掘調査の実施にあたっては、各事業者・泉佐野市教育委員会および地元関係各位の協力を得た。
5. 調査は当協会の発掘調査規程により国土座標系第VI系を基準に地区割りを設定して行った。本文及び挿図に用いた座標はこれに従い、標高はT.P.で表示した。
6. 遺物整理及び報告書の作成は各担当技師と非常勤職員が行った。
7. 5-25区出土の石匙は当協会技師西口陽一が実測・トレースを行った。
8. 遺構写真は各調査担当技師が撮影したが、航空写真撮影は朝日航洋株式会社が行った。遺物写真は小倉勝が撮影した。
9. 本書で用いた土壌色は「新版標準土色帖5版」小川正忠・竹原秀雄編著1976による。
10. 挿図の中で、縮尺のない土層図は1/40である。

本文目次

第1章 遺跡の位置と調査の経緯	1
第1節 遺跡の位置と環境 (仁木)	1
第2節 調査区の設定 (藤沢)	4
第3節 調査の経緯 (藤沢)	5
第2章 調査の概略	7
第1節 末廣遺跡 (藤沢)	7
第2節 中開遺跡 (藤沢)	7
第3節 松原遺跡 (藤沢)	8
第3章 調査の結果	9
第1節 末廣・中開・松原遺跡の基本層序 (三宅)	9
第2節 末廣遺跡の調査 (阿部・今村・岩瀬・岡・城野・藤沢・三宅)	12
1. 5-A地区の調査	12
2. 5-B地区の調査	38
3. 5-C地区の調査	83
4. 5-D地区の調査	141
5. 5-E地区の調査	159
6. 6-A地区の調査	182
7. 6-B地区の調査	194
8. 末廣遺跡のまとめ (三宅)	207
第3節 中開遺跡の調査 (石田・岡・岡本・辻本・仁木・藤沢)	208
1. 6-C地区の調査	208
2. 6-D地区の調査	225
3. 中開遺跡のまとめ (藤沢)	248
第4節 松原遺跡の調査 (石田・岡・辻本・仁木・藤沢)	249

1. 6-E地区の調査	249
2. 松原遺跡出土の製塩土器 (仁木)	286
3. 松原遺跡のまとめ (仁木)	288
第4章 まとめ (仁木)	289

目 次

第 1 章

第 1 節	第 1 図	遺跡分布図	2
	第 2 図	地形分類図	3
第 3 節	第 3 図	年度別発掘調査区位置図	6

第 3 章

第 2 節 1.	第 4 図	末廣遺跡 5 - A 地区調査区配置図	12
	第 5 図	末廣遺跡 5 - 19 区基本土層断面図	13
	第 6 図	末廣遺跡 5 - 19 区 01 - OW 埋土断面図	14
	第 7 図	末廣遺跡 5 - 49 区基本土層断面図	15
	第 8 図	末廣遺跡 5 - 49・56・50 区第 2 遺構面平面図	17
	第 9 図	末廣遺跡 5 - 56 区基本土層断面図	18
	第 10 図	末廣遺跡 5 - 50 区基本土層断面図	22
	第 11 図	末廣遺跡 5 - 31 区基本土層断面図	23
	第 12 図	末廣遺跡 5 - 16 区基本土層断面図	25
	第 13 図	末廣遺跡 5 - 16 区 01・02・03・06 - OW 埋土断面図	27~28
	第 14 図	末廣遺跡 5 - 42 区基本土層断面図	34
	第 15 図	末廣遺跡 5 - 30 区基本土層断面図	35
	第 16 図	末廣遺跡 5 - 48 区基本土層断面図	37
2.	第 17 図	末廣遺跡 5 - B 地区調査区配置図	38
	第 18 図	末廣遺跡 5 - 32 区基本土層断面図	39
	第 19 図	末廣遺跡 5 - 17 区基本土層断面図	41
	第 20 図	末廣遺跡 5 - 47 区基本土層断面図	44
	第 21 図	末廣遺跡 5 - 41 区基本土層断面図	45
	第 22 図	末廣遺跡 5 - 41 区 01 - OW 平面図・埋土断面図	46
	第 23 図	末廣遺跡 5 - 40 区基本土層断面図	48
	第 24 図	末廣遺跡 5 - 57 区基本土層断面図	50
	第 25 図	末廣遺跡 5 - 43 区基本土層断面図	52
	第 26 図	末廣遺跡 5 - 29 区基本土層断面図	54

第 27 図	末廣遺跡 5-25 区出土遺物実測図	55
第 28 図	末廣遺跡 5-25 区基本土層断面図	55
第 29 図	末廣遺跡 5-53 区基本土層断面図	58
第 30 図	末廣遺跡 5-33 区基本土層断面図	59
第 31 図	末廣遺跡 5-18 区基本土層断面図	62
第 32 図	末廣遺跡 5-18 区 01・03-O W 埋土断面図	63
第 33 図	末廣遺跡 5-60 区基本土層断面図	69
第 34 図	末廣遺跡 5-58 区基本土層断面図	72
第 35 図	末廣遺跡 5-24 区基本土層断面図	74
第 36 図	末廣遺跡 5-24 区 21-O S 埋土断面図	77
第 37 図	末廣遺跡 5-54 区基本土層断面図	80
第 38 図	末廣遺跡 5-54 区 04-O S・10-O R 埋土断面図	81
3. 第 39 図	末廣遺跡 5-C 地区調査区配置図	83
第 40 図	末廣遺跡 5-13 区基本土層断面図	84
第 41 図	末廣遺跡 5-34 区基本土層断面図	87
第 42 図	末廣遺跡 5-9 区基本土層断面図	90
第 43 図	末廣遺跡 5-46 区基本土層断面図	93
第 44 図	末廣遺跡 5-46 区 09-O S・15-O R 埋土断面図	95
第 45 図	末廣遺跡 5-10 区基本土層断面図	97
第 46 図	末廣遺跡 5-44 区基本土層断面図	98
第 47 図	末廣遺跡 5-44 区 01-O S 埋土断面図	99
第 48 図	末廣遺跡 5-44 区 16-O R 埋土断面図	101
第 49 図	末廣遺跡 5-39 区基本土層断面図	102
第 50 図	末廣遺跡 5-11 区基本土層断面図	104
第 51 図	末廣遺跡 5-11 区 09-O S・12-O R 埋土断面図	105
第 52 図	末廣遺跡 5-52 区基本土層断面図	106
第 53 図	末廣遺跡 5-23 区基本土層断面図	107
第 54 図	末廣遺跡 5-36 区基本土層断面図	109
第 55 図	末廣遺跡 5-12 区基本土層断面図	111
第 56 図	末廣遺跡 5-12 区 04-O W 埋土断面図	112

第 57 図	末廣遺跡 5 - 7 区基本土層断面図	118
第 58 図	末廣遺跡 5 - 7 区 01・02 - O S 埋土断面図	118
第 59 図	末廣遺跡 5 - 5 区基本土層断面図	120
第 60 図	末廣遺跡 5 - 6 区基本土層断面図	122
第 61 図	末廣遺跡 5 - 8 区基本土層断面図	123
第 62 図	末廣遺跡 5 - 8 区 01 - O W・03 - O S 埋土断面図	124
第 63 図	末廣遺跡 5 - 8 区 04 - O S・11 - O R 埋土断面図	125
第 64 図	末廣遺跡 5 - 35 区基本土層断面図	127
第 65 図	末廣遺跡 5 - 20 区基本土層断面図	131
第 66 図	末廣遺跡 5 - 20 区第 2 遺構面平面図	136
第 67 図	末廣遺跡 5 - 20 区 39 - O R 埋土断面図	137
第 68 図	末廣遺跡 5 - 51 区基本土層断面図	138
第 69 図	末廣遺跡 5 - 51 区 01 - O W 埋土断面図	139
第 70 図	末廣遺跡 5 - 51 区 04 - O S 埋土断面図	139
4. 第 71 図	末廣遺跡 5 - D 地区調査区配置図	142
第 72 図	末廣遺跡 5 - 45 区基本土層断面図	143
第 73 図	末廣遺跡 5 - 62 区基本土層断面図	144
第 74 図	末廣遺跡 5 - 59 区基本土層断面図	145
第 75 図	末廣遺跡 5 - 61 区基本土層断面図	148
第 76 図	末廣遺跡 5 - 61 区第 2 遺構面平面図	149
第 77 図	末廣遺跡 5 - 61 区 05 - O R 埋土断面図	150
第 78 図	末廣遺跡 5 - 61 区出土遺物実測図	150
第 79 図	末廣遺跡 5 - 1 区基本土層断面図	151~152
第 80 図	末廣遺跡 5 - 2 区基本土層断面図	151~152
第 81 図	末廣遺跡 5 - 3 区基本土層断面図	151~152
第 82 図	末廣遺跡 5 - 4 区基本土層断面図	151~152
5. 第 83 図	末廣遺跡 5 - E 地区調査区配置図	160
第 84 図	末廣遺跡 5 - 22 区基本土層断面図	161
第 85 図	末廣遺跡 5 - 22 区 12 - O R 埋土断面図	162
第 86 図	末廣遺跡 5 - 14 区基本土層断面図	163

第 87 図	末廣遺跡 5 - 14区23 - O R埋土断面図	167
第 88 図	末廣遺跡 5 - 14区第 2 遺構面平面図	167
第 89 図	末廣遺跡 5 - 27区基本土層断面図	168
第 90 図	末廣遺跡 5 - 26区基本土層断面図	169
第 91 図	末廣遺跡 5 - 28区基本土層断面図	171
第 92 図	末廣遺跡 5 - 37区基本土層断面図	172
第 93 図	末廣遺跡 5 - 37区02 - O W埋土断面図	172
第 94 図	末廣遺跡 5 - 15区基本土層断面図	175
第 95 図	末廣遺跡 5 - 15区14 - O R埋土断面図	177
第 96 図	末廣遺跡 5 - 38区基本土層断面図	178
第 97 図	末廣遺跡 5 - 38区02 - O R埋土断面図	179
第 98 図	末廣遺跡 5 - 55区基本土層断面図	180
第 99 図	末廣遺跡 5 - 55区第 1 遺構面平面図	180
6 . 第100図	末廣遺跡 6 - A 地区調査区配置図	183
第101図	末廣遺跡 6 - 12区基本土層断面図	184
第102図	末廣遺跡 6 - 12区01 - O S埋土断面図	184
第103図	末廣遺跡 6 - 29区基本土層断面図	185
第104図	末廣遺跡 6 - 22区基本土層断面図	186
第105図	末廣遺跡 6 - 30区基本土層断面図	188
第106図	末廣遺跡 6 - 28区基本土層断面図	190
第107図	末廣遺跡 6 - 7 区基本土層断面図	191
第108図	末廣遺跡 6 - 11区基本土層断面図	192
7 . 第109図	末廣遺跡 6 - B 地区調査区配置図	194
第110図	末廣遺跡 6 - 6 区基本土層断面図	195
第111図	末廣遺跡 6 - 23区基本土層断面図	197
第112図	末廣遺跡 6 - 8 区基本土層断面図	198
第113図	末廣遺跡 6 - 15区基本土層断面図	199
第114図	末廣遺跡 6 - 32 - 2 区基本土層断面図	200
第115図	末廣遺跡 6 - 32 - 2 区02 - O W埋土断面図	201
第116図	末廣遺跡 6 - 31区基本土層断面図	202

	第117図	末廣遺跡6-32-1区基本土層・01-OW埋土断面図	204
	第118図	末廣遺跡6-32-1区出土遺物実測図	204
	第119図	末廣遺跡6-24区基本土層断面図	206
第3節1.	第120図	中開遺跡6-C地区調査区配置図	208
	第121図	中開遺跡6-33区基本土層断面図	209
	第122図	中開遺跡6-49区基本土層断面図	211
	第123図	中開遺跡6-34区基本土層断面図	212
	第124図	中開遺跡6-38区基本土層断面図	213
	第125図	中開遺跡6-38区01-OW・02-OW・06-OW埋土断面図	214
	第126図	中開遺跡6-50-2区基本土層断面図	216
	第127図	中開遺跡6-50-1区基本土層断面図	217
	第128図	中開遺跡6-37区基本土層断面図	218
	第129図	中開遺跡6-5区基本土層断面図	219
	第130図	中開遺跡6-39区基本土層断面図	219
	第131図	中開遺跡6-35区基本土層断面図	220
	第132図	中開遺跡6-36区基本土層断面図	221
	第133図	中開遺跡6-40区基本土層断面図	222
	第134図	中開遺跡6-16区基本土層断面図	223
	第135図	中開遺跡6-21区基本土層断面図	224
2.	第136図	中開遺跡6-D地区調査区配置図	226
	第137図	中開遺跡6-25区基本土層断面図	227
	第138図	中開遺跡6-20区基本土層断面図	228
	第139図	中開遺跡6-10区基本土層断面図	229
	第140図	中開遺跡6-42区基本土層断面図	232
	第141図	中開遺跡6-19区基本土層断面図	235
	第142図	中開遺跡6-26区基本土層断面図	236
	第143図	中開遺跡6-41区基本土層断面図	237
	第144図	中開遺跡6-4区基本土層断面図	238
	第145図	中開遺跡6-4区第1遺構面平面図	239
	第146図	中開遺跡6-3区基本土層断面図	241

	第147図	中開遺跡 6-9区基本土層断面図	243
	第148図	中開遺跡 6-43区基本土層断面図	244
	第149図	中開遺跡 6-14区基本土層断面図	245
	第150図	中開遺跡 6-17区基本土層断面図	246
	第151図	中開遺跡 6-27区基本土層断面図	247
第4節	第152図	松原遺跡 6-E地区調査区配置図	249
	第153図	松原遺跡 6-18区基本土層断面図	250
	第154図	松原遺跡 6-44区基本土層断面図	251
	第155図	松原遺跡 6-44区第1遺構面平面図	253
	第156図	松原遺跡 6-44区02-O R・03-O X埋土断面図	253
	第157図	松原遺跡 6-44区03-O X平面図	254
	第158図	松原遺跡 6-2区基本土層断面図	255
	第159図	松原遺跡 6-1区基本土層断面図	257
	第160図	松原遺跡 6-13区基本土層断面図	259
	第161図	松原遺跡 6-13区第1遺構面平面図	259
	第162図	松原遺跡 6-45区基本土層断面図	262
	第163図	松原遺跡 6-45区第1遺構面平面図	262
	第164図	松原遺跡 6-45区01-O W平面図・埋土断面図	263
	第165図	松原遺跡 6-45区03-O S・08-O R埋土断面図	264
	第166図	松原遺跡 6-45区09-O R埋土断面図	265
	第167図	松原遺跡 6-45区10-O R埋土断面図	266
	第168図	松原遺跡 6-45区11-O R埋土断面図	266
	第169図	松原遺跡 6-45区出土遺物実測図	267
	第170図	松原遺跡 6-46区基本土層断面図	268
	第171図	松原遺跡 6-51区基本土層・01-O S埋土断面図	270
	第172図	松原遺跡 6-51区出土遺物実測図	271
	第173図	松原遺跡 6-52区基本土層断面図	274
	第174図	松原遺跡 6-52区第1遺構面平面図	275
	第175図	松原遺跡 6-52区03-O S・11-O R埋土断面図	277~278
	第176図	松原遺跡 6-52区07-O R埋土断面図	277~278

第177図	松原遺跡 6-52区01-O S・13-O R埋土断面図 ……	277~278
第178図	松原遺跡 6-52区出土遺物実測図 ……	279
第179図	松原遺跡 6-53区基本土層断面図 ……	281
第180図	松原遺跡 6-53区02-O S・03-O R・07-O R埋土断面図 ……………	283~284
第181図	松原遺跡 6-53区出土遺物実測図 ……	285
第182図	松原遺跡出土製塩土器分類実測図 (S = 1/2) ……	287

表 目 次

第 3 章

第 4 節	第 1 表	松原遺跡製塩土器型式別出土数一覧表 ……	287
-------	-------	----------------------	-----

付 図 目 次

- 付図 1 末廣遺跡（5－A・B地区）遺構図
- 付図 2 末廣遺跡（5－C地区）遺構図
- 付図 3 末廣遺跡（5－D地区）遺構図
- 付図 4 末廣遺跡（5－E地区）遺構図
- 付図 5 末廣遺跡（5－A・B地区）第2遺構面遺構図
- 付図 6 末廣遺跡（5－C地区）第2遺構面遺構図
- 付図 7 末廣遺跡（6－A・B地区）遺構図
- 付図 8 中開遺跡（6－C地区）遺構図
- 付図 9 中開遺跡（6－D地区）遺構図
- 付図 10 松原遺跡（6－E地区）遺構図

第1章 遺跡の位置と調査の経緯

第1節 遺跡の位置と環境

遺跡の所在する泉佐野市は大阪府の南西部に位置している。市域の南部は和泉山脈の基盤山地部分、中央部は洪積段丘中位面と樫井川沿いの氾濫原及び谷底低地部分、北部は海沿いの低地部分に分かれる。

末廣遺跡は泉佐野市高松に所在する。弥生時代や中世の土器の散布地として周知されている。中開遺跡は泉佐野市松原・大西に所在する。室町時代の土器の散布地として周知されている。末廣遺跡と中開遺跡は洪積段丘中位面に位置する。調査対象地の標高は南側で13m、北側では4mを測る。松原遺跡は泉佐野市笠松に所在する。古墳時代や中世の土器の散布地として周知されている。松原遺跡は海沿いの沖積段丘面に位置する。調査対象地の標高は南側で4m、北側で3mを測る。

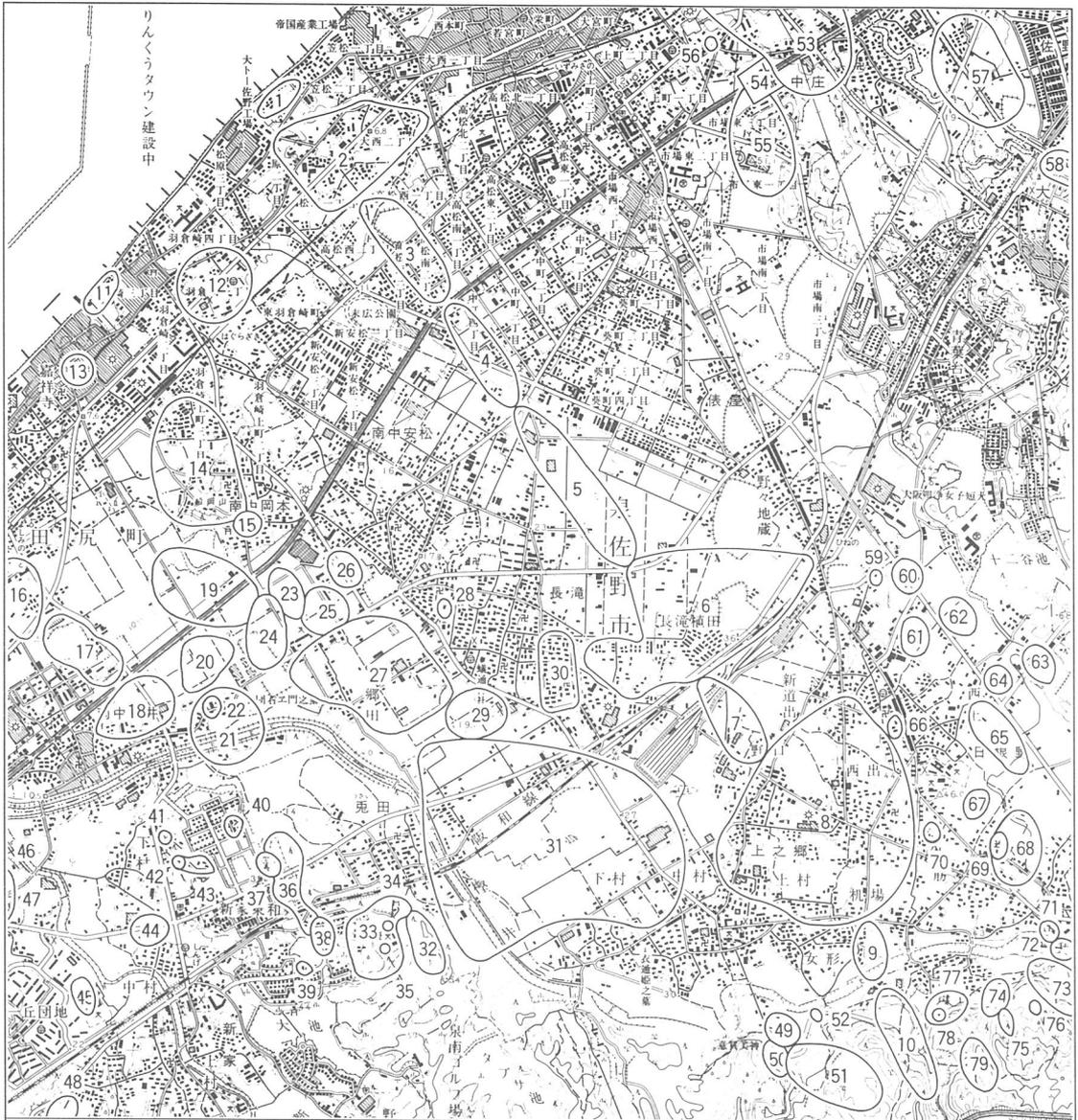
縄文時代晩期には樫井川沿いの沖積段丘上から洪積段丘にまたがる三軒屋遺跡内に集落が存在したようである。洪積段丘面の内陸にも上之郷遺跡が出現する。樫井川対岸のフキアゲ山東遺跡や佐野川沿いの上町東遺跡のように洪積段丘面と沖積段丘面との変換点付近に遺跡の出現を見る。

弥生時代には道ノ池遺跡、三軒屋遺跡、夫婦池遺跡などが出現する。旧樫井川沿いの沖積段丘面と洪積段丘面に立地する。弥生時代後半には棚原遺跡のように丘陵上にも小規模な集落が営まれていたようである。

古墳時代には三軒屋遺跡、船岡山遺跡などに集落が営まれていたようである。羽倉崎遺跡では製塩土器が採集されている。古墳は洪積段丘上に立地する城ノ塚古墳が周知されている。樫井川対岸の基盤山地上に鏡塚古墳が立地するほか、同じく対岸の洪積段丘面や丘陵には兎田古墳群などが立地しており、墓域と集落の関係が注目される。

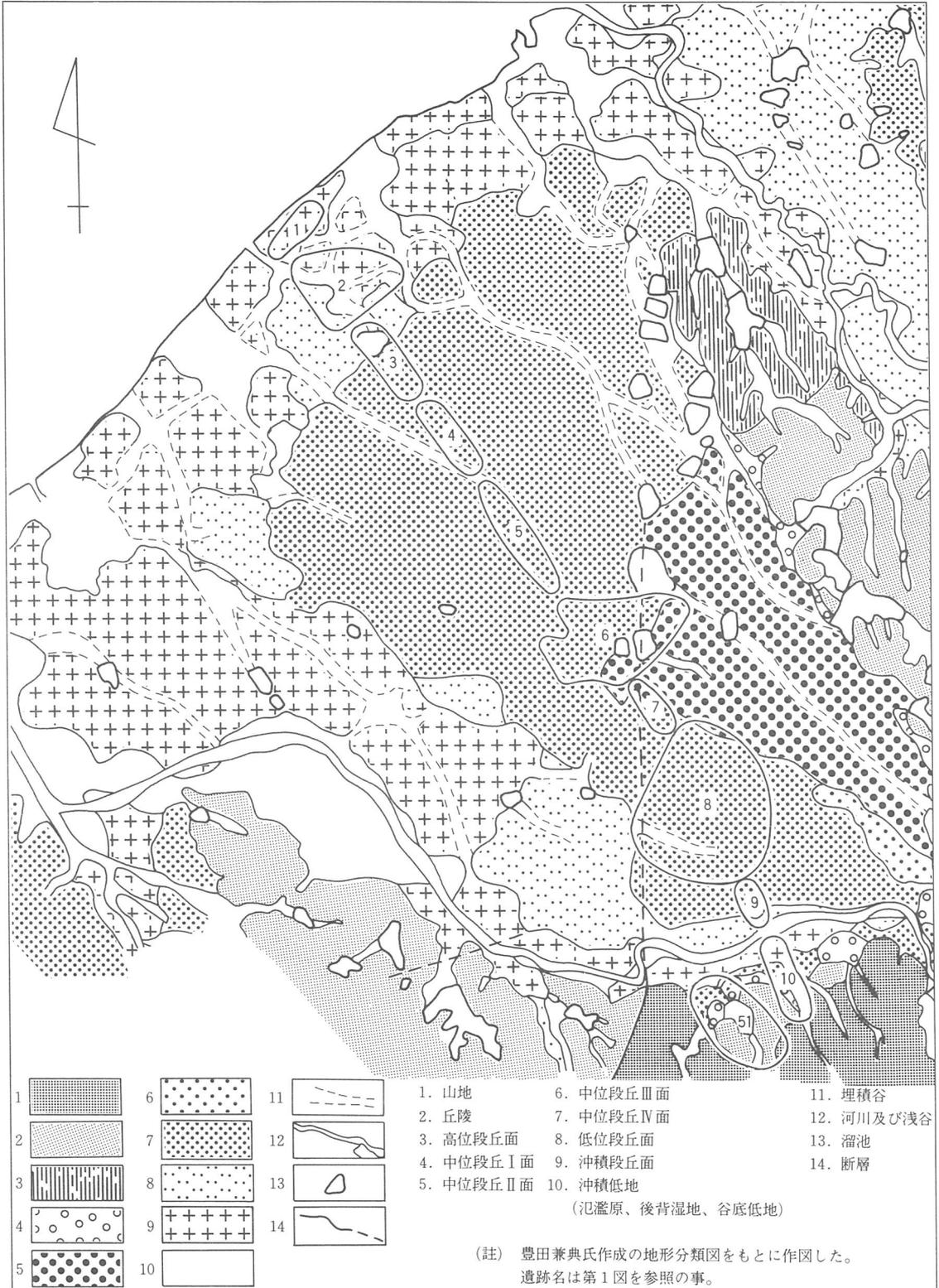
歴史時代には禅興寺や岡本庵寺などの寺院が出現する。樫井川沿いの沖積段丘面では条里制の土地区割が現われる。中世には日根荘が成立し、洪積段丘面の開発が行われる。

『和泉の国日根野村絵図』正和5年(1316)には当時のようすが描かれており、洪積段丘面と思われる絵図の中央部分は『荒野』の文字が見られ、まだ広範囲の開発が進んでいないことをうかがわせる。室町時代後半には、守護細川氏などの武士の侵入を受けて、荘園が機能しなくなっていたと思われる。



- | | | | |
|------------|--------------|-------------|--------------|
| 1 松原遺跡 | 21 樫井城跡 | 41 下村1号墳 | 61 小塚遺跡 |
| 2 中開遺跡 | 22 奥家住宅 | 42 下村2号墳 | 62 十二谷遺跡 |
| 3 末廣遺跡 | 23 岡ノ崎遺跡 | 43 新家オドリ山遺跡 | 63 新池尻遺跡 |
| 4 安松遺跡 | 24 道ノ池遺跡 | 44 新家遺跡 | 64 丁田遺跡 |
| 5 長滝遺跡 | 25 中宮浦遺跡 | 45 向井山遺跡 | 65 大坪遺跡 |
| 6 植田池遺跡 | 26 岸ノ下遺跡 | 46 一丘神社遺跡 | 66 北庄司邸の樟 |
| 7 郷之芝遺跡 | 27 諸目遺跡 | 47 海会寺跡 | 67 宮ノ前遺跡 |
| 8 日根野遺跡 | 28 城ノ塚古墳 | 48 狐池遺跡 | 68 野々宮遺跡 |
| 9 机場遺跡 | 29 ガイジョウ寺跡 | 49 向井代遺跡 | 69 総福寺天満宮本殿 |
| 10 棚原遺跡 | 30 禅興寺跡 | 50 意賀美神社本殿 | 70 垣外遺跡 |
| 11 羽倉崎遺跡 | 31 三軒屋遺跡 | 51 向井池遺跡 | 71 慈眼院金堂・多宝塔 |
| 12 羽倉崎東遺跡 | 32 兎田古墳群 | 52 上之郷牛神 | 72 日根野神社遺跡 |
| 13 嘉祥寺神社本殿 | 33 フキアゲ山東遺跡 | 53 湊遺跡 | 73 西ノ上遺跡 |
| 14 船岡山遺跡 | 34 フキアゲ山1号墳 | 54 壇波羅蜜寺跡 | 74 川原遺跡 |
| 15 岡本廃寺 | 35 フキアゲ山2号墳 | 55 壇波羅遺跡 | 75 向井山遺跡 |
| 16 田尻遺跡 | 36 新家古墳群 | 56 佐野王子跡 | 76 鏡塚古墳 |
| 17 夫婦池遺跡 | 37 新家オドリ山南遺跡 | 57 山出遺跡 | 77 母山遺跡 |
| 18 樫井西遺跡 | 38 フキアゲ山西遺跡 | 58 大久保B遺跡 | 78 母山近世墓地 |
| 19 船岡山南遺跡 | 39 引谷池竪跡 | 59 中嶋遺跡 | 79 梨谷遺跡 |
| 20 藤波遺跡 | 40 新家オドリ山東遺跡 | 60 岡口遺跡 | |

第1図 遺跡分布図 (上が北: S=25,000× $\frac{3}{4}$)



第2図 地形分類図

第2節 調査区の設定

発掘調査が終了した後に遺跡の性格や重要性を事業の工法と照らし合わせ、工法を決定するのであり、調査が完了すればその土地に対してはどのように手を加えても良いということではない。そのためにも、発掘調査は本来的には広い面積を同時に調査することが望ましいし、そうすることによって遺跡全体の把握がより可能になると考えられる。しかし、空港連絡道路の建設に当たっては空港の開港時期が決められており、道路の開通が開港の必須条件であることから、道路建設・発掘調査期間をそれぞれに遡って発掘調査の開始時期を決められたのではなく、両期間の大半を重複させて決められたようである。ところが、発掘調査を開始するための条件整備ができておらず、買収が終了し、立ち退きの完了した部分から調査を開始することになったため、本来の調査とはほど遠い形で始まった。ただ、当初は無駄が多いことからある程度まとまった範囲が調査可能になった段階で調査を開始していった。

調査区は遺跡ごとではなく、工区ごとに調査の着手順に5-1区・5-2区・6-1区・6-2区というように設定していった。しかし、買収が終了し、確実に調査が可能となり、番号を付けた調査区が開始直前に不可能であるとされ、事業者から「すぐにできる。」といわれ待ち続けて年度を2回も跨いだ調査区もある。同様に「早く調査してほしい。」といわれ、番号を付けて開始直前に「ちょっと待ってくれ。」といわれて待つうちに隣接地の調査開始後「一緒に調査してくれ。」といわれて欠番になった調査区もある。道路建設が時間的にきびしいということは理解できるのであるが、調査には調査の方法があり、必ずしも道路の建設が優先されるべきものでもないはずであるにも拘らず、当たり前のように自己の都合のみを押しつけようとする事業者の態度には辟易した。挙げ句の果てに、年度を追うごとに、住宅1件の立ち退き完了後その1件分の調査を事業者側が依頼してくるようになった。そのため、調査区的面積は100㎡にも満たない小さなものから3000㎡を超える大きなものまでまちまちで、調査区の形も多角形が多く一定していない。最終的には既に番号を付けた個人住宅の庭部分と建物部分を分けての調査依頼まで飛び出してきた。そのため、平成4年度には調査区を分割し、-1・-2とした調査区も登場した。

調査区があちらこちらに飛び散って非常にわかりづらい報告になっているが、その原因は事業者だけではなく、調査した担当班の班長にもあることは明らかであります。しかし、報告の段階で調査区を整然と並べ換えることはたやすいのですが、あえてそれをしなかったのはこれも調査の内容に関わると考えたからであります。

第3節 調査の経緯

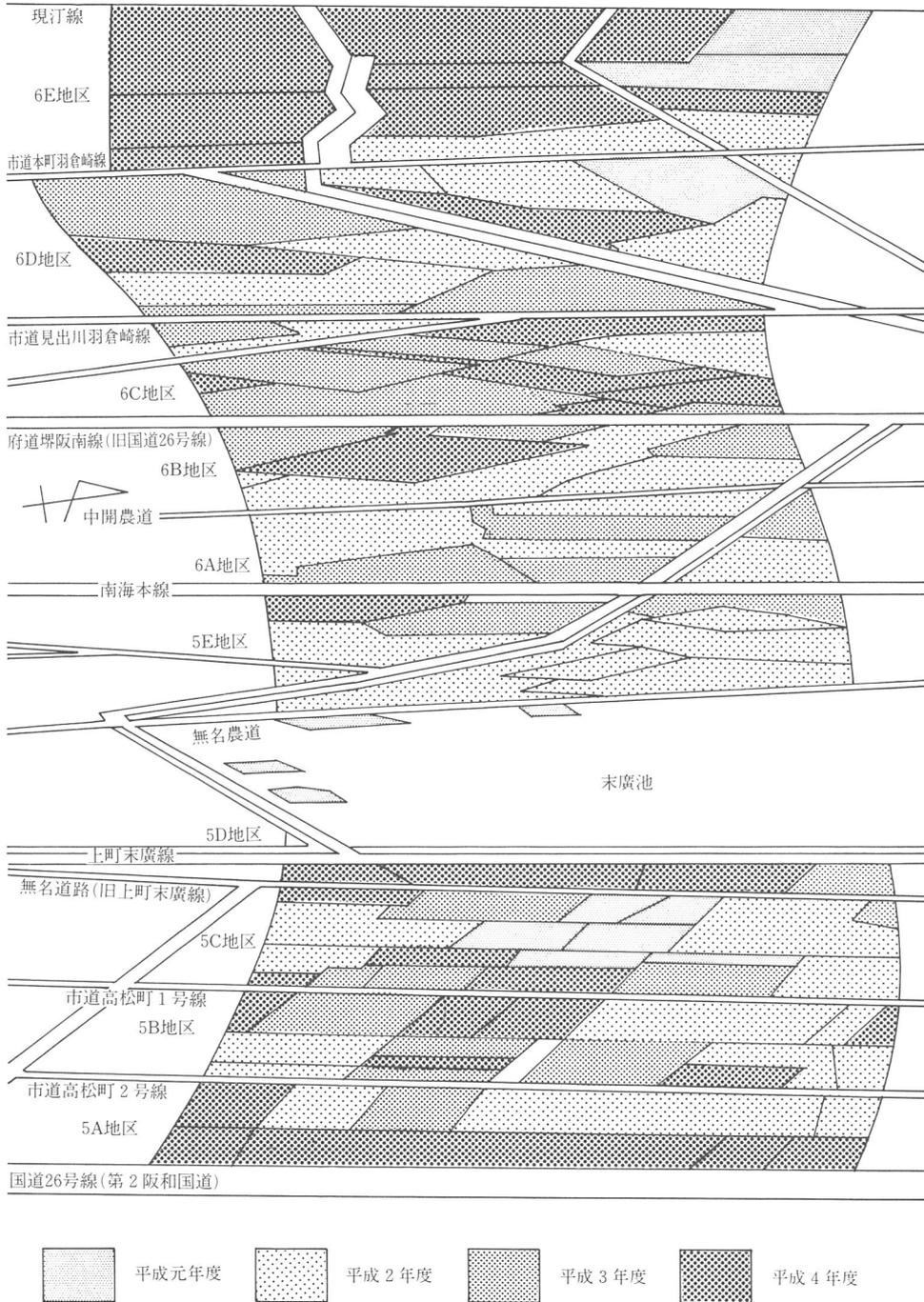
空港連絡道路予定地内の発掘調査は遺跡単位ではなく道路用地を横断する道路や鉄道により分割されて調査工事として発注された。そのため、国道26号線（第2 阪和国道）から南海本線までの間が第5 工区、南海本線から現汀線までの間が第6 工区となっている。末廣遺跡の調査対象面積は第5 工区と第6 工区のA・B 地区までを含めた部分で約63,500㎡、中開遺跡の調査対象面積は第6 工区のC・D 地区で約26,000㎡、松原遺跡の調査対象面積は第6 工区のE 地区で約21,000㎡である。

発掘調査は平成元年度の末に始まり、平成4 年度の秋に終了した。平成元年度は第5 工区を班長1 名で5-1～10区、第6 工区を班員1 名で6-1～3区の調査を実施した。第5 工区は遺跡名と同名の溜池（末廣池）が含まれており、5-1～4 区は堤を部分的に調査したが、時期的に新しく池底も掘り込まれており、池の調査は完了した。その他の調査区は近世～近代にかけての遺構・遺物がほとんどであった。第6 工区は6-1 区の調査開始と同時に周辺住民から騒音等のクレームがあり、調査の開始を急ぎすぎたため調査地周辺への説明不足を感じた。6-3 区では瓦器碗の破片が多量に出土した。調査終了面積は5,050㎡で、全体の4.5%が終了した。

平成2 年度は第5 工区を調査課第6 班、第6 工区を調査課第7 班が担当した。それぞれ班長以下4 名で、5-11～33区（19・21区を除く）、6-4～19区の調査を実施した。調査区の大半では近世～近代の遺構・遺物がほとんどであるが、5-23区では縄文時代の石匙が出土した。また、調査区が全体に飛び散っていることから、各遺跡の全体像が見え始めてきた。既存の道路部分については隣接調査区の結果を踏まえ調査の是非を決めることとした。調査を終了した調査区の大半は空き地や田畠であり、比較的障害の少ない土地が中心であった。調査面積は26,935㎡で、全体の約29%が終了した。

平成3 年度は組織が変わり、調査課第4 班が第5・6 両工区を担当する事になり、班長以下4 名で5-34～45区、6-20～37区（32区を除く）までを調査した。調査を終了した調査区は駐車場や個人住宅が中心であった。調査面積は25,525㎡で、全体の約52%が終了した。しかし、既存道路部分等を加えると約70%が終了したことになった。

平成4 年度は組織的な変更はなく、人員の変更のみで、班長以下3 名で5-19・46～62区、6-32・38～53区の調査を実施した。5-46区では瓦器碗、6-45区では弥生時代末の製塩土器、6-53区では弥生時代の蛸壺等を出土した。調査面積は25,570㎡で、道路予定地内の発掘調査を完了した。



第3図 年度別発掘調査区位置図

第2章 調査の概略

第1節 末廣遺跡

縄文時代の石匙、弥生時代の壺・石鏃、古墳時代の須恵器、中世の瓦器、近世の陶磁器等各時代の遺物を出土した。しかし、石匙は近世～近代の耕作土の中、須恵器は最終面である礫層上面の窪みに堆積した粘土層の中、石鏃・瓦器は浅い谷状の落ち込みより出土した。弥生時代の壺は溝の中であるが、中世の蛸壺とともに出土した。近世の陶磁器は旧耕作土、現耕作土、床土、井戸、鋤溝の中等あらゆるところから出土したが、近・現代の遺物とともに出土するものが多く、確実に近世と考えられる遺構や層からの出土は比較的少ない。

井戸・土坑・溝・鋤溝・畦・堤・谷・流路等多種類の遺構を多数検出した。しかし、井戸は古いものでも近世後半であるが、ほとんどが近・現代である。土坑からの遺物の出土は少なく、時期の不明なものが多いが、埋土の観察からはさほど古いものは無いようである。溝・鋤溝・畦・堤はほとんどが水田に伴うもので遺跡の南半部で検出したものほとんどが現代のものであり、一部さらに古いものが確認されているが、時期的にはさほど遡らないようである。北半部では弥生時代の壺の破片と中世の蛸壺を出土した溝があり、中世に遡る可能性を考えさせる。谷・流路は比較的古いと考えられ、最終埋没時期が中世と考えられるものもあるが、不明なものが多い。

縄文時代から中世まで確かに人間の痕跡を確認できたが、大規模に人間の手が加えられるようになったのは近世以降の水田開発と考えられる。

第2節 中開遺跡

弥生時代の壺、古墳時代の須恵器、奈良時代の須恵器、平安時代の黒色土器、鎌倉・室町時代の瓦器・陶器・蛸壺、近世の陶磁器等多種類の遺物を出土した。弥生時代の壺、古墳・奈良時代の須恵器、鎌倉・室町時代の瓦器はすべて単一の土層中より出土したもので、遺跡の東南側や西南側から流されて北端部と松原遺跡に再堆積したものと考えられる。平安時代の黒色土器は井戸から単独で、室町時代の陶器は長方形の落ち込み内より同時代の蛸壺とともに出土した。近世の陶磁器は旧耕作土、現耕作土、床土、井戸、鋤溝の中等あらゆるところから出土したが、近・現代の遺物とともに出土するものが多く、確実に近世と考えられる遺構や層からの出土は比較的少ない。

井戸・土坑・落ち込み・溝・鋤溝・谷・流路等多種類の遺構を多数検出した。時期的に限定できるものは非常に少ない。平安時代と考えられる井戸は、近世以降の井戸よりも径も小さく深度も浅く、明らかに異なっている。鎌倉・室町時代と考えられる土坑は大規模で長方形に段掘りされているが、遺構の目的は定かでない。谷は鎌倉・室町時代に埋没しており、弥生時代から鎌倉・室町時代までの遺物を包含している。調査地の中央南部に黒褐色粘土を埋土とする溝や土坑の一群があり、遺物はほとんど出土していないため明確な時期は不明であるが、かなり古い時代の遺構である可能性が考えられる。この他の遺構はおおむね末廣遺跡と同じような状況である。

位置的にも海岸から僅かに入った部分で、末廣遺跡よりも古い時代から明確な遺構が存在している。直接集落域等には当たっていないようであるが、調査区西南のごく近いところに弥生～古墳時代、東南に平安～室町時代の集落跡の存在が考えられる。

第3節 松原遺跡

弥生時代の壺・蛸壺・製塩土器・石鏃、古墳時代の須恵器、中世の瓦器、近世の陶磁器・塔婆等各時代の遺物を出土した。しかし、弥生時代の壺・蛸壺は海岸段丘下部の堆積礫層の中、弥生時代の製塩土器・石鏃は中・近世の谷の中、古墳時代の須恵器は中世の瓦器とともに谷の堆積土の中より出土した。近世の塔婆は井戸の中より出土した。近世の陶磁器は旧耕作土、現耕作土、床土、井戸、鋤溝の中等あらゆるところから出土したが、近・現代の遺物に伴うものが多く、近世の遺構や層からの出土は比較的少ない。

井戸・土坑・溝・谷・流路等多種類の遺構を多数検出した。しかし、井戸は古いものは塔婆を出土しており、近世後半であるが、ほとんどが近・現代である。土坑からの遺物の出土は少なく、時期の不明なものが多いが、埋土の観察からはさほど古いものは無いようである。溝はほとんどが水田に伴うもので遺跡の南半部で検出したもののほとんどが現代のものである。谷・流路は比較的古いと考えられるが、最終埋没時期の不明なものが多い。

弥生時代の遺物は蛸壺にしる製塩土器にしる直接集落内に無くても良いものが多い。蛸はもちろん海で取るし、製塩は火を使うから、集落から多少離れた海に近いところで作るであろうし、どちらかという集落に隣接した作業場の雰囲気は漂わせている。古墳・奈良時代は不明な点が多い。平安時代は井戸を検出していることから周辺に住んでいたものと思われるが、他に明確な遺構はない。鎌倉・室町時代も同様である。近世以降になって、水田等が広がったようである。

第3章 調査の結果

第1節 末廣・中開・松原遺跡の基本層序（付図1）

調査区域は関西新空港連絡道路予定地である。調査区域の広さは、第5工区が幅70～100m、長さ約650m、第6工区が幅約90～120m、長さ650mである。調査当時の地表面の高さは、末廣遺跡南端の国道26号線（第2阪和国道）に面した5-19区で標高12.3m、末廣遺跡内の第5工区と第6工区の境目にあたる南海本線付近の5-37区で標高7.5m、松原遺跡北端の現汀線付近の6-1区で3.6mを測る。

層序は、調査範囲が南端（国道26号線側）から北端現汀線にかけて全長1.3kmを測り、細長いため、調査区域全体にわたって大阪側（東側）の土層を基本とし、各調査区の土層と対応させた。

- | | |
|---------|---|
| 第I層 | 住宅・工場等の建物が存在した間の堆積土と、その解体時の瓦礫、廃材等を含む攪乱および盛り土である。 |
| 第II層 | 住宅・工場・道路等の建設時の盛り土である。 |
| 第III-a層 | 黒色土（10Y R2/1）で、現代の耕作土である。 |
| 第III-b層 | 灰黄褐色土（10Y R4/2）で、第III-a層の床土である。この層の上面で耕作に伴う溝や井戸を多数検出している。 |
| 第IV層 | 黒褐色土（10Y R3/2）で、第VIII層の上に堆積した腐植土である。6-53区の中央部の限られた範囲に広がっている。 |
| 第V層 | 黄灰色粘土（2.5Y 8/6）・灰色土（7.5Y 5/1）・褐灰色土（7.5Y R6/1）がブロックになった土である。1942年（昭和17年）の佐野飛行場建設時に盛られた整地土である。国道26号線と末廣池との間に挟まれた5-A・B・C地区の範囲に広がっている。陶磁器・瓦・土錘等多数の遺物が出土したが、近世以前の物は少なく、そのほとんどが近代以降の物である。 |
| 第VI層 | 褐灰色土（7.5Y R6/1）で、谷地形や段差面の低い部分に盛られた土である。遺物の出土量は極めて少ないが、近代以降の物はほとんどなく、近世末から近代初頭と考えられる。 |
| 第VII-a層 | 灰色土（5Y 4/1）で、耕作土である。出土遺物はほとんどないが、近世後半から末頃と考えられる。 |

- 第Ⅶ－b層 淡黄色土（5Y8/3）で、第Ⅶ－a層の床土にあたる。この層の上面で耕作に伴う溝や井戸を多数検出している。
- 第Ⅶ－c層 灰褐色土（7.5Y R5/2）で、第Ⅶ－a層と第Ⅶ－b層の下に堆積していた耕作土である。遺物の出土量が極めて少なく、近世後半と考えられるが、第Ⅶ－a層と大きな時間的隔たりはないと考えられる。
- 第Ⅶ－d層 黄灰色土（2.5Y6/1）で、第Ⅶ－c層の床土にあたる。この層の上面で耕作に伴う溝をわずかに検出している。

第Ⅶ層は耕作に伴う層で、a・b・c・dの4層に分けた。これらは谷地形や地山面の段差の低い部分（地下げした耕作面）に残っている。耕作土（第Ⅶ－a層・第Ⅶ－c層）は基本的に床土（第Ⅶ－b層・第Ⅶ－d層）を伴うが、伴わない部分もある。

- 第Ⅷ層 灰黄色砂（2.5Y7/2）で、6－4・51区から北方にかけて広がり、第Ⅱ・Ⅲ－a・Ⅲ－b層の下に堆積している。下部は褐灰色（10Y R4/1）気味で、所々に粘性が強い部分もある。北寄りほど砂の堆積は厚くなっていく。遺物の出土量は極めて少ないが、近世前半の陶磁器が出土した。
- 第Ⅸ層 青灰色細砂（5B6/1）で、6－53区の海岸寄りの限られた部分にだけ広がり、第2層の下に堆積している。下部は褐色味の強い色調となっている。出土遺物はなく年代は明らかでない。この層上面で溝を検出した。
- 第Ⅹ層 黒褐色土（5Y R3/1）で、南は6－4区と6－51区間、西は6－51区と6－44区間で、北・東は調査区域の大阪側まで広がる中世の遺物包含層である。下部は全体的にやや砂っぽい褐灰色（10Y R6/1）気味の色調となる。瓦器・土師器・陶磁器等多数の中世の遺物に混じって弥生時代～古墳時代の遺物が出土した。
- 第Ⅺ層 褐灰色砂（10Y R6/1）で、6－3区と6－51区間から海岸側にかけて広がり、第Ⅷ層または第Ⅹ層の下に堆積している。比較的締まっており北寄りほど堆積は厚い。またところによっては黒色味の強い色調となっている。下部に礫混じりの部分もみられる。遺物の出土はなく、年代は不明である。この層の上面で溝やピットなどを多数検出している。

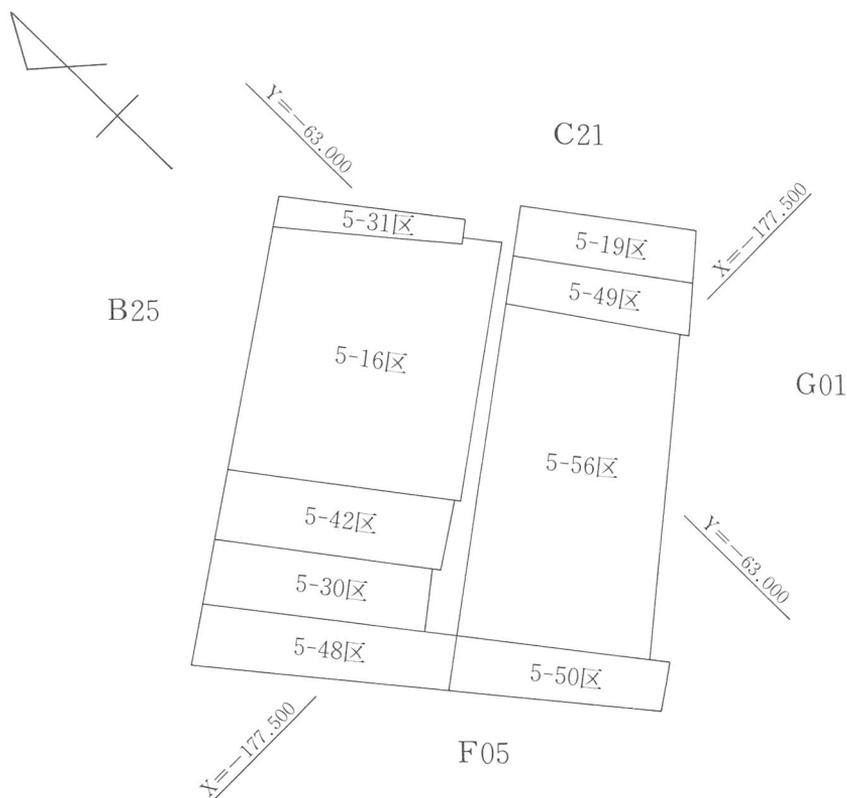
- 第Ⅻ層 暗青灰色砂（5B4/1）で、6-18区と6-?区間から海岸側にかけて広がり、第Ⅺ層の下に堆積している。北側に行くにしたがい砂層の堆積は徐々に厚くなる。ところによっては緑灰色味の強い色調となっている。下部は全体的に礫混じり砂層で灰色気味の強い色調となっており、植物遺体が多く含まれる。
- 第Ⅺ層 黄色粘土（2.5Y8/6：砂混じり）で、末廣遺跡南端に近い5-19・49・50・56区に広がっている。この層は、地山面である第Ⅹ・Ⅸ層の上に堆積しており、第Ⅹ層と色調が類似しているが、多少砂混じりである。数点の須恵器・土師器片が出土したが、小破片で層の年代の判定は難しい。
- 第Ⅹ層 青灰色砂（5B5/1）・浅黄色砂礫（5Y7/4）との互層で、6-53区の海岸寄りの限られた範囲に広がり、第Ⅸ層の下に堆積している。わずかであるが、弥生時代から古墳時代の遺物が出土している。
- 第Ⅸ層 黄色粘土（2.5Y8/8）で、段丘礫層（第Ⅷ層）の上に堆積した地山である。所によっては地形的影響を受けたのか、府道堺阪南線（旧国道26号線）周辺の6-B・C地区では赤褐色（2.5YR4/8）、また海岸部に近い6-E地区では緑灰色（7.5GY6/1）気味の強い色調となっている。この土層は、標高が高い国道26号線付近の5-A・B地区、末廣池にあたる5-45・62・59区、海岸寄りの6-48・53区を除けば、末廣・中開・松原遺跡を通じた遺構検出面であり、所々に人為的な段差がみられる。
- 第Ⅷ層 黄色礫（2.5YR8/8）で、当地域の下部に全面的に堆積している段丘礫層である。第Ⅸ層のみられないところでは地山面となる。礫層上面は、山側寄りの5-19区では標高がT.P.+11.7mであり、海岸方向に約1km離れた6-41区では標高がT.P.+4.4mで0.7%と緩やかな傾斜である。6-41区から約300m離れた6-2区では標高がT.P.+2.4mであり、ほとんど傾斜に変わりがない。6-2区から約50m離れた6-1区の海岸側端では標高がT.P.+0.1mであり、約5%と比較的急な傾斜となっている。海岸段丘以外は各遺跡とも緩やかな傾斜地に立地している。

第2節 末廣遺跡の調査

末廣遺跡は、国道26号線（第2阪和国道）と府道堺阪南線（旧国道26号線）とに挟まれた範囲で、遺跡分布図の上では東北から西南に長い楕円形である。今回の調査は遺跡のほぼ中央を東南から西北に幅約100mの範囲で行った。遺跡内を5-A～E・6-A・Bの7地区に大きく分けて調査した。

1. 5-A地区の調査

当地区は国道26号線と市道高松町2号線とに挟まれた範囲で、面積は約3,000㎡である。調査用の地区割りでは大C-3-5-B25・C21・F05・G01地区の交点が東南中央部付近にあたる。国道側は自動車の販売会社・駐車場・田畠等があり、5-19・49・56・50区に分割して調査した。市道側は田畠・空き地等があり、5-31・16・42・30・48区に分割して調査した。



第4図 末廣遺跡5-A地区調査区配置図

5-19区（付図1・図版4・5）

A地区の東隅で5-49区の東北東に隣接し、東南辺が国道26号線（第2阪和国道）に面する。調査直前は田畠であった。標高はP EでT.P.+12.50m、W KでT.P.+12.30mである。調査区の形状は底辺が東南を向いた台形である。調査面積は約220㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で近世の遺物が少量出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で井戸、土坑を検出した。

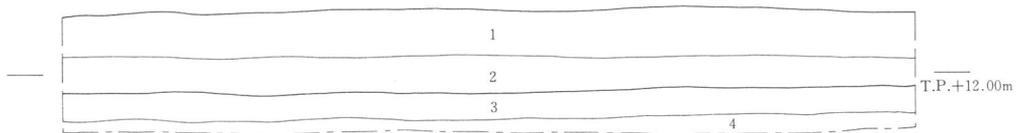
層序（第5図）

第1層 褐灰色土（10Y R4/1：第Ⅲ-a層）で、W KからR Gにかけて水平堆積し、R Gから西北に向かって高くなる。上面の高さはP FでT.P.+12.50m、W KでT.P.+12.30mである。層厚はP Fで0.2m、W Kで0.3mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

第2層 明黄褐色土（10Y R7/6：第Ⅲ-b層）で、V HからU Jを境として南方に堆積している。上面の高さはT.P.+12.10mである。層厚は0.2mを測る。床土である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦が出土した。

第3層 浅黄色粘土（2.5Y 7/3：第Ⅳ層）で、T IからU Gを境として南方向に緩やかに傾斜して堆積している。上面の高さはT IでT.P.+12.10m、W KでT.P.+11.95mである。層厚はT Iで0.15m、W Kで0.2mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。

第4層 浅黄色土（2.5Y 7/4：礫混じり：第Ⅴ層）で、T IからU Gで南方向に傾斜して堆積している。上面の高さはP FでT.P.+12.20m、W KでT.P.+11.80mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。

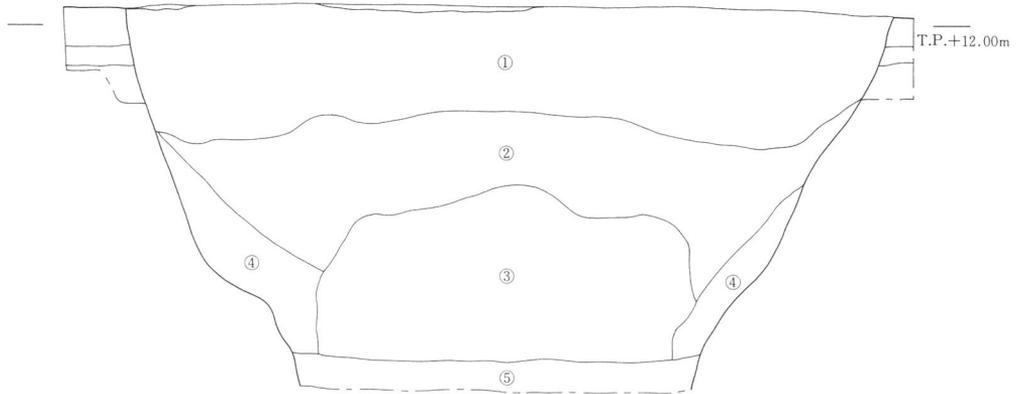


第5図 末廣遺跡5-19区基本土層断面図

遺構

01-OW（第6図） W Jの東北部で検出した楕円形の井戸である。南側は調査区外に続く。肩部長径3.9m・検出短径2.0m、底部長径2.2m・検出短径0.6m、深度1.55m以上を測る。掘り込み面は第2層上面である。断面形状は2段でテラスを有し上部は口の開いたU字形、下部は未完掘で不明であるが、調査の終了段階では口の開いた逆台形であった。二段目の長径は2.5m、検出短径は1.3mである。埋土は5層で、①黄橙色土（10Y R7/8:

灰色粘土ブロック・小石混じり)、②緑灰色粘土 (10G Y6/1)、③灰白色粘土 (N7/ : 暗灰色粘土・黄色粘土混じり)、④青灰色土 (5P B6/1 : 礫・青灰色土・明灰色粘土混じり)、⑤青灰色粘土 (5B5/1) である。遺物は①から近世陶磁器・瓦、②から近世以降の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。③・④からは遺物が出土しなかった。



第6図 末廣遺跡5-19区01-OW埋土断面図

02-00 UHの西部からUIの東部で検出した、「く」の字に屈曲した楕円形の土坑である。肩部長径3.8m・短径0.9m、底部長径3.3m・短径0.5m、深度0.45mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰褐色土 (5Y R5/2) である。遺物は出土しなかった。

03-00 THの西南部で検出した不整楕円形の土坑である。肩部長径2.6m・短径1.4m、底部長径1.9m・短径0.6m、深度0.45mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰褐色土 (5Y R5/2) である。遺物は出土しなかった。

まとめ

01-0Wは床土上面で検出している。断面では同一面で鋤溝を確認しており、灌漑用井戸と考えられ、近代以降のものである。02・03-00は地山上面で検出している。井戸よりも古い時期のものである。しかし、出土遺物が無く時期・性格ともに不明である。

5-49区 (付図1・5・図版4・5)

A地区の東南部で東南辺が国道26号線に面し、5-19区の西南に隣接している。調査直前は駐車場であった。標高はAGでT.P.+11.80m、SBでT.P.+11.90mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約330㎡である。

調査により確認した土層は基本的に6層あり、第1層で近・現代の、第2層から4層で

近世以降の遺物が出土した。遺構の検出面は2面で、第4層上面で井戸・土坑・溝・段、第5層上面で土坑を検出した。

層序（第7図）

第1層 褐灰色土（10Y R4/1：第Ⅲ-a層）で、全域に薄く残存している。上面の高さはT.P.+11.90mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

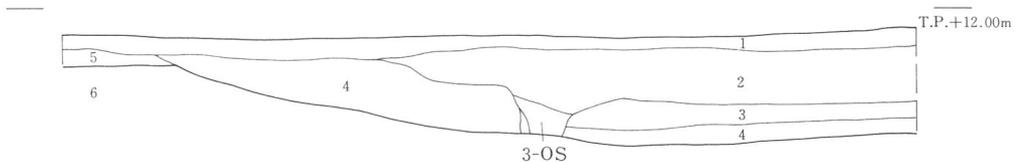
第2層 灰色土（5Y4/1：第Ⅶ-a層）で、TCからSEを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.80mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。

第3層 灰色土（5Y6/1：第Ⅶ-c層）で、TCからSEを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.60mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。

第4層 褐灰色粘土（10Y R4/1：小石・灰色粘土混じり：第Ⅶ-d層）で、TCからSEを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.50mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第5層 灰黄色粘土（2.5Y7/2：小石粒・砂粒混じり：第Ⅷ層）で、全域に堆積している。上面の高さはT.P.+11.40mである。層厚は0.1mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。

第6層 灰黄色土（2.5Y6/2：礫混じり：第Ⅷ層）で、TCからSEを境として0.4mの標高差があり、西北方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはT.P.+11.30mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第7図 末廣遺跡5-49区基本土層断面図

遺構

第1遺構面（付図1・図版4・5）

01-OW SDの西部で検出した、円形の井戸である。肩部直径2.0m、底部直径1.5m調査深度0.5mを測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査の終了段階ではU字形で

あった。確認した埋土は2層で、上から褐灰色土(5Y R5/1)が0.2m、緑灰色粘土(5G 6/1)が0.3mである。遺物は褐灰色土から近世以降の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

02-00 TDで検出した南東部が突出した長い楕円形の土坑である。西北端は攪乱孔により切られている。長軸が東南から西北に向いている。肩部検出長径21.0m・短径4.5m、底部検出長径18.0m・短径3.2m、深度0.35mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層であり、灰色土(5Y 6/1:小礫混じり)である。遺物は近世～近代の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

03-0S SEからSDで緩やかに蛇行してTCまで伸びる溝である。西は5-56区の15-0Sに続く。検出長8.3m、幅0.4m、深度0.05～0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層であり、灰色土(5Y 6/1)である。遺物は出土しなかった。

04-0Z SEからTCで検出した第5層を削り込んだ段である。西南西から東南東に伸び、北側が低くなっている。高低差は0.2mであり、上段面はT.P.+11.80mで、割合平坦である。下段面はT.P.+11.60mで、同じく平坦である。低い部分には第3・4層が堆積していた。5-56区の20-0Zにつながっている。

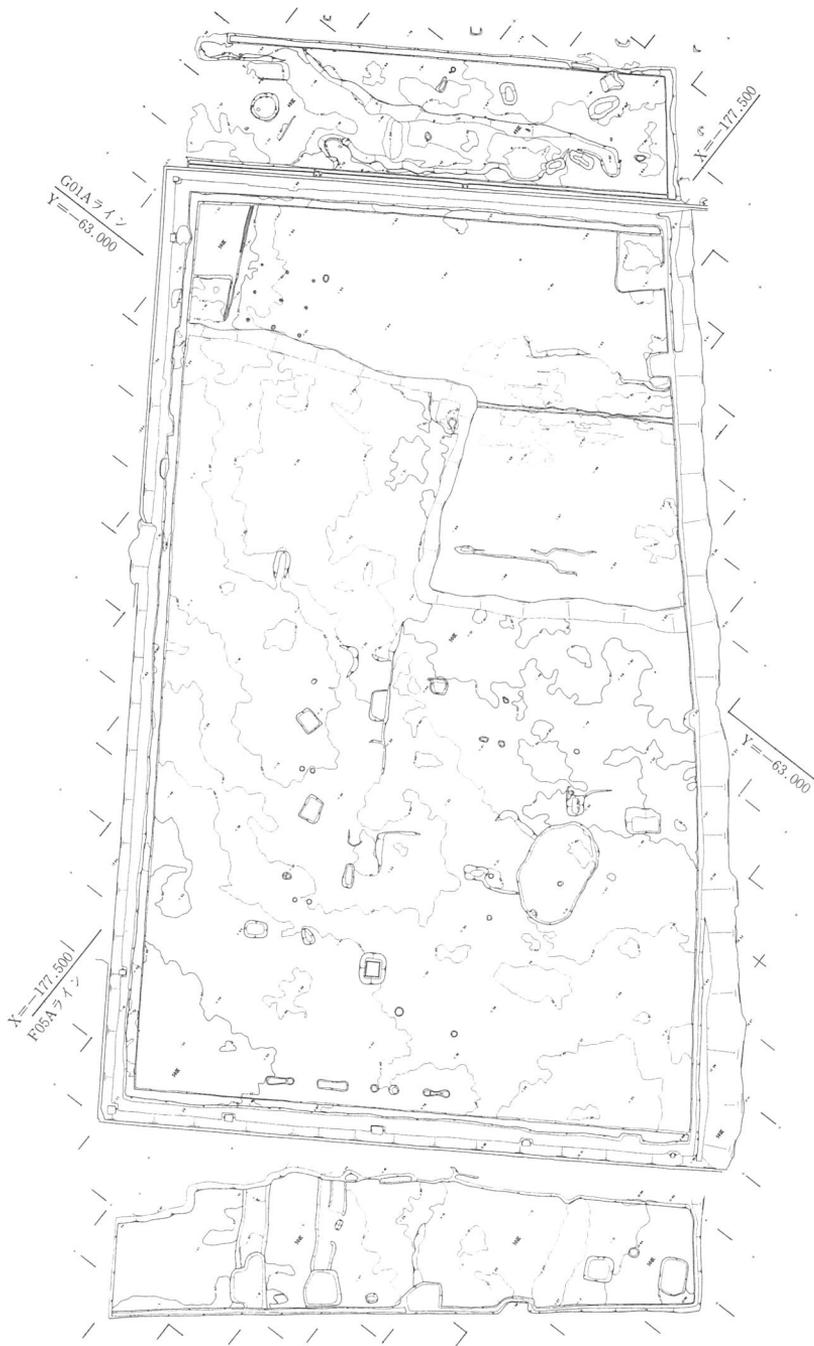
第2遺構面(付図5第8図・図版5)

05-00 XFの東北部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸が南から北に向いている。肩部長径1.8m・短径0.8m、底部長径1.2m・短径0.3m、深度0.4mを測る。断面形状は逆台形である。埋土は1層であり、灰褐色土(5Y R4/2)である。遺物は出土しなかった。

06-00 XFの北部で検出したくびれた不整楕円形の土坑である。長軸が東から西に向いている。肩部長径1.3m・短径0.6m、底部長径0.8m・短径0.4m、深度0.4mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰褐色土(5Y R4/2)である。遺物は出土しなかった。

07-00 VFの東部で検出した楕円形の土坑である。長軸が西南から東北を指す。肩部長径1.6m・短径1.0m、底部長径1.0m・短径0.5m、深度0.3mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰褐色土(5Y R4/2)である。遺物は出土しなかった。

08-00 XGの東北部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸が東南から西北に向いている。肩部長径2.3m・短径1.2m、底部長径1.4m・短径0.7m、深度0.35mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰褐色土(5Y R4/2)である。遺物は出土しなかった。



第8図 末廣遺跡 5-49・56・50区第2遺構面平面図

09-00 UFで検出した隅丸三角形の土坑である。肩部長径1.1m・短径0.4m、底部長径0.9m・短径0.2m、深度0.2mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰褐色土(5Y R4/2)である。遺物は出土しなかった。

まとめ

01-0W、02・03-00、04-0Zは第1遺構面床土上面で検出している。耕作に伴う遺構で、近代以降の時期と推定される。第2遺構面で検出した05~09-00は5-19区東南部の02・07-00と一連のものと推定される。出土遺物が無く、時期・性格はともに不明である。

5-56区(付図1・5・図版4・6)

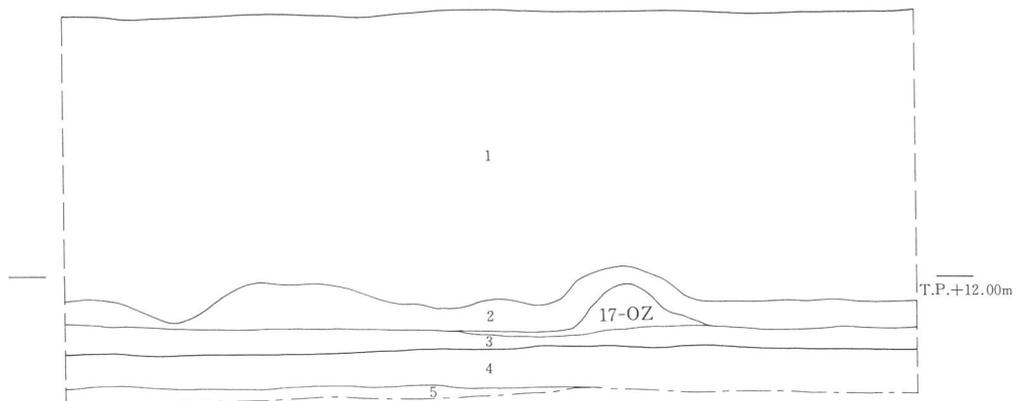
A地区の南部で、東南辺が国道26号線(第2阪和国道)に面し、5-49区の西南に隣接している。調査直前はトヨタカラー販売株式会社の営業所と駐車場であった。標高はT.P.+13.40mである。調査区の形状は長辺の一边が西北を向いた四角形である。調査面積は約2,330㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1・2層で近・現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第4層上面で溝、畦畔、鋤溝、段を検出した。

層序(第9図)

第1層 褐色土(黄色土・灰色土混じり：第II層)で、全域に水平堆積している。層厚は1.5mを測る。盛土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 褐灰色土(5Y R5/1：第III-a層)で、全域に水平堆積している。上面の高



第9図 末廣遺跡5-56区基本土層断面図

さはT.P.+11.90mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 淡黄色粘土（5Y8/4：第Ⅲ層）で、西南部を中心に部分堆積している。上面の高さはT.P.+11.70mである。層厚は0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

第4層 浅黄色粘土（5Y7/3：第Ⅳ層）で、西南部に向かって厚くなり、全域に広がっている。上面の高さはT.P.+11.60mである。層厚は0.2mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。

第5層 灰黄色土（2.5Y6/2：礫混じり：第Ⅴ層）で、全域に広がっている。上面の高さはT.P.+11.40mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。

遺構

01-O W D Rの東南部からE Rの東北部にかけて検出した隅丸長方形の井戸である。底部には方形縦板組の木枠が残る。長軸が西南から東北に向いている。肩部長径2.4m・短径2.0m、底部長径1.2m・短径1.2m、深度0.8m以上を測る。断面形状は逆台形である。確認した埋土は2層で、上から褐灰色土（5Y R5/1）が0.3m、灰オリーブ色粘土（5Y5/2）が0.5mである。遺物は褐灰色土から近世以降の陶磁器・瓦、灰オリーブ色粘土から近世以降の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

02-O S Y BからA Cを通してC Dに向かって東南から西北に直線的に伸びる溝である。西北端は攪乱孔により切られ、東南端は調査区外に続く。検出長13.5m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

03-O S V Aの東部からU Aに向かって東南から西北に直線的に伸びる溝である。西北端は20-O Zの段により切られ、東南端は浅くなり消滅する。検出長5.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

04-O S A YからX Xを通してV Wに向かって東南から西北に直線的に伸びる溝である。西北端は5-16区の32-O Sに続き、東南端はA Yの西北部で11-O SにT字形に交わる。Y Xの東南部で10-O Sを切る。検出長16.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

05-O S Y Xの南部からX Wを通してV Vの東部に向かって東南から西北に直線的に伸びる溝である。西北端は調査区外に伸びるが5-16区に直接つながる溝はない。検出長

15.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

06-OS XTの南部からWWを通してUYの東南部に向かって西南から東北に直線的に伸びる溝である。西南端は07-OSにT字形に交わり、東北端は13-OSにT字形に交わる。WWで05-OSと直交し、04-OSに切られている。検出長25.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

07-OS BUの北部からXTの西部まで東南から西北に向かって直線的に伸びる溝である。08-OSの中にある。西北端は調査区外に伸びるが、5-16区に直接つながる溝はない。東南端は浅くなり消滅する。検出長11.8m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/2）である。遺物は出土しなかった。

08-OS YAの東部から西南方向に直線的に伸び、BUの東部で直角に屈曲し、XTの西部までL字形に伸びる溝である。西北端は調査区外に伸びるが、5-16区には直接つながる溝はない。東北端は攪乱孔により切られている。AYの西北部で04-OS、BUの東部で10-OSを切る。検出長36.2m、幅0.4~0.7m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OS XAの東南部から北北西に向かってVYの東部まで直線的に伸びる溝である。東南東端は攪乱孔により切られ、北北西端はVYの東部で終わる。検出長11.0m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

10-OS BUの東北部から東北に向かってYAの東北部まで直線的に伸びる溝である。東北端は攪乱孔により切られ、西南端は08-OSにより切られている。検出長22.0m、幅0.4~0.6m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

11-OS YBからACを通してCDに向かって直線的に伸びる溝である。西北端は攪乱孔により切られ、東南端は調査区外に続く。検出長13.5m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

12-OS AWからYAまで西南方向に直線的に伸びる溝である。東北端は攪乱孔により切られ、西南端は08-OSと交差する。検出長16.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。

断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

13-O S U YからX Bまで東南方向に直線的に伸びる溝である。東南端は攪乱孔により切れ、西北端は20-O Zの段につながる。検出長15.0m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

14-O S B UからY Aまで西南方向に直線的に伸びる溝である。東北端は攪乱孔により切れ、西南端は08-O Sと交差する。検出長20.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

15-O S T CからU Aまで東北東方向に20-O Zの下に沿って直線的に伸びる溝である。東北東端は5-49区の03-O Sに続く。検出長8.0m、幅0.1m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

16-O Z F Yの東北部からC Xの南部まで西北方向に直線的に伸びる畦である。上幅0.5m、下幅0.8m、高さ0.15mを測る。第4層を削り残しており、断面形状は台形を呈する。遺物は出土しなかった。

17-O Z G Wの東南部からC Tの東北部まで西北方向に直線的に伸びる畦である。F Vの東部からE Uの東北部までは攪乱により消失している。上幅0.5m、下幅0.8~1.0m、高さ0.15mを測る。第4層を削り残しており、断面形状は台形を呈する。遺物は出土しなかった。

18-O Z A YからD Bで検出した鋤溝群である。条数は約15条あり、東南から西北に伸びている。長さ2.0~14.0m、幅0.2~0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

19-O Z V BからB Eで検出した鋤溝群である。条数は約10条あり、東南から西北に伸びている。長さ1.0~6.0m、幅0.1~0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

20-O Z T Bの東部からU Yの東部まで西南西方向に直線的に伸び、西北方向にはほぼ直角に屈曲する段である。段の北側が第4層を削り込んでおり低くなっている。高低差は0.25mで段の低位面はT.P.+11.40mである。低位部の堆積層は灰色土(5Y5/1)である。

遺物は出土しなかった。

まとめ

2～数条の平行して伸びる溝、多数の平行する鋤溝、畦畔、段、井戸を検出しているが、調査区西南部では地山が削平されたためか確認できなかった。これらの遺構は出土遺物がほとんど無く、時期は明らかでない。大半は近代以降の耕作に伴うものと推定される。溝、鋤溝、畦畔の方向を見ると、全体的に大きく南南東から北北西へ伸びるが、現況の地割りと同一方向のものと、若干北へ振るものの2つに分けることができる。

5-50区（付図1・5・図版4・7）

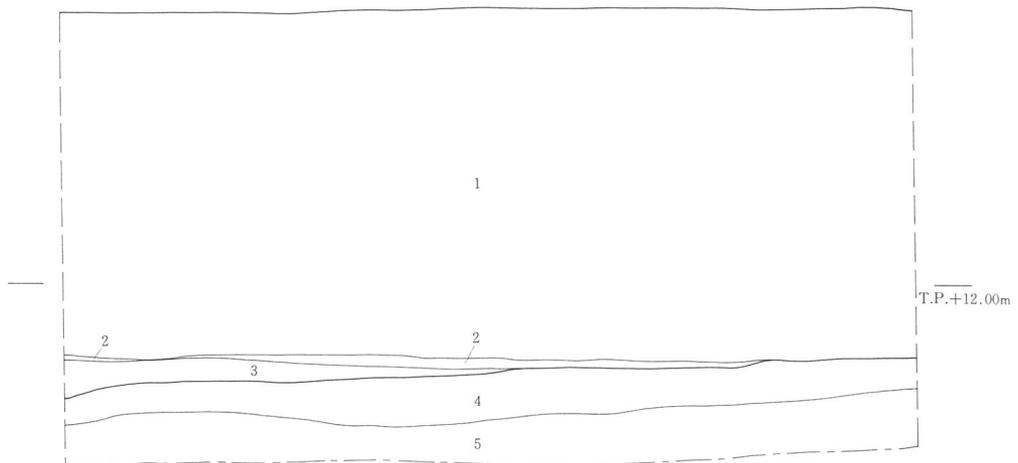
A地区の南隅で5-56区の西南に隣接している。調査直前は日産サニー販売株式会社の営業所であった。標高はLQでT.P.+13.40m、ELでT.P.+13.40mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた四角形である。調査面積は約510㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1・2層で近・現代の、第3層で古墳時代の遺物が出土した。第4層以下は地山であり、遺構は検出されなかった。

層序（第10図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に水平堆積している。層厚は1.8mを測る。盛土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 黒色土（2.5Y2/1：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.60mである。層厚は0.1mを測る。旧耕作土である。遺物は近・現代の陶磁



第10図 末廣遺跡5-50区基本土層断面図

器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 黄橙色粘土（7.5Y7/8：第Ⅲ層）で、I OからHPを境として南東方向に堆積している。上面の高さはT.P.+11.50mである。層厚は0.2mを測る。遺物包含層である。遺物は数少ないが、時期不明の土師器片と古墳時代の須恵器甕の体部破片が出土した。

第4層 淡黄色粘土（2.5Y8/4：第Ⅳ層）で、I OからHPを境として南東方向に堆積している。上面の高さはL QでT.P.+11.30mである。層厚は0～0.2mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。

第5層 淡黄色土（2.5Y8/3：礫混じり：第Ⅴ層）で、全域に広がっている。上面の高さはL QでT.P.+11.20m、E LでT.P.+11.50mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。

まとめ

ひどく攪乱を受け、耕作土直下が第4層ないし第3層となり、遺構は検出しなかった。しかし、調査区東南部では第3層から古墳時代の須恵器の小破片が出土した。

5-31区（付図1・図版4・7）

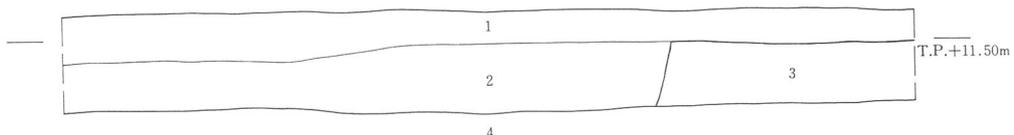
A地区の北隅で、東北辺が5-16区の東北東に隣接し、西北辺が市道高松町2号線に面する。調査直前は田畠であった。標高はP CでT.P.+11.75mである。調査区の形状は底辺が東北を向いた台形である。調査面積は約200㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で近・現代の遺物を出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で土坑、溝、鋤溝、段を検出した。

層序（第11図）

第1層 褐灰色土（5Y R5/1：第Ⅲ-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.75mである。層厚は0.25mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 褐灰色粘土（10Y R5/1：第Ⅶ-a層）で、I YからJ Wを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.50mである。層厚は0.2mを測る。



第11図 末廣遺跡5-31区基本土層断面図

旧耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

第3層 浅黄色粘土(2.5Y7/4：第Ⅳ層)で、I YからJ Wを境として0.3mの標高差があり、北側が低くなっている。上面の高さはNDでT.P.+11.40m、GWでT.P.+11.10mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第4層 明黄褐色土(10Y R6/6：礫混じり：第Ⅴ層)で、K AよりL Yにかけて礫混じりとなる。上面の高さはT.P.+11.00mで、段丘礫層である。遺物は出土しなかった。

遺構

01-00 I Wの東北部からI Xの西北部で検出した隅丸五角形の土坑である。西北部は04-0Zに切られる。肩部長径3.1m・短径1.5m、底部長径3.0m・短径1.3m、深度0.5mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5Y R6/1)である。遺物は出土しなかった。

02-0S GWからI Wまで南方向に直線的に伸びる溝である。北端は調査区外に続き、南端は5-16区の26-0Sに続く。検出長8.0m、幅0.5m、深度0.5mを測る。断面形状は逆台形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1：礫混じり)である。遺物は出土しなかった。本来は礫詰の暗渠であったため礫が多量に混入していた。

03-0S I Wの東南部からI Xの東北部まで06-0Zの下に沿って東北方向に直線的に伸びる溝である。東北端は調査区外へ伸び、西南端は5-16区の27-0Sに続く。検出長4.0m、幅0.4m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

04-0Z G VからH Wで検出した鋤溝群である。条数は5条あり、西北から東南に伸びている。長さ2.7~3.5m、幅0.1~0.3m、深度0.05~0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

05-0Z K Yで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、西南から東北に伸びている。長さ4.0m、幅0.2~0.4m、深度0.05~0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。35-0Zと重なる部分があり、切っている。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

06-0Z I XからI Wまで西南方向に直線的に伸びる第4層を削り込んだ段である。高低差は0.25mであり、西北側が低くなっている。段の上面はT.P.+11.35mで、割合平坦である。下面はT.P.+11.10mで、同じく平坦である。低い部分には褐灰色粘土(10Y R5/1)が堆積していた。5-16区の36-0Zにつながる。

まとめ

溝、鋤溝、段は出土遺物がほとんど無く、時期は明らかでない。近代以降の耕作に伴うものと考えられる。

5-16区（付図1・図版4・8）

A地区の西北部で、西北辺が市道高松町2号線に面し、5-31区の西南に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はHUでT.P.+11.65mである。調査区の形状は底辺が東南を向いた台形である。調査面積は2,260㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で近・現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で井戸、土坑、溝、鋤溝、段を検出した。

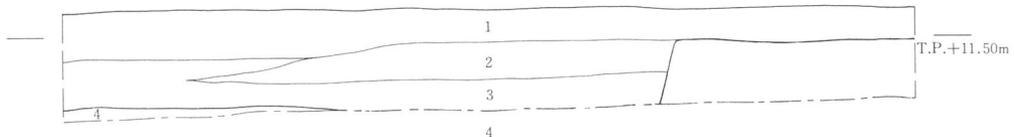
層序（第12図）

第1層 褐灰色土（5Y R5/1：第Ⅲ-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.65mである。層厚は0.2mを測る。現代の耕作土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 褐灰色粘土（10Y R5/1：第Ⅶ-a層）で、JWからPMを境とし、段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.45mである。層厚は0.4mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第3層 浅黄色粘土（2.5Y 7/4：第Ⅳ層）で、JWからPMを境として0.35mの高低差で堆積している。上面の高さはHU～JWでT.P.+11.05m、JW～PCでT.P.+11.40mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第4層 明黄褐色土（10Y R6/6：礫混じり：第Ⅳ層）で、LYよりPCにかけて礫混じりとなる。上面の高さはT.P.+11.05mで、段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第12図 末廣遺跡5-16区基本土層断面図

遺構

01-OW（第13図） JUの東南部からJVの西南部にかけて検出した楕円形の井戸である。西南側が02-OWにより切られている。石組の枠があり、人頭大の石を3段まで確認した。肩部長径3.0m・短径2.3m、底部長径2.5m・短径1.8m、深度0.7m以上を測る。

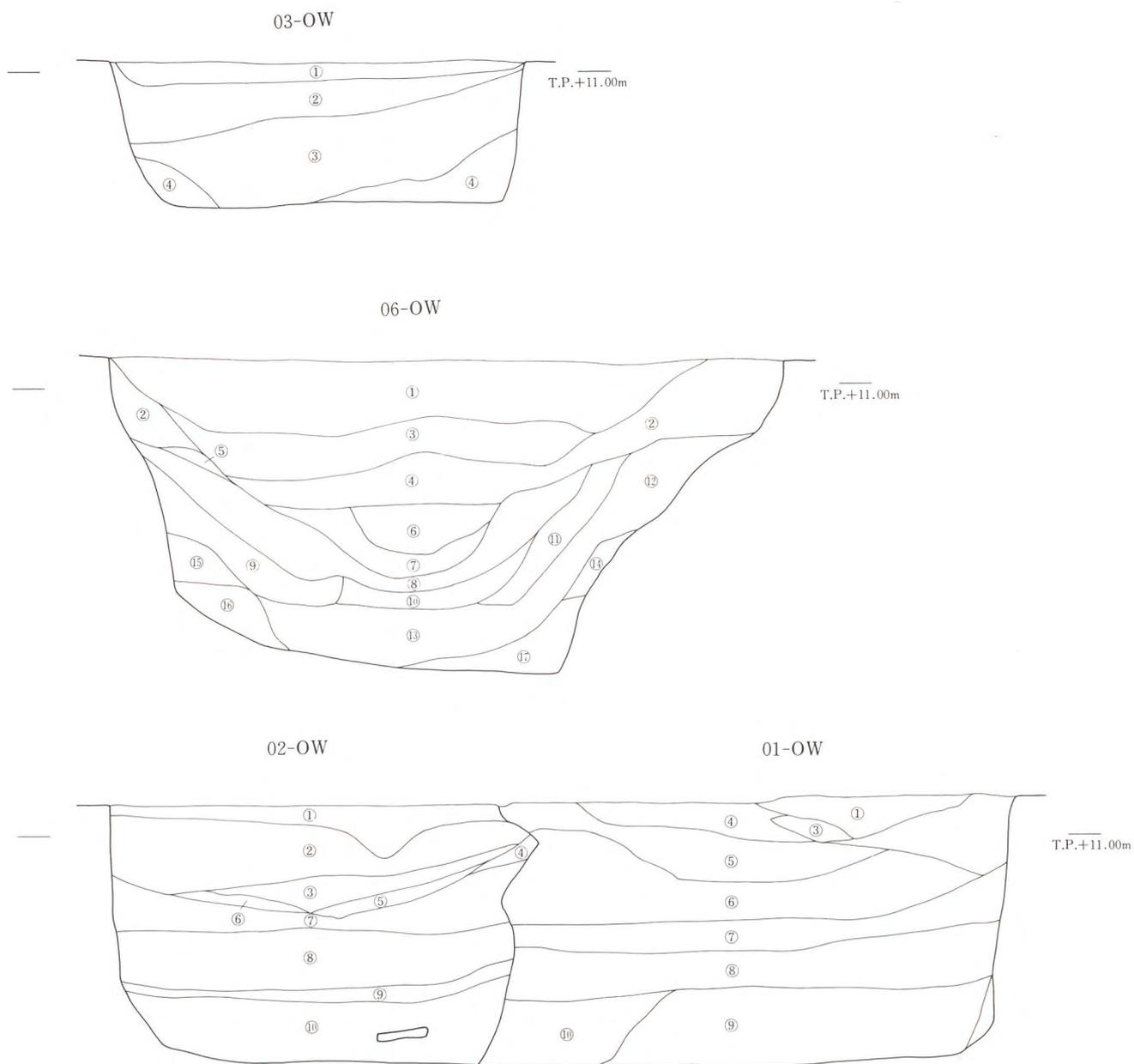
断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は10層で、①灰色砂（7.5Y6/1：褐色粒混じり）、②黄色粘土（2.5Y8/8）、③灰色砂（10Y5/1）④灰色砂（7.5Y5/1）、⑤灰オリーブ色砂（7.5Y6/2）、⑥灰色粘質砂（10Y6/1：礫混じり）、⑦褐色粘土（10Y R6/1：灰色粘土ブロック混じり）、⑧暗青灰色粘土（5P B4/1）、⑨暗青灰色粘土（10B G4/1：暗灰色ブロック混じり）、⑩淡黄色粘土（5Y8/3：粗砂混じり）である。遺物は④～⑧で近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

02-OW（第13図） KUの北部からJUの南部にかけて検出した円形の井戸である。東北側で01-OWを切っている。肩部直径3.1m、底部直径2.5m、深度0.75m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は10層で、①灰白色砂（N7/0）、②浅黄色粘土（7.5Y7/3）、③オリーブ灰色粘土（10Y6/2）④浅黄色粘土（5Y8/3）、⑤浅黄色粘土（7.5Y7/3）、⑥オリーブ灰色粘土（5G Y6/1）、⑦オリーブ灰色粘土（10Y5/2）、⑧オリーブ灰色粘土（2.5G Y5/1：黄灰色・暗灰色粘土ブロック混じり）、⑨オリーブ灰色粘土（2.5G Y6/1：明灰青色粘土ブロック混じり）、⑩灰色粘土（5Y4/1：オリーブ灰色粘土ブロック混じり）である。遺物は③・④・⑧・⑩から近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

03-OW（第13図） MPの北部で検出した楕円形の井戸である。西南側で04-OWを切っている。肩部長径3.4m・短径2.8m、底部長径2.9m・短径2.2m、深度0.7m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。確認した埋土は4層で、①褐灰色土（7.5Y R6/1）、②橙色粘土（7.5Y R7/6）、③灰黄褐色粘土（10Y6/1：暗灰色粘土ブロック混じり）、④灰色粘土（N6/0）である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦が出土した。

04-OW MOの東部からMPの西南部で検出した楕円形の井戸である。東北側を03-OW、西南側を05-OWに切られている。肩部長径3.5m・検出短径2.0m、底部長径2.4m・検出短径1.5m、深度0.65m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。確認した埋土は3層で、上からオリーブ灰色粘土（5G Y6/1）が0.3m、灰色粘土（5Y8/3）が0.2m、灰色土（7.5Y6/1）が0.15mである。遺物はオリーブ灰色粘土から近世以降の陶磁器が出土した。

05-OW MOの東南部からNOの北部で検出した楕円形の井戸である。東北側で04-OWを切っている。肩部長径1.9m・短径1.6m、底部長径1.7m・短径1.4m、深度0.95m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。確認



第13图 末廣遺跡 5-16区01・02・03・06-OW埋土断面図

した埋土は4層で、上から灰色粘土（5Y4/1：暗青灰色粘土ブロック混じり）が0.2m、オリーブ色粘土（2.5GY5/1：暗灰色粘土ブロック混じり）が0.3m、オリーブ灰色粘土（5GY6/1）が0.2m、灰色土（7.5Y6/1）が0.25mである。遺物は灰色粘土・灰色土から近世以降の陶磁器・瓦が出土した。

06-OW（第13図） KUの東南部からLVの西北部で検出した楕円形の井戸である。肩部長径4.5m・短径4.0m、底部長径3.0m・短径2.5m、深度1.5mを測る。断面形状は二段で上部は口の開いたU字形、下部はU字形である。埋土は17層で、①灰黄色土（2.5Y6/2：砂・小礫混じり）、②灰黄色土（2.5Y6/2：拳大の礫混じり）、③明黄褐色土（2.5Y7/6：拳大の礫混じり）、④明黄褐色土（2.5Y7/6：砂・礫混じり）、⑤暗灰黄色粘土（2.5Y5/2）、⑥灰黄色粘土（2.5Y7/2：小石混じり）、⑦黄色粘土（2.5Y7/8）、⑧緑灰色粘土（10G6/1）、⑨灰赤色粘土（10R6/2）、⑩灰色粘土（5Y4/1：砂混じり）⑪灰黄色土（2.5Y6/2：砂・粘土混じり）、⑫灰色粘土（5Y6/1）、⑬灰色土（5Y5/1：砂混じり）、⑭にぶい赤橙色土（10Y6/3：砂・粘土混じり）、⑮浅黄色粘土（2.5Y7/3：砂混じり）、⑯灰白色粘土（2.5Y8/1：砂混じり）、⑰灰色粘土（N5/1：砂混じり）である。遺物は①・④・⑧層より近世以降の陶磁器・瓦が出土した。

07-OO RXの西部で検出した隅丸長方形の土坑である。肩部長径0.5m・短径0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5YR6/1）である。遺物は出土しなかった。

08-OO NOの西部で検出した不整楕円形の土坑である。肩部長径0.9m・短径0.6m、底部長径0.7m・短径0.5m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5YR6/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OO NNの東南部で検出した楕円形の土坑である。肩部長径0.5m・短径0.4m、底部長径0.4m・短径0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5YR6/1）である。遺物は出土しなかった。

10-OO ONの北部で検出した円形の土坑である。肩部直径0.3m、底部直径0.2m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5YR6/1）である。遺物は出土しなかった。

11-OO TRの西北部で検出した楕円形の土坑である。東南側を28-OZに切られている。肩部長径1.5m・短径1.0m、底部長径1.3m・短径0.9m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5YR6/1）である。遺物は出土し

なかった。

12-00 QSの東南部で検出した不整多角形の土坑である。東南側を28-OZに切られている。肩部長径1.2m・短径1.1m、底部長径1.1m・短径0.7m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

13-00 OSの西南部で検出した隅丸方形の土坑である。肩部長径1.2m・短径1.2m、底部長径0.9m・短径0.6m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

14-00 NSの東北部で検出した円形の土坑である。東北側を28-OZに切られている。肩部直径0.5m、底部直径0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

15-00 QWの西南部で検出した隅丸長方形の土坑である。肩部長辺1.6m・短辺0.4m、底部長辺1.4m・短辺0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

16-00 RWの北部で検出した円形の土坑である。肩部直径0.7m・底部直径0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

17-00 SXの中央部で検出した楕円形の土坑である。南側を側溝に切られている。肩部長径0.9m・検出短径0.4m、底部長径0.6m・検出短径0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

18-00 NWの中央部で検出した不整円形の土坑である。肩部直径0.7m、底部直径0.6m、深度0.15mを測る。断面形状は口の開いた浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

19-00 NWの中央部で検出した楕円形の土坑である。中央部を26-OSに切られる。肩部長径0.7m・短径0.6m、底部長径0.6m・短径0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

20-00 NWの東南部からOWの東北部で検出した楕円形の土坑である。西南部を26-OSにより切られている。肩部長径0.8m・短径0.6m、底部長径0.7m・短径0.5m、深

度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

21-00 OWの東部で検出した円形の土坑である。北側を33-OZにより切られている。肩部直径0.5m、底部直径0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

22-00 PYの南部で検出した南北に長い楕円形の土坑である。中央部を35-OZにより切られている。肩部長径1.7m・短径0.3m、底部長径1.6m・短径0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

23-00 QYの北部で検出した南北に長い楕円形の土坑である。中央部を35-OZにより切られている。肩部長径0.9m・短径0.5m、底部長径0.8m・短径0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

24-00 PAの中央部で検出した円形の土坑である。肩部直径0.7m、底部直径0.6m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

25-00 PAの西南部で検出した円形の土坑である。西部を35-OZにより切られている。肩部直径0.7m、底部直径0.6m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

26-OS PWの中央部からLWを通してJWの中央部まで南北に直線的に伸びる溝である。北端は5-31区の02-OSに続く。OWの南部で29-OS、LWの中央部で27-OSを切っている。検出長25.5m、肩部幅0.5m、底部幅0.4m、深度0.4mを測る。断面形状は逆台形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。本来は石詰の暗渠であったため、礫が混入していた。

27-OS MUの中央部から東北方向にKXの東南部まで直線的に伸びる溝である。東北部は5-31区の03-OSに続く。MVの西北部で30-OS、LWの中央部で26-OSにより切られている。検出長19.0m、肩部幅0.5～0.7m、底部幅0.3～0.4m、深度0.05～0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

28-OS OBの東北部から西南方向にPXの西南部まで直線的に伸びる溝である。東

北端は調査区外に伸び、西南端は29-O Sにより切られている。検出長16.0m、肩部幅0.5m、底部幅0.2~0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

29-O S S Yの西北部から北北西方向にPWを通してMVの北部まで直線的に伸びる溝である。S YからQ Xまでは溝幅が狭くなっている。南南東端は調査区外に続く。PWの北部で26-O S、R Xの北部で鋤溝により切られている。Q Xの西北部で28・30-O Sを切っている。検出長26.0m、肩部幅0.2~0.7m、底部幅0.1~0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

30-O S S Xの東部から北北西方向にPWを通してK Uの西南部まで直線的に伸びる溝である。MVの西北部で27-O Sを切っている。PWの東南部で31-O Sが合流している。南南東端は調査区外に続き、北北西端は36-O Zに当たって終わる。検出長34.0m、肩部幅0.5m、底部幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

31-O S O Bの東北部から西南方向に直線的に伸び、Q Xの西北部で北北西方向に屈曲し、PWの東南部で30-O Sに合流するL字形の溝である。東北東端は調査区外に続く。検出長16.5m、肩部幅0.2~0.4m、底部幅0.1~0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

32-O S U Vの西北部から北北西方向にH Qの中央部まで直線的に伸びる溝である。南南東端は5-56区の04-O Sに続き、北北西端は36-O Z（段）に切られる。検出長36.5m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

33-O Z 調査区の東北半部で検出した鋤溝群である。条数は約10条あり、東南から西北に伸びている。長さ2.0~34.0m、幅0.2~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

34-O Z 調査区の西南半部で検出した鋤溝群である。条数は約10条あり、西南から東北に伸びている。長さ1.5~14.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

35-O Z 調査区の東北半部で検出した鋤溝群である。条数は約10条あり、西南から東北に伸びている。長さ2.0~16.0m、幅0.2~0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅い

U字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

36-OZ 調査区の西南半部で検出した鋤溝群である。条数は約10条あり、東南から西北に伸びている。長さ2.0~36.0m、幅0.2~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

37-OZ JWの北部から西南方向にKUの西南部まで直線的に伸び、MQの西部を通過してPMの中央部まで湾曲して伸びる第3層を削り込んだ段である。西北部は低く、高低差は0.3mである。段の上面はT.P.+11.35mで、割合平坦である。下面はT.P.+11.05mで、同じく平坦である。5-31区の05-OZにつながっている。低い部分には褐灰色粘土(10YR6/1)が水平に堆積していた。

まとめ

2~数条で平行に伸びる溝、礫詰の暗渠、鋤溝、畦畔、段、土坑は出土遺物がほとんど無く時期は明らかでないが、近代以降の耕作に伴うものと推定される。溝・鋤溝・畦畔の方向をみると、現況の地割りと同一のもの、それよりも若干北へ振るもの、南北方向の3つに分けることができる。また、井戸は段の肩部で検出した01~05-OW、段の上面で検出した06-OWがあるが、出土遺物からすると、前者は近代以降、後者は近世に遡る可能性が考えられる。

5-42区(付図1・図版4・8)

A地区の西部で、西北辺が市道高松町2号線に面し、5-16区の西南に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+11.60mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約660㎡である。

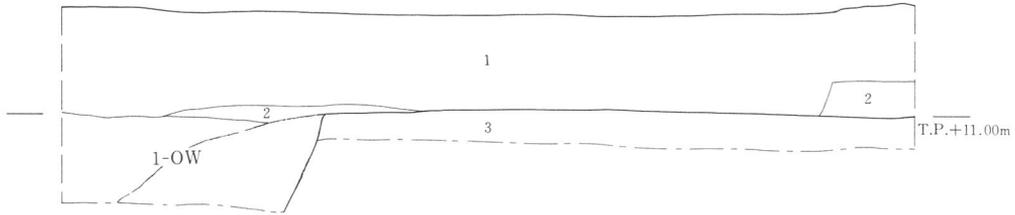
調査により確認した土層は基本的に3層あり、第1・2層で近・現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で井戸、段を検出した。

層序(第14図)

第1層 褐色土(灰色土・黄色土混じり：第II層)で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.60mである。層厚は0.4mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 褐灰色土(5YR5/1：第III-a層)で、RJからQMを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

第3層 明黄褐色土（10Y R6/6：礫混じり：第Ⅲ層）で、R JからQ Mを境として西北部が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはP IでT.P.+11.00m、Y OでT.P.+11.20mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第14図 末廣遺跡5-42区基本土層断面図

遺構

01-OW Q Jの西南部で検出した楕円形の井戸である。長軸は東南から西北方向を指している。隣接する5-30区では確認できていない。肩部長径4.5m・検出短径2.2m、底部長径3.4m・検出短径1.7m、深度0.5m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は2層で、上から橙色土（5Y R7/6：礫混じり）が0.3m、明褐灰色土（5Y R7/1：礫混じり）が0.2mである。遺物は明褐灰色土から近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

02-O Z P Mの西南部から西南方向にR Jの中央部まで検出した第3層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+11.20mで、割合平坦である。下面はT.P.+11.00mで、同じく平坦である。低い部分には灰色土（7.5Y6/1）が0.1m堆積していた。5-16区の37-O Zにつながっている。

まとめ

段の上面は耕作土直下が第3層であり、遺構は検出しなかった。段の下面では段裾部で井戸を検出した。耕作に伴う灌漑用であり、近代以降と考えられる。

5-30区（付図1・図版4・8）

A地区の西南部で西北辺が市道高松町2号線に面し、5-42区の西南に隣接する。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+11.60mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約520㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1～4層で近・現代の遺物が出土した。

遺構の検出面は1面で、第5層上面で井戸、鋤溝、段を検出した。

層序（第15図）

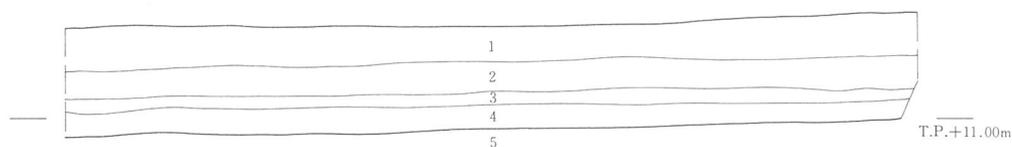
第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、B地区の方向に緩やかに傾斜している。層厚は0.25mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 にぶい橙色土（10Y R6/3：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.35mである。層厚は0.15mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

第3層 褐灰色土（10Y R6/1：第VII-a層）で、R JからS Gを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

第4層 褐灰色土（10Y R5/1：第VII-c層）で、R JからS Gを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.10mである。層厚は0.15mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第5層 淡黄色土（5Y 8/4：礫混じり：第VIII層）で、R JからS Gを境として西北部が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはBMでT.P.+11.35m、S IでT.P.+11.20m、R IでT.P.+11.00mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第15図 末廣遺跡5-30区基本土層断面図

遺構

01-OW S Gの東北部からS Hの西北部にかけて検出した不整楕円形の井戸である。長軸はほぼ東西を指す。南側で03-O Zを切っている。肩部長径3.8m・短径2.4m、底部長径2.8m・短径1.4m、深度は1.15m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では口の開いたU字形であった。確認した埋土は1層で、褐灰色土（10Y R6/1）である。遺物は近代の瓦・紡錘形の土錘が出土した。

02-OW R Hで検出した隅丸長方形の井戸である。長軸は東北東を指す。肩部長辺3.5m・短辺2.6m、底部長辺3.0m・短辺2.1m、深度は0.8m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では口の開いたU字形であった。確認した埋土は2層あり、上から褐灰色土（10Y R6/1）が0.5m、暗青灰色粘土（10B G4/1：礫混じり）が

0.3mである。遺物は出土しなかった。

03-OZ RHの西南部から西南方向にRGの北部まで直線的に伸びる畦である。検出長4.0m、上幅0.3~0.5m、下幅0.7m、高さ0.15mを測る。第5層を削り残しており、断面形状は台形を呈する。

04-OZ 調査区東南半部で検出した鋤溝群である。条数は7条あり、西南から東北方向の溝が25m間隔で平行しており、その中に西北から東南方向の溝が約2.2m間隔で5条平行している。長さ10.0~25.0m、幅0.4m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10Y R6/1)である。遺物はビニールパイプが出土した。

05-OZ RJの西部から西南西方向にSGの中央部まで直線的に伸びる第5層を削り込んだ段である。西北部が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+11.20mで、割合平坦である。下面はT.P.+11.00mで、同じく平坦である。低い部分には第4層が堆積していた。5-42区の02-OZにつながっている。

まとめ

段の上面は耕作土直下が第5層の地山となり、現代の鋤溝を検出しただけである。段の下面は耕作土が2層認められ、段の肩部で2基の井戸、段と交差する畦畔を検出した。いずれも耕作に伴う遺構で、近代以降のものである。

5-48区(付図1・図版4・8)

A地区の西隅で5-30区の西南に隣接する。調査直前は店舗付き住宅であった。標高はT.P.+12.40mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた四角形である。調査面積は約600㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1~3層で現代の遺物、第4層で近代の遺物が現代の遺物とともに出土した。遺構の検出面は1面で、第5層上面で段を検出しただけである。

層序(第16図)

第1層 褐色土(灰色土・黄色土混じり:第II層)で、全域に堆積している。上面の高さはT.P.+12.40mである。層厚は0.9mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

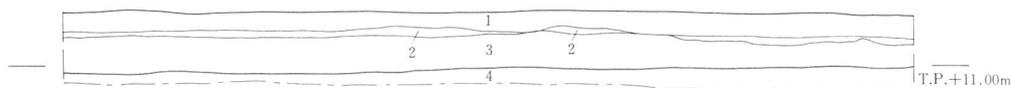
第2層 褐灰色土(7.5Y R5/1:第III-a層)で、西北方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはDJでT.P.+11.50mである。層厚はDJで0.1m、TCで0.4mを測る。耕

作土である。遺物は現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 黄灰色土（2.5Y8/6：灰色土（7.5Y5/1）のブロック土混じり：第V層）で、TGからUDを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.10mである。層厚は0.05mを測る。整地土である。遺物は現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 褐灰色土（7.5YR5/1：第VII-a層）で、TGからUDを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.05mである。層厚は0.15mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第5層 黄色土（2.5Y8/6：礫混じり：第Ⅷ層）で、TGからUDを境として西北側が低くなっており、0.3mの標高差がある。西北方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはT.P.+10.90mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第16図 末廣遺跡5-48区基本土層断面図

遺構

01-OZ SFの東南部から西南西方向にUDの西北部まで直線的に伸びる第5層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.1mである。段の上面はT.P.+11.15mで、調査区東南部から西北方向に緩やかに傾斜している。下面はT.P.+11.05mで、割合平坦である。低い部分には第4層が堆積していた。5-30区の05-OZにつながる。

まとめ

攪乱が著しく、かろうじて段を検出しただけである。

5-A地区のまとめ

A地区は佐野飛行場の跡地に当たり、飛行場建設時の整地の際に地山面が全体的に削平されている。そのため、飛行場建設時以前の遺構は比較的深いものしか残っておらず、井戸等しか確認していない。

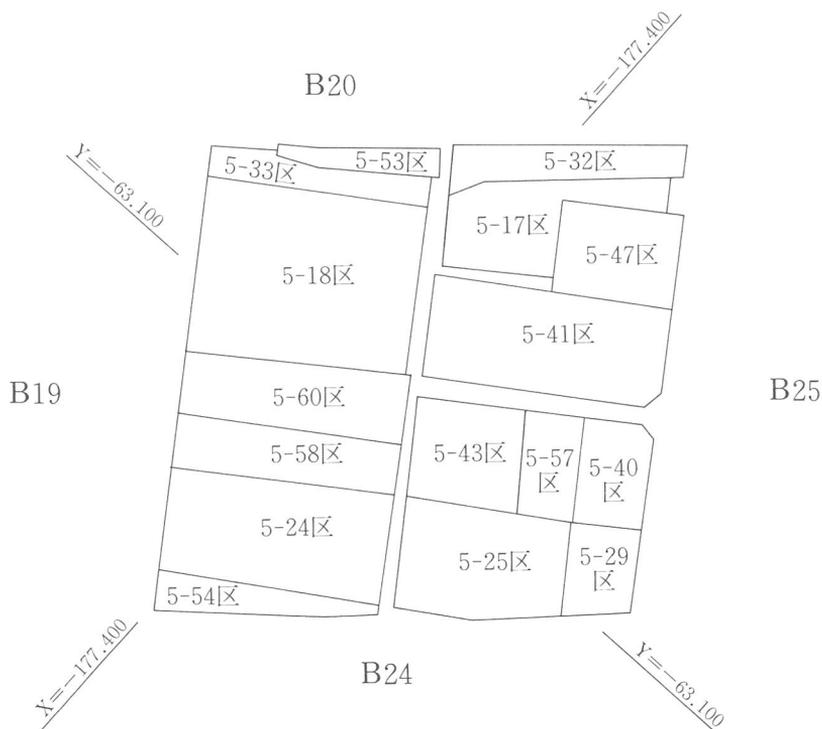
飛行場建設時の整地土よりも下層ないし地山面で確認、検出した遺構は、すべてが耕作に伴うものといえる。遺物の多くは整地土からの出土で遺構からは出土遺物が無いが、極僅かで、それぞれの遺構の時期は明確にしがたい。ただ井戸などは廃絶した時期が現代に

極めて近いもの（5-19区の01-O W、5-42区の01-O W、5-30区の01・02-O W）と近世～近代まで遡る可能性のあるもの（5-56区の01-O W、5-16区の01～06-O W）とに分けることができる。また、耕作土の中にも中世以前の遺物はほとんど含まれておらず、古い時期の遺構はほとんど無かったと考えられる。

1945年以降の遺構は、その整地土よりも上層の床土面で検出している。南北に伸びる礫詰暗渠（5-31区の02-O S、5-16区の26-O S）、鋤溝などがある。

2. 5-B地区の調査

市道高松町2号線と市道高松町1号線とに挟まれた範囲で、面積は約9,500㎡である。調査用地区割りでは大C-3-5-B19・20・24・25地区の交点が当該地区の中心部にあたる。高松町2号線側は個人住宅と田畠であり、5-32・17・47・41・40・57・43・29・25区に分割して調査した。高松町1号線側も個人住宅と田畠であり、5-53・33・18・60・58・24・54区に分割して調査した。



第17図 末廣遺跡5-B地区調査区配置図

5-32区（付図1・図版9・7）

B地区の東端で東南辺が市道高松町2号線に面し、5-17区の東北に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+11.20mである。調査区の形状は底辺が東北を向いた多角形である。調査面積は約300m²である。

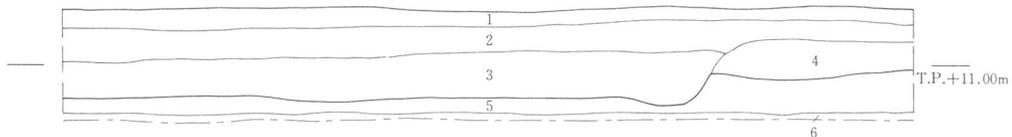
調査により確認した土層は基本的に3層あるが、遺物は出土しなかった。遺構の検出面は1面で、第3層上面で溝、鋤溝、段を検出した。

層序（第18図）

第1層 灰白色土（2.5Y8/1：第Ⅲ-a層）で、CRを境として西北側が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第2層 灰白色土（7.5Y7/1：第Ⅶ-a層）で、CRを境として段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第3層 灰白色粘土（7.5Y8/1：第Ⅳ層）で、CRを境として西北側が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはT.P.+10.80mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第18図 末廣遺跡5-32区基本土層断面図

遺構

01-O S WNからXNを通してYNまで南方向に直線的に伸びる溝である。礫詰の暗渠である。南端は5-17区の05-O Sに続く。検出長9.0m、幅0.4~0.5m、深度0.2~0.3mを測る。断面形状は逆台形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

02-O S CRからCSまで東北方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5-17区の06-O Sに続く。検出長5.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

03-O S VMからWNまで東北方向に09-O Zの下に沿って直線的に伸びる溝である。西南端はVMの東南部で浅くなり、消滅する。東北端は調査区外に伸びる。検出長6.5m、

幅0.7m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

04-O S VMからWNまで東北方向に09-O Zの下に沿って直線的に伸びる溝である。西南端はVMの東南部で浅くなり、消滅する。東北端は調査区外に伸びる。検出長6.5m、幅0.7m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

05-O Z 調査区の西北端で検出した鋤溝群である。条数は8条あり、東南から西北に伸びている。長さ1.0~4.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。06-O Zと重なる部分があり、切っている。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/2）である。遺物は出土しなかった。

06-O Z VNからWMで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、西南から東北に伸びている。長さ4.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。05-O Zと重なる部分があり、切られている。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

07-O Z CRからCSで検出した鋤溝群である。条数は3条あり、西南から東北に伸びている。長さ3.5~5.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R4/1）である。遺物は出土しなかった。

08-O Z CSからETで検出した鋤溝群である。条数は約2条あり、東南から西北に伸びている。長さ6.0~10.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R5/1）である。遺物は出土しなかった。

09-O Z XOからCRで検出した鋤溝群である。条数は約14条あり、東南から西北に伸びている。長さ1.5~11.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/2）である。遺物は出土しなかった。

10-O Z VMからWNで検出した第3層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.05mである。段の上面はT.P.+10.75mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.70mで、同じく平坦である。低い部分には灰白色土（7.5Y7/1）が堆積していた。5-17区の10-O Zにつながる。

まとめ

溝、南北方向に伸びる礫を詰めた暗渠、鋤溝、段、段の裾部に平行して伸びる溝は出土遺物がほとんど無く、時期は明らかでない。しかし、大半が近代以降と推定される耕作に

伴うものであり、09-OZ・02-OSを境にして3面の耕作地が復元できる。ただ、09-OZについては掘削された時期が近世に遡る可能性もある。

5-17区（付図1・図版9・10）

B地区の東隅部付近で5-32区の西南に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はVNでT.P.+11.30m、EUでT.P.+11.40mである。調査区の形状は底辺が西北を向いたL字形である。調査面積は約500㎡である。

調査により確認した土層は基本的に6層あり、第1層で現代、第2・4層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第5層上面で井戸、土坑、溝、鋤溝、段を検出した。層序（第19図）

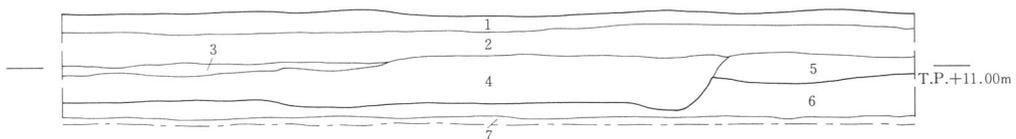
第1層（第I層）で、全域に堆積している。上面の高さはT.P.+11.40mである。層厚は0.2mを測る。攪乱層である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 灰白色土（2.5Y8/1：第III-a層）で、DRを境として西北側が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはWLでT.P.+11.20m、FTでT.P.+11.40mである。層厚はWLで0.1m、FTで0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 淡黄色土（2.5Y8/4：第III-b層）で、XWからBJを境とし、段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.05mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第4層 灰白色土（7.5Y7/1：第VII-a層）で、XWからBJを境とし、西北側の段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+10.95mである。層厚は0.15mを測る。耕作土である。遺物は近世の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

第5層 灰白色粘土（7.5Y8/1：第IV層）で、XMからBJを境として西北側が低くなっており、0.3mの標高差がある。全体としては西北方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはWLでT.P.+10.80m、FTでT.P.+11.20mである。層厚はWLで0.2m、FTで0.3mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。



第19図 末廣遺跡5-17区基本土層断面図

第6層 灰白色土（2.5Y7/1：礫混じり：第Ⅷ層）で、WLからCQにかけてT.P. +10.70mの高さで認められる。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。

遺構

01-OW AKの西部で検出した円形の井戸である。肩部直径2.4m、底部直径2.0m、深度0.5m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。確認した埋土は2層で、上から褐灰色土（7.5YR5/1）が0.3m、オリーブ黄色粘土（7.5Y6/3：礫混じり）が0.2m以上である。遺物は出土しなかった。

02-OO ESの西南部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸が南西方向から東北を指す。肩部長径2.4m・短径1.7m、底部長径2.3m・短径1.6m、深度0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

03-OO ERの北部で検出した楕円形の土坑である。長軸が南から北方向を指す。肩部長径0.9m・短径0.4m、底部長径0.8m・短径0.3m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

04-OO DRの東南部で検出した楕円形の土坑である。長軸が東南から西北方向を指す。肩部長径1.2m・短径0.4m、底部長径1.1m・短径0.3m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（10YR5/1）である。遺物は出土しなかった。

05-OS BNからANを通してYNまで北方向に直線的に伸びる溝である。石詰の暗渠である。北端は5-32区の01-OSに、南端は5-47区の02-OSに続く。検出長10.0m、幅0.5~0.6m、深度0.05mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層であり、灰色土（5Y6/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

06-OS DQからDRまで西南方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5-47区の03-OSに、東北端は5-32区の02-OSに続く。検出長4.0m、幅0.2m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

07-OS DL西北部からYIまで西北方向に直線的に伸びる溝である。両端共、調査区外に伸びるが、隣接する調査区には続いていない。検出長18.5m、幅0.4m、深度0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

08-OS WLからAIまで東北方向に11-OZの下に沿って直線的に伸びる溝である。東北端は直接ではないが5-32区の04-OSに続く。西南端は5-41区へ伸びるが、不明

である。検出長15.5m、幅0.3～0.4m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OZ CMからCNで検出した鋤溝群である。条数は約2条あり、西北から東南に伸びている。長さ1.4～2.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

10-OZ YIからDLで検出した鋤溝群である。条数は約5条あり、西北から東南に伸びている。長さ2.7～7.0m、幅0.3m、深度1.0mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

11-OZ WLからAIで検出した第5層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+10.95mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.75mで、同じく平坦である。低い部分には灰白色土（2.5Y8/4）が堆積していた。5-41区の04-OZにつながる。

まとめ

井戸、南北方向に伸びる礫詰暗渠、現況地割りと同一方向に伸びる溝、段の裾部に平行して伸びる溝、段は出土遺物がほとんど無く、時期は明らかでないが、近代以降の耕作に伴うものと推定される。一方、調査区東南隅で検出した土坑（02～04-OO）は出土遺物がなく、時期・性格ともに不明である。

5-47区（付図1・図版9・10）

B地区の東南辺にあり市道高松町2号線に面し、5-17区の南に当たる。調査直前は個人住宅であった。標高はT.P.+11.40mである。調査区の形状は一辺が西南を向いた正方形である。調査面積は約530㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で井戸、溝、鋤溝を検出した。

層序（第20図）

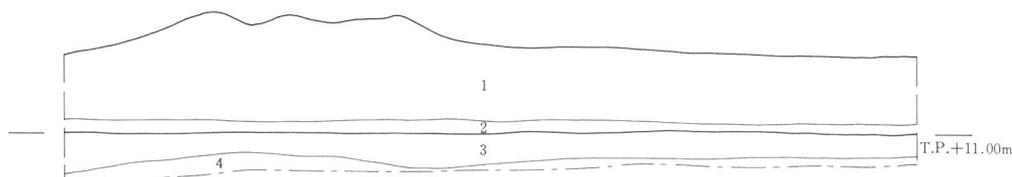
第1層 黒色土（10YR2/1：第Ⅲ-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.40mである。層厚は0.3mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 にぶい橙色土（10YR7/4：第Ⅲ-b層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.10mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は現代の陶磁

器・紡錘形の土鍾が出土した。

第3層 明黄褐色粘土（10Y R7/6：第Ⅳ層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.2mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。

第4層 明黄褐色土（10Y R7/6：礫混じり：第Ⅶ層）で、全域にほぼ水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.80mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第20図 末廣遺跡5-47区基本土層断面図

遺構

01-OW EOの東部からEPの西部で検出した不整楕円形の井戸である。肩部長径4.8m・短径3.6m、底部長径4.0m・短径2.9m、深度0.6m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。確認した埋土は2層で、上から褐色灰色土（10Y R5/1）が0.3m、緑灰色土（5G5/1）が0.3mである。遺物は近世陶磁器・瓦が出土した。

02-OS HNの東南部からENを通してCNの東部まで北方向に直線的に伸びる礫詰溝である。北端は5-17区の05-OSに続く。検出長22.0m、幅0.5~0.6m、深度0.2~0.3mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

03-OS HMからFOを通してEQまで東北方向に直線的に伸びる溝である。GOの西北部は長さ約3mに渡って途切れている。西南端は側溝により切られ、東北端は5-17区の06-OSに続く。検出長21.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

04-OZ 調査区西隅部で検出した鋤溝群である。条数は約9条あり、東南から西北に伸びている。長さ3.5~10.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

まとめ

隣接する5-17・41区に囲まれており、両調査区よりも僅かに窪んでいる。両調査区と同様で水田等の耕作に関係ある遺構を検出した程度である。各遺構の切り合い関係等は明

確でないが、礫詰溝（02-O S）が溝（03-O S）を切っているようである。ただ周辺の状況からみると、井戸（01-O W）は溝（03-O S）のすぐ横にあり、鋤溝（04-O Z）はその溝から直行するためこれらのはほぼ同時期で、真っ直ぐ南北に伸びる礫詰溝（02-O S）が新しいようである。井戸は近世の遺物が出土しており、溝（03-O S）が区画している地割りが最近の地割りと異なることから近世後期頃と考えて差し支えないものと思われる。礫詰溝はここでは近世末以降としておくのが妥当であろう。

5-41区（付図1・図版9・11）

B地区の東南辺の中央で市道高松町2号線に面し、5-47区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はC DでT.P.+11.50m、L KでT.P.+11.60mである。調査区の形状は底辺が西南を向いた多角形である。調査面積は約880㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で近世～現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第4層上面で井戸、溝、鋤溝、段を検出した。

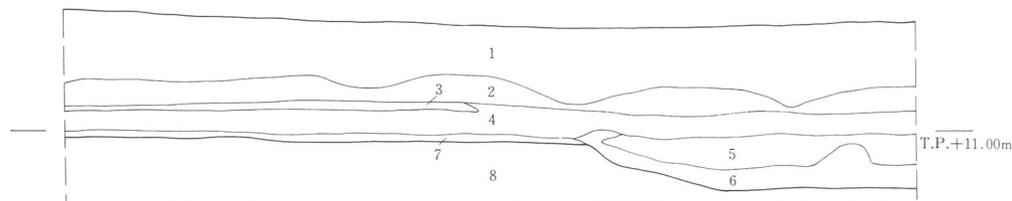
層序（第21図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に盛土されている。上面の高さはT.P.+11.60mである。層厚は0.4mを測る。遺物は近世～現代の陶磁器が出土した。

第2層 灰色土（6Y4/1：第III-a層）で、G GからD Kを境として南東方向に堆積している。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.15mを測る。耕作土である。遺物は近世～現代の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 黄褐色土（10Y R5/6：第III-b層）で、G GからD Kを境として南東方向に堆積している。上面の高さはT.P.+11.05mである。層厚は0.05mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

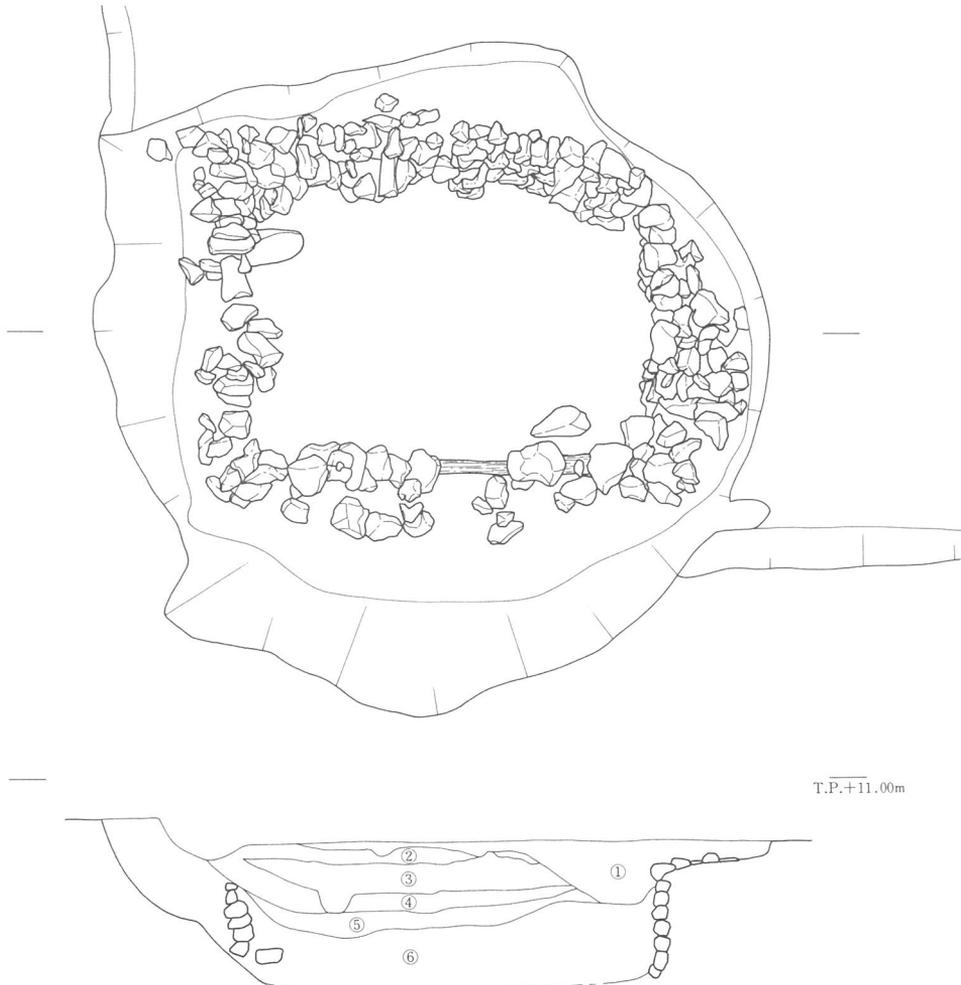
第4層 浅黄色土（2.5Y7/3：礫混じり：第VII層）で、I I・H J・D Fを境として西南側が低くなっており、0.3mの標高差がある。上面の高さはT.P.+11.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第21図 末廣遺跡5-41区基本土層断面図

遺構

01-OW（第22図・図版11） EGの東北部からDGの南東部で検出した円形の井戸である。肩部直径3.8m、底部直径3.2m、深度0.7m以上を測る。素掘ではなく、長軸が東北～西南の長方形の石組があり、長辺2.2m、短辺1.5m、深度0.3mを測る。この内側に木杵があった。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した石組内埋土は6層で、①褐灰色土（5Y R5/1）、②明黄褐色粘土（2.5Y 7/6）、③灰黄褐色粘土（10Y R5/2）、④褐灰色粘土（10Y R6/1）、⑤にぶい黄橙色土（10Y R7/3）、⑥褐灰色粘土（7.5Y R6/1：灰白色砂のブロック混じり）で、掘方埋土は⑦黄灰色土（2.5Y 6/1）である。遺物は褐灰色粘土から陶磁器破片が出土した。



第22図 末廣遺跡 5-41区01-OW平面図・埋土断面図

02-OW I Lで検出した不整形の井戸である。肩部直径3.9m、底部直径3.1m、深度0.8m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は1層で、灰色土(N4/0)である。遺物は近世陶磁器が出土した。

03-OS D FからC Fを通してB Fまで北方向に直線的に伸びる礫詰溝である。北端は5-18区の04-OSに続き、南端は04-OZで終わる。検出長10.0m、幅0.3~0.4m、深度0.05~0.1mを測る。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1:拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

04-OZ C EからD Fで検出した鋤溝群である。条数は約3条あり、西北から東南に伸びている。長さ3.0~5.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

05-OZ J KからJ Lで検出した鋤溝である。条数は1条であり、東北から西南に伸びている。長さ6.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

06-OZ B Jの西部から西南方向に直線的に伸び、01-OWに当たり、西北に屈曲する。D Eの東部でUターンし、東南方向に直線的に伸び、H Jで西南方向に屈曲する第4層を削り込んだ段である。西・北側が低くなっており、高低差は0.1mである。段の上面はT.P.+10.80mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.70mで、同じく平坦である。低い部分には褐色土(2.5Y4/1)、明黄褐色土(10YR6/6:灰黄色土混じり)、黄褐色土(2.5YR5/3)、灰黄色土(2.5YR6/2)が堆積していた。5-57区の03-OZにつながる。

まとめ

水田等の耕作に関係する遺構を検出した程度である。調査区は東南部が高くなっており、段(06-OZ)を挟んで西北部が低くなっている。井戸(01-OW)は段(06-OZ)のコーナー部分にあり、段との同時性を考えさせる。井戸(02-OW)は鋤溝(05-OZ)のコーナー部分にあり、やはり同時性を考えさせる。鋤溝(05-OZ)のコーナー部分は段(06-OZ)と5-32区の溝(06-OS)・5-47区の溝(03-OS)の延長線上で屈曲しており、地割りのコーナー部分と考えられる。西北隅部で検出した鋤溝(04-OZ)は段(06-OZ)と平行することから同時期と考えられる。これらを考え合わせると溝(03-OS)以外の遺構すべてが同時期と考えられ、近世後期頃と考えられる。礫詰溝(03-OS)のみが鋤溝(04-OZ)を切っており新しく、近世末以降のようである。礫詰溝は5-18区04-OS・5-33区01-OSに続き、ほぼ南北に伸びており、5-47区02

—OS・5—17区05—OS・5—32区01—OSと平行している。鋤溝とした05—OZは幅も狭く深度も浅いが単なる鋤溝ではないと考えた方が良いのかも知れない。

5—40区（付図1・図版9・12）

B地区の東南辺中央部で市道高松町2号線に面し、道路を挟んで5—41区の南に当たる。調査直前は個人住宅であった。標高はPFでT.P.+11.65m、MDでT.P.+11.40mである。調査区の形状は長辺の一边が西北を向いた長方形である。調査面積は約160m²である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1層で現代、第2～3層で近世～現代、第4層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第5層上面で井戸、鋤溝を検出した。

層序（第23図）

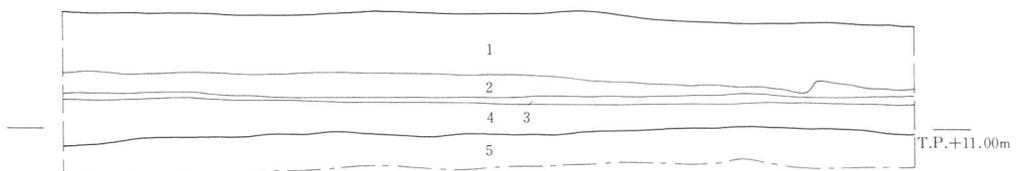
第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、西北方向へ向かって厚く堆積している。層厚はMDで0.1m、PFで0.3mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

第2層 褐灰色土（10Y R4/1：第III—a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.30mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世の陶磁器が出土した。

第3層 明褐色土（7.5Y R5/6：赤褐色土（5Y R4/6）のブロック土混じり：第V層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.05mを測る。整地土である。遺物は近世の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 暗灰色土（N3/：第VII—a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.15mである。層厚は0.15mを測る。耕作土である。遺物は近世の陶磁器が出土した。

第5層 褐色土（10Y R4/6：礫混じり：第VIII層）で、全域に堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第23図 末廣遺跡5—40区基本土層断面図

遺構

01-OW NFの東北部で検出した不整楕円形の井戸である。肩部長径1.6m・短径1.3m、底部長径1.2m・短径0.9m、深度は0.6m以上を測る。断面形状は未完掘のため全容は不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は1層で、褐灰色土(5YR6/1)である。人為的に埋めた土らしく、褐色土(10YR4/6)のブロックが多量に混じっている。遺物は近世の陶磁器・瓦が出土した。

02-OZ MHからNHで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、東北から西南に伸びている。長さ8.5~10.0m、幅0.3m、深度0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。04-OZと重なる部分があり、切っている。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

03-OZ MEからNEで検出した鋤溝である。条数は1条であり、東北から西南に伸びている。長さ5.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/2)である。02・04-OZとは多少色調が異なっている。遺物は出土しなかった。

04-OZ MHからMIで検出した鋤溝である。条数は1条であり、東南から西北に伸びている。北端は5-57区の01-OZに続く。長さ2.5m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。02-OZと重なる部分があり、切られている。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

まとめ

水田等の耕作に関係した遺構を検出した程度である。方向の異なる鋤溝を3群検出した。02-OZは04-OZを切っているが、直交していることから必ずしも時期的なズレを考える必要はない。わずかな時間的ズレを考える方が適当と思われる。03-OZは両者とは方向が異なっており、時期的なズレを考えたいが、切り合い関係がない。ただ西北に隣接する5-57区では方向の異なった鋤溝に切り合いがあり、04-OZと本来つながっていたと考えられる鋤溝が03-OZにつながるであろう鋤溝を切っている。03-OZが古いと考えられる。01-OWの時期については出土遺物から近世と考えられるが、鋤溝との関係は明らかではないが、位置的な関係からは02・04-OZよりも03-OZと関係する可能性が考えられる。02・04-OZは近世後期頃と考えられることから、03-OZはそれよりも古いのは確実であろう。ただ、近世の枠内に収まるものと考えられる。

5-57区（付図1・図版9・12）

B地区の中央部で5-40区の西北に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はHFでT.P.+11.55m、JHでT.P.+11.65mである。調査区の形状は長辺の一边が西北を向いた長方形である。調査面積は約260㎡である。

調査により確認した土層は基本的に7層あり、第1～4・6層で近・現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第7層上面で鋤溝、段を検出した。

層序（第24図）

第1層（第I層）で、全域に広がっている。上面の高さはT.P.+11.65mである。層厚は0.35mを測る。攪乱層である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

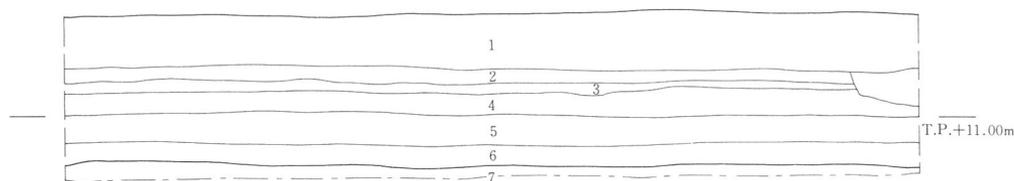
第2層 灰色土（5Y4/1：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.30mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 灰色土（5Y4/1：黄色土（2.5Y7/8）のブロック土混じり：第V層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.1mを測る。整地土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦に混じて近世の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 黄灰色土（2.5Y5/1：第VII-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.10mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器に混じて近世の陶磁器が出土した。

第5層 明黄褐色土・褐色味強（2.5Y6/6：第VII-b層）で、JH、KG、IFを結ぶ段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第6層 暗灰黄色土（2.5Y5/2：第VII-c層）で、JH、KG、IFを結ぶ段差面の低い部分に堆積している。上面の高さはT.P.+10.80mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世の陶磁器が出土した。



第24図 末廣遺跡5-57区基本土層断面図

第7層 黄色土(2.5Y8/6:礫混じり:第Ⅳ層)で、JH、KG、IFを結ぶ段差面で東北側が低くなっており、0.4mの標高差がある。上面の高さはHFでT.P.+10.60m、JHでT.P.+11.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。

遺構

01-OZ IFからKGより西南側で検出した鋤溝群である。条数は4条あり、東北から西南に伸びている。長さ8.0~15.5m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。02・03-OZと重なる部分があり、切っている。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

02-OZ IEからKFで検出した鋤溝である。条数は1条であり、西北から東南に伸びている。長さ10.0m、幅0.2m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。01-OZと重なる部分があり、切られている。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

03-OZ IFからKGで検出した第7層を削り込んだ段である。東北側が低くなっており、高低差は0.25mである。段の上面はT.P.+10.90mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.65mで、同じく平坦である。低い部分には明黄褐色土(2.5Y6/6)、暗灰黄色土(2.5Y5/2)が堆積していた。5-41区の06-OZ、5-43区の05-OZにつながる。僅かであるが近世の陶磁器片が出土した。

まとめ

01-OZは約2mの間隔をもって北に伸びる鋤溝群で、03-OZを切っている。03-OZは5-41区の06-OZ、5-43区の05-OZにつながり、一段低い耕地を形成している。耕地は長辺が西南を向いた長方形で、長辺25m、単辺15.5mを測る。これらの遺構は出土遺物はほとんど無く、時期は明らかでない。ただ、01・02-OZは近代以降、03-OZは近世に遡る可能性が考えられる。

5-43区(付図1・図版9・12)

B地区の中央部で5-57区の西北に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はKBでT.P.+11.70m、FXでT.P.+11.40mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約300m²である。

調査により確認した土層は基本的に7層あるが、遺物は出土しなかった。遺構の検出面は1面で、第7層上面で井戸、溝、段を検出した。

層序（第25図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.70mである。層厚は0.5mを測る。現代の盛土である。遺物は出土しなかった。

第2層 褐灰色土（7.5Y R5/1：第III-a層）で、E BからI Aを境として西方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはT.P.+11.20mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

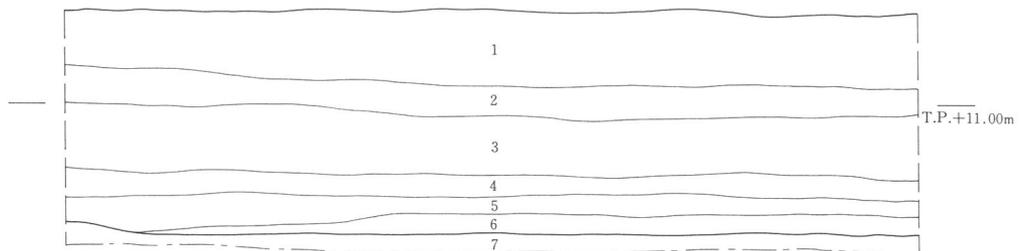
第3層 明褐色土（7.5Y R5/8：第VI層）で、E BからI Aを境として西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.4mを測る。整地土である。遺物は出土しなかった。

第4層 褐灰色土（7.5Y R5/1：第VII-a層）で、E BからI Aを境として西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.60mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第5層 褐灰色土（10Y R5/1：第VII-a層）で、E BからI Aを境として西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第6層 明黄褐色土（2.5Y 7/6：第VII-b層）で、E BからI Aを境として西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第7層 明黄褐色土（2.5Y 7/6：第IV層）で、E BからI Aを境として西方向に傾斜しており、東側は第2層除去後に部分的に確認された。大部分は第3層が薄く堆積していた。上面の高さはK BでT.P.+10.90m、F XでT.P.+10.30mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第25図 末廣遺跡5-43区基本土層断面図

遺構

01-OW EAの中央部で検出した扇形の井戸である。北側は5-60区の01-OWに続く。上部は02-OS・03-OSに切られている。肩部検出長径1.0m・検出短径0.6m、底部検出長径0.8m・検出短径0.5m、深度0.25m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は1層で、灰褐色土(7.5YR4/2)である。遺物は近世の陶磁器が出土した。

02-OS EBからやや西方に曲線的にFBを通り、IAまで北方向に直線的に伸びる溝である。南南西端は5-25区の01-OSに、北端は5-60区の05-OSに続く。検出長17.0m、幅1.5m、深度0.4~0.6mを測る。断面形状はU字形である。埋土は3層で、上から黄灰色土(2.5Y6/1:褐色土混じり)が0.3m、灰褐色土(7.5YR5/2)が0.2m、黄褐色土(10YR5/8)が0.1mである。溝側面は杭を打ち横板を添えて護岸としている。遺物は出土しなかった。

03-OS EAからFAに向かって東南方向に直線的に伸びる溝である。礫詰の暗渠である。西北端は5-60区の04-OSに続き、東南端は01-OSにより切られる。検出長2.5m、幅0.6m、深度0.25~0.3mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土(5YR5/2:拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

04-OS EAの東南部からEBの西北部まで東南方向に直線的に伸びる溝である。西北端は不明、東南端は01-OSにより切られる。検出長1.0m、幅0.6m、深度0.25~0.3mを測る。埋土は1層で、灰褐色土(5YR5/2:礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

05-OZ FCからHEで検出した第7層を削り込んだ段である。東北側が低くなっており、高低差は0.15mである。段の上面はHFでT.P.+10.85mで、平坦である。下面はT.P.+10.70mで、割合平坦であるが、GCで高低差は無くなる。低い部分には褐灰色土(10YR5/1)が堆積していた。5-57区の03-OZにつながる。

まとめ

05-OZは5-57区の03-OZ、5-41区の06-OZにつながり、一段低い耕地を形成している。耕地は長辺が西南を向いた長方形で、長辺25m、単辺15.5mを測る。02-OSは水路で、2条1組で平行して伸びる礫詰の暗渠03・04-OSと01-OWを切っている。各遺構は出土遺物がないか、僅かであり、時期は明らかでない。ただ、01-OWは近世に遡る可能性が考えられ、03・04-OSは、南北方向に伸びる5-32区の01-OS、5-17

区の5-O S、5-47区の02-O Sよりも古い時期の礫詰暗渠である。

5-29区（付図1・図版9・12）

B地区の南端で東南辺は市道高松町2号線に面し、5-40区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はRAでT.P.+11.60m、PYでT.P.+11.70mである。調査区の形状は底辺が西北に向けた台形である。調査面積は約220㎡である。

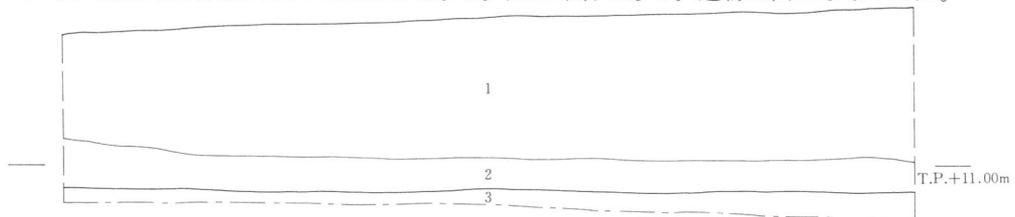
調査により確認した土層は基本的に3層あり、第1・2層で現代の遺物が出土した。遺構は検出しなかった。

層序（第26図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.70mである。層厚は0.7mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 暗緑灰色土（5G4/1：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第3層 オリーブ黄色粘土（7.5Y6/3：礫混じり：第VII層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.80mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第26図 末廣遺跡5-29区基本土層断面図

まとめ

耕作土直下が第3層礫混じりの地山となり、遺構は検出していない。

5-25区（付図1・図版9・12）

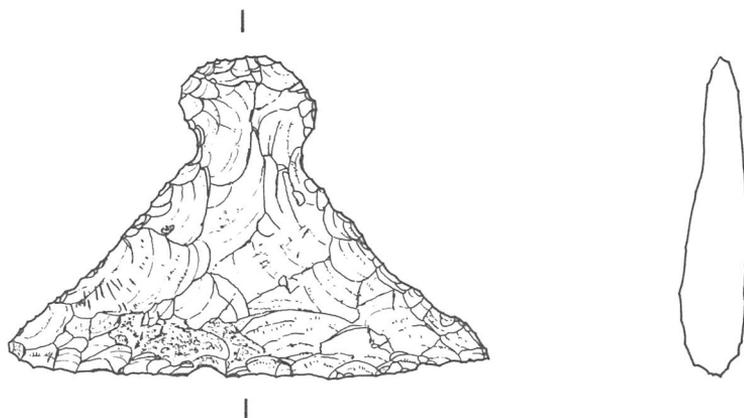
B地区の西南辺に面し、5-29区の西北に隣接している。調査直前は西北部2/3が田畠であり、東南部は空地であった。標高はT.P.+11.10mである。調査区の形状は底辺が西北に向けた台形である。調査面積は約750㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で縄文時代の石器と近世～現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で井戸、溝、鋤溝を検出した。

層序 (第28図)

第1層 灰色土 (5Y4/1: 第III-a層) で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.10mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

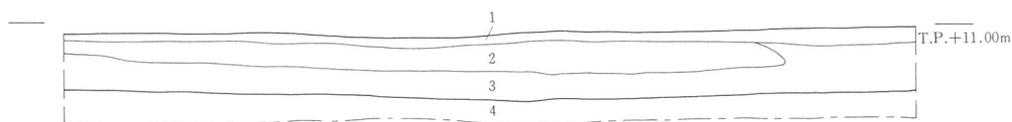
第2層 灰色土 (5Y4/1: 黄色土 (2.5Y7/8) のブロック土混じり: 第V層) で、JAからPYを境として西方向へ堆積している。上面の高さはT.P.+10.90mである。層厚は0.3~0.4mを測る。整地土である。縄文時代の石匙 (第27図・図版2) が出土した。



第27図 末廣遺跡5-25区出土遺物実測図 (S=1/1)

第3層 浅黄色粘土 (2.5Y8/4: 第IV層) で、JAからPYを境として西側が低くなっており、0.4mの標高差がある。上面の高さはMCでT.P.+10.95m、JSでT.P.+10.55mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第4層 浅黄色土 (5Y8/4: 礫混じり: 第VII層) で、JAからPYを境として東方向へ堆積している。上面の高さはT.P.+10.95mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第28図 末廣遺跡5-25区基本土層断面図

遺構

01-OW LYで検出した不整楕円形の井戸である。02-OS・03-OS・04-OSを切る。長軸が北方向を指す。肩部長径2.5m・短径1.7m、二段目長径1.5m・短径1.2m、

深度0.3m以上を測る。断面形状は二段で、上部は口の開いた逆台形、下部は未完掘であるが調査終了段階ではU字形であった。確認した埋土は1層で、黄灰色土（2.5Y5/1）である。遺物は近世の陶磁器が出土した。

02-OS OXからMXを通してIYまで北北東方向に直線的に伸びる溝である。南南西端は調査区外に伸び、北北東端は不明である。検出長26.5m、幅1.0m、深度0.08~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

03-OS PYからLYを通してJAまで北北東方向に直線的に伸びる溝である。南南西端は調査区外に伸び、北北東端は5-43区の02-OSに続く。検出長26.5m、幅1.5m、深度0.3~0.5mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、明黄褐色粘土（10YR7/6）である。遺物は近世の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

04-OS PXからLYを通してIAまで北北東方向に直線的に伸びる礫詰の暗渠である。南南西端は調査区外に伸び、北北東端は不明である。検出長26.5m、幅0.5~0.6m、深度0.03~0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

05-OS IYからGXまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。南南東端は02-OSに切られ、北北西端は5-24区の10-OSに続く。検出長11.5m、幅0.8~1.0m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

06-OS LYからJWを通してHVまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。南南東端は02-OSに切られ、北北西端は5-24区の10-OSに続く。検出長18.5m、幅0.3~0.5m、深度0.1~0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

07-OS LXからJWを通してHVまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。北北西端は側溝に切られる。検出長18.7m、幅0.2~1.0m、深度0.06~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

08-OS LXからJWを通してHVまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。南南東端は02-OSに切られ、北北西端は5-24区の10-OSに続く。検出長12.5m、幅0.3m、深度0.05~0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OS OXからLVを通してITまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。南南東端は02-OSに切れ、北北西端は直接ではないが、5-24区の12-OSに続く。検出長27.5m、幅0.4~0.6m、深度0.07~0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

10-OZ GXからHYで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ0.6~3.0m、幅0.02~0.05m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

11-OZ GXからIYで検出した鋤溝群である。条数は約20条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.0~16.5m、幅0.02~0.1m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OZ HVからLXで検出した鋤溝群である。条数は約35条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.0~21.5m、幅0.02~0.1m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

13-OZ KUからNWで検出した鋤溝群である。条数は7条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ2.0~12.5m、幅0.02~0.1m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

まとめ

03-OSは水路で、礫詰暗渠04-OS、井戸01-OWを切っている。また、03-OSを境にして、東側より一段下がった西側では7~8m間隔で平行して伸びる溝の内部に多数の鋤溝を検出しており、2面の耕地が復元できる。これらの遺構は出土遺物がほとんどなく、時期は明らかでない。ただ、01-OWは切り合い関係からだけでなく、出土遺物からも近世に遡る可能性が考えられる。石匙の出土は縄文時代の遺構の存在を考えさせるが、すでに削平され、消失していると思われる。

5-53区(付図1・図版9・13)

B地区の北端で5-33区の東北に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はT.P.+11.30mである。調査区の形状は底辺が東南を向いた二等辺三角形である。調査面積は約90㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あるが、遺物は出土しなかった。第5層以下は地山である。遺構の検出面は1面で、第5層上面で段を検出した。

層序（第29図）

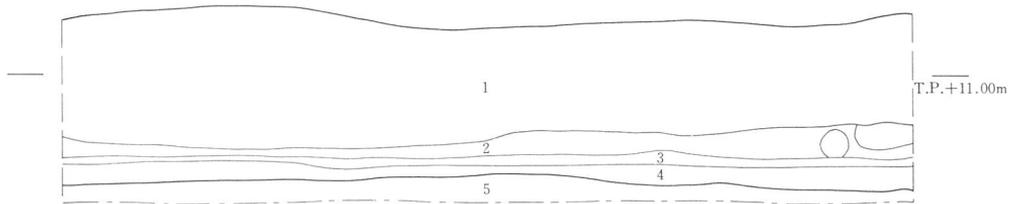
第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+11.30mである。層厚は0.7mを測る。盛土である。遺物は出土しなかった。

第2層 灰色土（N5/0：第V層）で、RKを境として北西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.60mである。層厚は0.1mを測る。整地土である。遺物は出土しなかった。

第3層 灰白色土（10Y7/1：第VII-a層）で、ほぼ全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.05mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第4層 橙色土（5Y R6/6：第VII-b層）で、RKを境として北西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.45mである。層厚は0.05mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第5層 褐灰色土（7.5Y R6/1：礫混じり：第VII層）で、RKを境として北側が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはOHでT.P.+10.40m、UMでT.P.+10.60mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第29図 末廣遺跡5-53区基本土層断面図

遺構

01-0Z RJで検出した第5層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+10.75mで割合平坦である。下面はT.P.+10.50mで同じく平坦である。低い部分には第4層橙色土（15Y R6/6）が堆積していた。5-33区の10-0Zにつながる。

まとめ

段を境にした2面の耕地を検出したが、時期は明らかでない。

5-33区（付図1・図版9・7）

B地区の北隅部で西北辺が市道高松町1号線に面し、5-53区の西南に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+10.80mである。調査区の形状は長辺の一边が西

南を向いた長方形である。調査面積は約300㎡である。

調査により確認した土層は基本的に6層あり、第1・2層で現代の、第3・4層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第6層上面で溝、鋤溝、段を検出した。

層序（第30図）

第1層 褐色土（10Y R4/1：灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.80mである。層厚は0.1mを測る。現代の盛土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

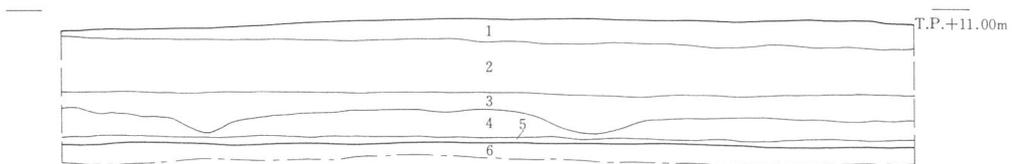
第2層 にぶい黄褐色土（10Y R5/3：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.70mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第3層 橙色粘土（5Y R6/8：第V層）で、S TからT Iを境にして西北方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.1mを測る。整地土である。遺物は近世陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 灰色粘土（7.5Y R6/1：第VII-a層）で、S TからT Iを境にして西北方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世陶磁器が出土した。

第5層 オリーブ灰色粘土（2.5G Y6/1：第VII-b層）で、S TからT Iを境にして西北方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.05mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第6層 橙色粘土（7.5Y R6/8：第IV層）で、S JからT Iを境として西北側が低くなっており、0.25mの標高差がある。上面の高さはT.P.+10.25mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第30図 末廣遺跡5-33区基本土層断面図

遺構

01-O S P GからO Gを通過してN Gまで北方向に直線的に伸びる溝である。南端は5-18区の04-O Sに続き、北端は調査区外へ伸びる。検出長10.0m、幅0.5m、深度0.05

mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

02-O S MFからOFまで東北方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5-18区の12-O Sに続き、西南から東北にかけて06-O Zに切られる。検出長5.0m、幅0.4m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は逆台形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

03-O S R JからS Iまで西南方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5-18区の14-O Sに続き、東北端は調査区外へ伸びる。検出長6.0m、幅0.3m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

04-O S R JからS Iまで西南方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5-18区の15-O Sに続き、東北端は調査区外へ伸びる。検出長6.0m、幅0.3m、深度0.4mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

05-O S S Iの中央部からS Iの西南部まで東北方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5-18区の13-O Sに続き、東北端は調査区外へ伸びる。検出長2.3m、幅0.2~0.7m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

06-O Z MEからR Iで検出した鋤溝群である。07-O Z、08-O Zを切っている。条数は約30条あり、東北から西南に伸びている。西南端は5-18区の23-O Zに続く。長さ1.5~7.0m、幅0.2~0.3m、深度0.02~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

07-O Z MEからMFで検出した鋤溝群である。06-O Zにより切られている。条数は5条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ2.0~2.5m、幅0.2~0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

08-O Z MFからNFで検出した鋤溝群である。06-O Zにより切られている。条数は2条あり、東南東から西北西に伸びている。長さ0.6m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OZ TIからVKで検出した鋤溝である。条数は1条であり、東南から西北に伸びている。長さ12.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

10-OZ STからSIで検出した第6層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+10.75mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.55mで、同じく平坦である。低い部分には灰色粘土(7.5YR6/1)、オリブ灰色粘土(2.5GY6/1)が堆積していた。5-18区の08-OZにつながる。

まとめ

段10-OZを境にして2面の耕地が復元できる。段の下面では鋤溝群06・07・08-OZが概ね南南西から北北東に伸び、その中の06-OZが礫詰暗渠01-OZに切られている。段の上面は削平を受けており、鋤溝は1条しか確認しなかった。これらの遺構は出土遺物がほとんどなく、時期は明らかでないが、近代以降と考えられる。

5-18区(付図1・図版9・13)

B地区の西北辺で市道高松町1号線に面し、5-33区の西南に隣接する。調査直前は田畠であった。標高はNEでT.P.+10.85m、WKでT.P.+10.65mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約1,540㎡である。

調査により確認した土層は基本的に7層あり、第2・3層で近・現代の、第4～6層で近世・近代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第7層上面で井戸、溝、鋤溝、段を検出した。

層序(第31図)

第1層 (第I層)で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.90mである。層厚は0.3mを測る。攪乱層である。遺物は出土しなかった。

第2層 褐色土(灰色土・黄色土混じり：第II層)で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.60mである。層厚は0.1mを測る。盛土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

第3層 しぶい黄褐色土(10YR5/3：第III-a層)で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.70mである。層厚は0.3mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

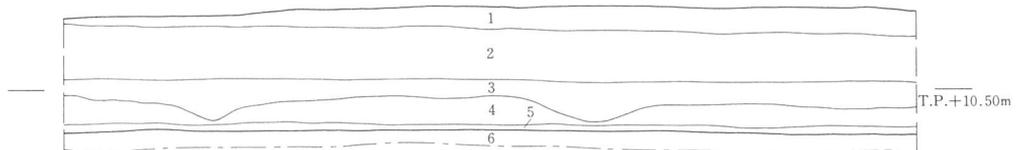
第4層 橙色粘土(5YR6/8：第V層)で、TIからYBを境として西北方向に堆積

している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.1～0.2mを測る。整地土である。遺物は近世・近代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第5層 灰色粘土（7.5Y R6/1：第Ⅶ-a層）で、T IからY Bを境として西北方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

第6層 オリーブ灰色粘土（2.5G Y6/1：第Ⅶ-b層）で、T IからY Bを境として西北方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.05mを測る。床土である。遺物は近世陶磁器が出土した。

第7層 橙色粘土（7.5Y R6/8：第Ⅳ層）で、T IからY Bを境として西北側が低くなっており、0.25mの標高差がある。上面の高さはNEでT.P.+10.25m、WKでT.P.+10.50mである。地山である。遺物は出土しなかった。

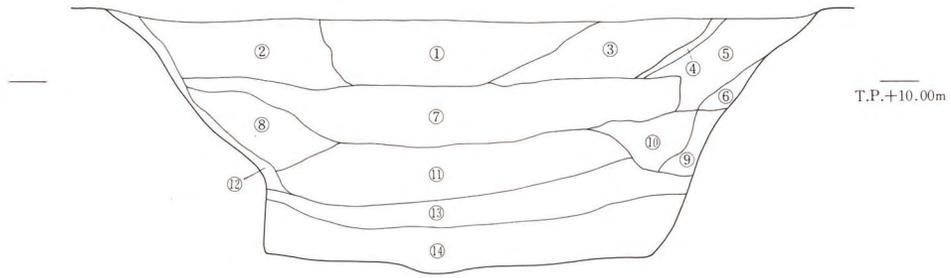


第31図 末廣遺跡5-18区基本土層断面図

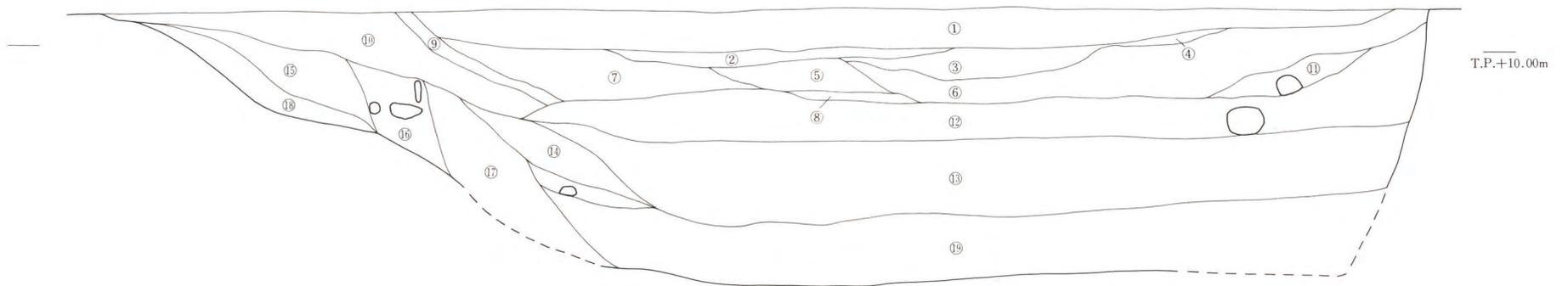
遺構

01-0W（第32図・図版13） UBからVCの西北部で検出した楕円形の井戸である。長軸が西南から東北方向を指す。肩部長径9.2m・短径6.2m、底部長径8.4m・短径5.0m、深度1.55mを測る。素掘りではなく長方形の横板組の木枠があり、長辺4.8m、短辺4.0m、深度1.25mを測る。調査終了段階では断面形状は逆台形であった。埋土は19層あり、①灰色土（7.5Y5/1）、②褐色粘土（7.5Y R4/6：礫混じり）、③灰黄色土（2.5Y6/2：微砂混じり）、④明緑灰色土（10G Y7/1）、⑤明緑灰色土（10G Y8/1：小礫・明オリーブ灰色土（7.5G Y7/1）混じり）、⑥緑灰色砂質粘土（10G Y6/1：淡黄色粘土（2.5Y8/4）のブロック混じり）、⑦オリーブ灰色土（5G Y6/1：拳大の礫・明緑灰色粘土（10G Y8/1）のブロック混じり）、⑧明緑灰色土（10G Y8/1）、⑨灰色土（10Y5/1：少量の小石粒混じり）、⑩暗緑灰色土（5G4/1）、⑪緑灰色土（7G Y5/1：少量の小礫混じり）、⑫暗オリーブ灰色粘土（2.5G Y4/1：明緑灰色粘土（7.5G Y7/1）のブロック混じり）、⑬暗オリーブ灰色粘土（2.5G Y4/1：少量の種子・炭化物、部分的に微砂混じり）、⑭暗オリーブ灰色粘土（2.5G Y4/1：黄灰色・暗灰色粘土のブロック混じり）、⑮緑灰色粘土小ブロック砂質土

03-OW



01-OW



第32図 末廣遺跡5-18区01・03-OW埋土断面図

(10GY6/1: 3~5cmの丸石混じり)、⑩暗オリーブ灰色粘土 (2.5GY4/1: 砂ブロック混じり)、⑪暗オリーブ灰色粘土 (2.5GY4/1: 微砂・2~5cmの石混じり)、⑫灰色砂粒混 (N5/0)、⑬灰色粘土 (5Y4/1: 種子混じり) である。遺物は①灰色土・②褐色粘土から近世・近代の陶磁器が出土した。

02-OW UEの東南部で検出した北北西の角が丸い方形の井戸である。断面形状は二段でテラスを有し、上部は逆台形であり、下部は未完掘で不明であるが調査終了段階では逆台形であった。肩部長径2.0m・短径1.9m、深度0.3m、二段目長径1.2m・短径1.1m、底部検出長径1.1m・検出短径1.0m、深度0.25m以上を測る。方形の縦板組の木枠と桶の井筒がある。木枠は一辺0.5m、井筒は直径0.3mを測る。確認した埋土は2層で、上から灰色土 (7.5Y5/1) が0.3m、緑灰色粘土 (5G5/1) が0.25mである。遺物は近世・近代の陶磁器が出土した。

03-OW (第32図) YCの西南部からACの西北部で検出した、調査区の外に続くため西南部は不明であるが、調査終了段階では楕円形の素掘りの井戸である。西南部は5-60区との境目まで伸びる。肩部検出長径3.7m・短径3.0m、底部検出長径2.6m・短径2.7m、深度1.2m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。確認した埋土は14層あり、①浅黄橙砂質土 (10YR8/4: 部分的に礫混じり)、②明緑灰色砂礫土 (7.5GY8/1)、③褐灰色粘質土 (7.5YR6/1: 部分的に礫混じり)、④灰白色粘土 (10Y7/1)、⑤灰色粘質土 (7.5Y6/1: 礫混じり)、⑥淡黄色粘土 (5Y8/3)、⑦明黄褐色砂礫土 (10YR7/6)、⑧緑灰色粘質土 (10GY6/1)、⑨淡黄色粘土 (5Y8/3)、⑩にぶい褐色粘質土 (7.5YR6/3: 礫混じり)、⑪暗青灰色粘土 (10BG4/1: 礫混じり)、⑫橙色砂質土 (5YR6/6: 礫混じり)、⑬暗青灰色粘質土 (10BG4/1: 少量の小礫混じり)、⑭暗青灰色粘土 (10BG3/1: 少量の小礫混じり) である。遺物は近世・近代の陶磁器が出土した。

04-OS QGからUFを通過してYFまで南方向に直線的に伸びる溝である。石詰の暗渠である。南端は5-41区の03-OS、北端は5-33区の01-OSに続く。検出長35.0m、幅0.4~0.6m、深度0.1~0.2mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土 (5Y6/1: 拳大の礫混じり) である。遺物は出土しなかった。

05-OS RWからUYを通過してWAまで西北方向に直線的に伸びる溝である。西南側は5-60区との境目に当たり、肩部は確認していない。東南端は5-60区の05-OSに続き、西北端は不明である。検出長23.0m、幅1.0m、深度0.15~0.3mを測る。断面形状は

逆台形である。埋土は1層で、赤灰色粘土(10R5/1)である。遺物は近世・近代の陶磁器が出土した。

06-OS RWからTXを通してVAまで西北方向に直線的に伸びる溝である。東南端は01-OWの西南部付近で途切れ、西南端は調査区外へ続く。検出長19.5m、幅1.0~1.5m、深度0.05~0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、赤灰色粘土(7.5R5/1)である。遺物は出土しなかった。

07-OS RXからSYを通してUAまで西北方向に直線的に伸びる溝である。東南端は01-OWに切られ、西北端は調査区外へ伸びる。検出長18.5m、幅0.5~0.6m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

08-OS SWからUYを通してWAの東南部まで南南東方向に直線的に伸び、西南方向に屈曲する溝である。西南端は5-60区の04-OSに続く。検出長23.5m、幅0.2m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

09-OS UYからUAまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。検出長6.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

10-OS WBからWCまで西北西方向に直線的に伸びる溝である。検出長7.0m、幅0.4m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

11-OS NCからPDを通してQDまで西北方向に直線的に伸びる溝である。検出長11.0m、幅0.8m、深度0.09mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y4/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OS OEからPEを通してRDまで北北東方向に直線的に伸びる溝である。北北東端は5-33区の02-OSに続く。検出長11.5m、幅0.8m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

13-OS THからUFを通してXCまで東北方向に直線的に伸びる溝である。東北端は5-33区の05-OSに続く。検出長27.0m、幅0.3m、深度0.04mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

14-OS THからUGまで東北方向に27-OZの下に沿って直線的に伸びる溝である。

東北端は5-33区の03-O Sに続く。西南端はUGで浅くなり、消滅する。検出長7.0m、幅0.2m、深度0.03mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

15-O S S HからU Fを通してV Eまで東北方向に直線的に伸びる溝である。東北端は5-33区の04-O Sに続く。検出長19.0m、幅0.2~0.4m、深度0.03mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

16-O S S EからS Fまで西北西方向に直線的に伸びる溝である。東南東端は04-O Sにより切られる。検出長7.0m、幅0.7m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

17-O S Q EからS Fを通してT Hまで西北方向に直線的に伸びる溝である。R F付近で途切れ、東南部で15-O Sを切り、13・14-O Sに切られる。検出長7.5m、幅0.3m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

18-O S V FからX Cまで西南方向に伸び、X Cで屈曲しX Bまで西南西方向に27-O Zの下に沿って逆L字形に伸びる溝である。検出長21.5m、幅0.4m、深度0.1~0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

19-O S W BからX Cまで東南東方向に、X CからW Dまでは東北方向に逆L字形に屈曲して伸びる溝である。検出長9.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

20-O S X AからW Aまで西北方向に直線的に伸びる溝である。東南端は調査区内で08-O Sに切られるが、5-60区の06-O Sに続く。検出長5.0m、幅0.4~0.6m、深度0.1~0.3mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

21-O Z U UからX Gで検出した鋤溝群である。22-O Zに切られる。条数は約25条あり、北北西から南南東に伸びている。長さ1.0~7.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

22-O Z X EからA Eで検出した鋤溝群である。21-O Zを切る。条数は6条あり、西南から東北に伸びている。長さ1.0~4.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形

状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

23-OZ NEからSHで検出した鋤溝群である。24-OZに切られている。東北部は5-33区の06-OZに続く。条数は約50条あり、南南西から北北東に伸びている。長さ1.0~15.0m、幅0.2~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

24-OZ PEからQFで検出した鋤溝群である。23-OZを切る。条数は3条あり、西北西から東南東に伸びている。長さ3.5~5.5m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

25-OZ PYからQCで検出した鋤溝群である。条数は約10条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.5~8.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

26-OZ RXからSBで検出した鋤溝群である。条数は3条あり、西南西から東北東に伸びている。長さ1.0~2.5m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

27-OZ XAからTIで検出した第7層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.15mである。段の上面はT.P.+10.60mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.45mで、同じく平坦である。低い部分には橙色粘土(5YR6/8)、灰色粘土(7.5YR6/1)、オリーブ灰色粘土(2.5GY6/1)が堆積していた。5-33区の10-OZ、5-60区の09-OZにつながる。

まとめ

段の下に段と平行して伸びる溝、水路、礫詰暗渠、鋤溝、段、土坑は出土遺物がほとんどなく、時期は明らかでないが、大半が近代以降と推定され、耕作に伴うものである。ただ、これらの中で礫詰暗渠04-OSは南北に伸びて現況の地割りと一致しないが、他の遺構との切り合い関係からするともっとも新しい。一方、灌漑用の大きな井戸01-OWは出土遺物からすると近世に遡る可能性が考えられる。

5-60区(付図1・図版9・14)

B地区の西北辺の中央部で市道高松町1号線に面し、5-18区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はT.P.+11.00mである。調査区の形状は長辺の一辺

が西南を向いた長方形である。調査面積は約630m²である。

調査により確認した土層は基本的に6層あるが、遺物は出土しなかった。遺構の検出面は1面で、第5層上面で井戸、土坑、溝、鋤溝、段を検出した。

層序（第33図）

第1層（第I層）で、全域に広がっている。層厚は0.6mを測る。攪乱層である。遺物は出土しなかった。

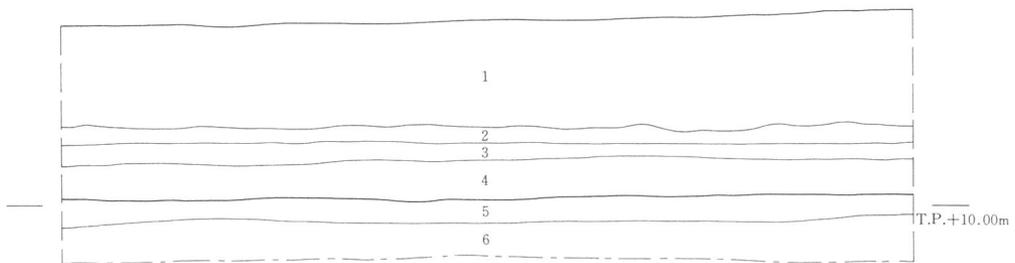
第2層 灰色土（7.5Y4/1：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第3層 褐色土（10Y R4/6：細礫混じり：第VI層）で、XAからBXを境として西北方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.1mを測る。整地土である。遺物は出土しなかった。

第4層 明黄褐色土（10Y R6/6：鉄分混じり：第VII-a層）で、XAからBXを境として西北方向に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.20mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第5層 褐灰色粘土（10Y R4/1：第IV層）で、XAからBXを境として西北側が低くなっており、0.3mの標高差がある。上面の高さはT.P.+10.10mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第6層 にぶい黄色土（2.5Y6/4：礫混じり：第VIII層）で、全域に広がっている。上面の高さはT.P.+10.00mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第33図 末廣遺跡5-60区基本土層断面図

遺構

01-OW DAの西南部で検出した扇形の井戸である。上部は04-OS・05-OSに切られている。長軸が南から北を指す。南側は5-43区の01-OWに続く。肩部検出長径4.0m・検出短径2.0m、底部検出長径2.7m・検出短径1.0m、深度0.55m以上を測る。断

面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は1層で、灰褐色粘土(7.5YR4/2)である。遺物は近世の陶磁器が出土した。

02-00 TVの東北部からTWの西北部で検出した円形の土坑である。肩部直径1.9m、底部直径1.0m、深度0.75mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

03-0S XVからAXまで東南方向に、AXからXA・AWまで東北方向に直線的に伸びる溝である。石詰の暗渠である。西北端は5-58区の01-0S、東北端は5-18区の20-0S、西南端は5-58区の03-0Sに続く。検出長23.0m、幅0.3~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1:拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

04-0S DAからBAまで北北東方向に、BAからYAまで北北西方向に緩やかに蛇行して伸びる溝である。石詰の暗渠である。南端は5-43区の03-0S、北端は5-18区の08-0Sに続く。検出長17.5m、幅0.4~0.5m、深度0.05~0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1:拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

05-0S CBからBBを通してYAまで北北西方向にほぼ直線的に伸びる溝である。南端は5-43区の02-0S、北北西端は5-18区の05-0Sに続く。検出長15.0m、幅1.0m、深度0.35mを測る。断面形状はU字形である。埋土は3層あり、上から明褐色土(7.5YR5/8:小石粒混じり)が0.15m、褐灰色土(10YR4/1:礫混じり)が0.1m、灰白色土(10YR7/1)が0.1mである。遺物は出土しなかった。

06-0S XAからYYを通してAXまで東北方向に09-0Zの下に沿ってほぼ直線的に伸びる溝である。西南端は少し途切れるが5-58区の02-0S、東北端は5-18区の23-0Sに続く。検出長13.5m、幅0.2~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

07-0Z YAからBXで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、西北から東南に伸びている。長さ1.0~2.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

08-0Z YAからBXで検出した鋤溝群である。条数は3条あり、東北から西南に伸びている。長さ1.5~3.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

09-OZ BXからXAで検出した第5層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.1mである。段の上面はT.P.+10.15mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.05mで、同じく平坦である。低い部分には明黄褐色土(10YR6/6)が堆積していた。5-58区の08-OZにつながっているが、低い部分に堆積している層の土色はかなり異なっている。

まとめ

05-O5は水路で礫詰暗渠04-O5と井戸01-OWを切っている。段08-OZを境にして2面の耕地が復元できる。また、段と平行して段の下約1.5m離れて段の肩と平行に伸びる礫詰暗渠03-O5が認められる。もう一つの礫詰暗渠04-O5は03-O5と水路05-O5に切られている。2つの礫詰暗渠は方向が異なるが、関連したものと考えられることから、段が削り込まれた時期は05-O5よりも遡ると考えられる。

5-58区(付図1・図版9・14)

B地区の西北辺で市道高松町1号線に面し、5-60区の西南に隣接している。調査直前は店舗付き個人住宅であった。標高はT.P.+11.10mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約400m²である。

調査により確認した土層は基本的に10層あるが、遺物は出土しなかった。遺構の検出面は1面で、第9層上面で溝、鋤溝、段を検出した。

層序(第34図)

第1層(第I層)で、全域に広がっている。層厚は0.5mを測る。攪乱層である。遺物は出土しなかった。

第2層 褐色土(灰色土・黄色土混じり;第II層)で、CVからAWを境として北西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.60mである。層厚は0.2mを測る。盛土である。遺物は出土しなかった。

第3層 灰色土(5Y5/1;第III-a層)で、CVからAWを境として北西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第4層 赤褐色土(5YR4/6;第VI層)で、CVからAWを境として北西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.1mを測る。整地土である。遺物は出土しなかった。

第5層 灰白色土（5Y7/1：第Ⅶ-a層）で、CVからAWを境として北西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.20mである。層厚は0.1～0.2mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

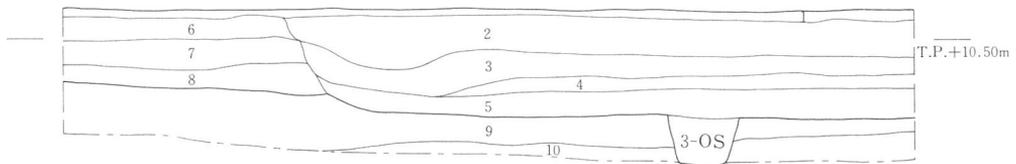
第6層 灰色土（5Y5/1：第Ⅲ-a層）で、CVからAWを境として南東方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.60mである。層厚は0.1～0.2mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

第7層 灰白色土（10YR7/1：第Ⅲ-b層）で、CVからAWを境として南東方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第8層 灰色土（5Y4/1：にぶい黄橙色土のブロック土混じり（10YR7/3）：第Ⅴ層）で、CVからAWを境として南東方向に堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第9層 黄色粘土（2.5Y8/6：第Ⅳ層）で、CVからAWを境として西北側が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはFXでT.P.+10.30m、VFでT.P.+10.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第10層 黄色土（2.5Y8/6：礫混じり：第Ⅶ層）で、全域に堆積している。上面の高さはFXでT.P.+10.10m、VFでT.P.+9.80mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第34図 末廣遺跡5-58区基本土層断面図

遺構

01-OS URからWTを通過してXVまで東南方向に直線的に伸びる溝である。石詰の暗渠である。東南端は5-60区の03-OSに続き、西北端は調査区外へ伸びる。検出長19.0m、幅0.2～0.3m、深度0.1～0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

02-OS BWからCVまで東北方向に06-OZの下に沿って直線的に伸びる溝である。西南端は調査区外へ伸びるが、5-24区では確認していない。東北端は少し途切れるが5

—60区の06—OSに続く。検出長6.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

03—OS CVからAWまで東北方向に直線的に伸びる溝である。西南端は5—24区の07—OSに、東北端は5—60区の03—OSに続く。検出長8.0m、幅0.3～0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1：拳大の礫混じり）である。遺物は出土しなかった。

04—OS URからWTを通してXVまで東南方向に直線的に伸びる溝である。東南端は5—60区の03—OSに続き、西北端は調査区外に伸びる。検出長26.0m、幅0.2m、深度0.10mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。WTで01—OSに切られる。

05—OS TVからVSまで南南東方向に直線的に伸びる溝である。北北西端は調査区外に伸び、南南東端は浅くなりTVで消滅する。検出長16.5m、幅0.4～0.6m、深度0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。WTで01・04—OSに切られる。

06—OZ USからBWで検出した鋤溝群である。条数は約20条あり、西北から東南に伸びている。長さ0.5～16.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

07—OZ URからCXで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、西北から東南に伸びている。長さ4.0～5.6m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

08—OZ BXからCVで検出した第9層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+10.25mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.05mで、同じく平坦である。低い部分には灰白色土（5Y7/1）、赤褐色土（5YR4/6）が堆積していた。5—60区の08—OZ、5—24区の29—OZにつながる。

まとめ

段08—OZを境にして、段の上・下面で鋤溝を検出しており、2面の耕地が復元できる。また、段と平行して伸びる礫詰暗渠01—OSは、礫詰暗渠03—OSと5—60区の礫詰暗渠03—OSに直交し、谷筋にまで伸びている。これらの礫詰暗渠は排水用の溝と考えられる。

5-24区（付図1・図版9・14）

B地区の西北辺で市道高松町1号線に面し、5-58区の西南に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+10.80mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約900m²である。

調査により確認した土層は基本的に6層あるが、遺物は出土しなかった。遺構の検出面は1面で、第6層上面で井戸、土坑、溝、鋤溝、段、流路を検出した。

層序（第35図）

第1層 灰黄色土（2.5Y6/2：第Ⅲ-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.80mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は出土しなかった。

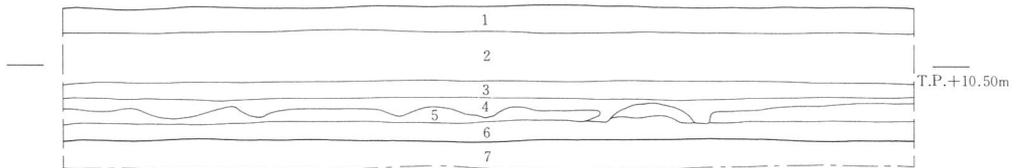
第2層 灰色土（5Y4/1：黄色土（2.5Y7/8）のブロック土混じり：第Ⅴ層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.70mである。層厚は0.4mを測る。整地土である。遺物は出土しなかった。

第3層 灰色土（5Y5/1：第Ⅶ-a層）で、BOからWQを境にして0.1mの標高差があり、GRからDVを境にして西北方向に堆積している耕作土である。上面の高さはGRでT.P.+10.40m、BOでT.P.+10.30mである。層厚は0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

第4層 にぶい赤褐色土（5YR5/4：第Ⅶ-b層）で、GRからDVとCOからWPの間に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は出土しなかった。

第5層 黄灰色粘土（2.5Y6/1：第Ⅵ層）で、GRからDVとCOからWPの間に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.1mを測る。整地土である。遺物は出土しなかった。

第6層 灰白色粘土（5Y7/2：第Ⅳ層）で、HSからDVを境にして西北側が低く0.4m、COからWPを境にして西北側が低く0.1mの標高差がある。上面の高さはISでT.P.+10.40m、HSでT.P.+10.00m、YMでT.P.+9.90mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第35図 末廣遺跡5-24区基本土層断面図

遺構

01-OW HSの東南部からHTの西南部で検出した、西南から東南部にかけては調査区外のため不明であるが、調査終了段階では扇形の井戸である。東南部は調査区外へ伸び、西南部は5-54区の01-OWに続く。肩部長径1.6m・短径1.1m、底部長径1.4m・短径0.8m、深度0.5m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は1層で、褐灰色土(7.5YR5/1)である。遺物は出土しなかった。

02-OW XPの中央部で検出した不整楕円形の井戸である。長軸が西北西から東北東を指す。肩部長径2.8m・短径2.5m、底部長径2.3m・短径2.0m、深度0.75m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は3層で、褐灰色土(7.5YR5/1)が0.2m、明褐色粘土(7.5YR5/8:礫混じり)が0.4m、青灰色粘土(5BG6/1)が0.15m以上である。遺物は褐灰色土・明褐色粘土から近世・近代の陶磁器・瓦が出土した。

03-OO YSの中央部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸が西南西から東北東を指す。肩部長径1.3m・短径1.0m、底部長径1.1m・短径0.8m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

04-OO CRの南部からDRの北部で検出した隅丸平行四辺形の土坑である。肩部長辺4.0m・短辺3.8m、底部長辺3.8m・短辺3.5m、深度0.15mを測る。断面形状は浅い逆台形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

05-OO DRの東南部で検出した不整円形の土坑である。肩部直径1.3m、底部直径1.0m、深度0.3mを測る。断面形状は口の開いたU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

06-OO DQの南部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸が西南西から東北東を指す。肩部長辺1.3m・短辺1.1m、底部長辺0.7m・短辺0.8m、深度0.2mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

07-OS CVの西南部からFTを通してGRまで西南方向に、EU西北部からAP東北部まで西北方向にT字形に伸びる溝である。東北端は5-58区の03-OSに、西南端は5-54区の02-OSに続く。検出長19.0m、幅0.3~0.5m、深度0.05~1.0mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1:拳大の礫混じり)である。

遺物は出土しなかった。本来は礫詰の暗渠であったため、礫がF TからG Sにかけて混入していた。

08-OS CPからAQを通してWRまで北北東方向に曲線的に伸びる溝である。AQで07-OSに切られている。検出長22.5m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(5YR5/1)である。遺物は出土しなかった。

09-OS GVからEVまで西北方向に伸び、EVで西南に屈曲し、FWまで西北方向に伸びる溝である。逆コの字形で東南に開いている。東南端は5-25区の05・06-OSに続く。検出長19.0m、幅0.5~0.9m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

10-OS GUからFUを通してFTまで北北西方向に緩やかな曲線的に伸びる溝である。南南東端は5-25区の08-OSに続き、北北西端は28-OZと交差する。検出長7.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

11-OS FTからGTまで細長くU字形に曲がる溝である。U字の向きが西南~東北方向を指す。検出長11.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OS FTからGUまで北北西方向にほぼ直線的に伸びる溝である。南南東端は01-OWに切られるが、5-25区の09-OSに続き、北北西端は攪乱孔に切られる。検出長5.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1:拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

13-OS HSからGTまで東北方向に、GTで東南へ屈曲する角の取れた逆L字形の溝である。東南端は12-OSに切れ、西南端は調査区外へ伸びるが、5-54区では確認していない。検出長5.0m、幅0.2~0.4m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

14-OS YMからYNを通してAOまで西北方向に緩やかな曲線的に伸びる溝である。東南端は08-OSに切れ、西北端は調査区外へ伸びる。検出長9.5m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1:拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

15-OS CPからAQを通してXRまで北北東方向に緩やかな曲線的に伸びる溝である。AQで07-OSに切られている。南南西端は調査区外へ伸びるが、5-54区では確認

していない。検出長19.5m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

16-O S CPからAQまで北北東方向に直線的に伸びる溝である。検出長6.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

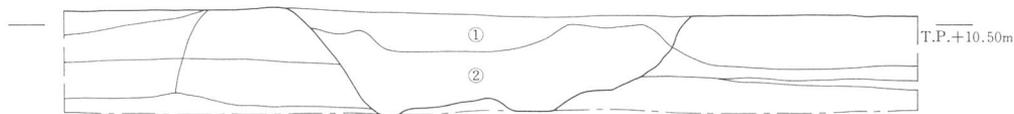
17-O S AOからYNを通してYMまで東南方向に緩やかな曲線的に伸びる溝である。西端は調査区外へ伸びる。検出長8.5m、幅0.2～0.5m、深度0.05～1.0mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

18-O S YNからBDまで西北方向に緩やかな曲線的に伸びる溝である。西北端は調査区外へ伸びるが、5-54区では確認していない。検出長8.0m、幅0.2～0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

19-O S YOからXPまで東北方向にほぼ直線的に伸びる溝である。西南端は18-O Sに、東北端は02-O Wに切られる。検出長6.0m、幅0.05m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

20-O S AOからWPまで北北東方向にほぼ直線的に伸びる溝である。検出長11.5m、幅0.3m、深度0.05～0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

21-O S（第36図） VQからBOまで北北東方向に緩やかな曲線で伸びる溝である。30-O Rの中にあり、断面で確認した。検出長23.5m、幅1.5m、深度0.5mを測る。断面形状は逆台形である。埋土は2層あり、①にぶい黄橙色土（10Y R7/4）、②灰色土（5Y5/1）である。遺物は近世に陶磁器片が出土した。



第36図 末廣遺跡5-24区21-O S埋土断面図

22-O Z EVからFWで検出した鋤溝群である。北北西側が5-25区の11-O Zに続く。条数は約10条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.0～8.5m、幅0.2～0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

23-OZ EVからFWで検出した鋤溝群である。北北西側が5-25区の12-OZに続く。条数は約10条あり、西北から東南に伸びている。長さ1.0~7.0m、幅0.3m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

24-OZ YRからBSで検出した鋤溝群である。条数は約25条あり、西南から東北に伸びている。長さ1.0~11.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。04-OOと重なる部分があり、切られている。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

25-OZ XRからCTで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、東南から西北に伸びている。長さ10.0~16.5m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y4/1)である。遺物は出土しなかった。

26-OZ WPからXPで検出した鋤溝群である。条数は6条あり、西南から東北に伸びている。長さ1.0~5.5m、幅0.3~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

27-OZ DPからFRで検出した鋤溝群である。西南側が5-54区の05-OZに続く。条数は4条あり、東南から西北に伸びている。長さ4.5~10.0m以上、幅0.2~0.3m、深度0.05~0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

28-OZ DVからFWで検出した鋤溝である。北西側が5-25区の10-OZに続く。条数は1条であり、南南東から北北西に伸びている。長さ8.5m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

29-OZ DVからGSで検出した第6層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.3mである。段の上面はT.P.+10.40mで、割合平坦である。下面是T.P.+10.10mで、同じく平坦である。低い部分には灰色土(5Y5/1)が堆積していた。5-58区の06-OZ、5-54区の08-OZにつながる。

30-OR VQからBOで検出した流路である。検出面での平面形状は北北東方向に緩やかに曲線を描く。西南端は5-54区の10-ORに、北北東端は直接ではないが5-46区の15-ORに続く。長さ23.5m、幅2.0~3.5m、深度0.3mを測る。埋土は2層で、上から褐色土(10YR4/6)が0.2m、灰色土(5Y6/1)が0.1mである。遺物は出土しなかった。

まとめ

段29-OZ・流路30-ORを境にして、段の上・下面で2面の耕地と流路の西北で1面の耕地が復元できる。それぞれで異なった方向の鋤溝群を検出しており、29-OZ上面では逆コの字形の溝の内部で鋤溝を検出した。07-OSは段と平行し、直角に屈曲して谷筋へ伸びる排水施設と考えられる。21-OSは流路30-ORの埋没後に掘り込まれた水路である。21-OS・30-ORともに出土遺物がなく、時期は明らかでない。

5-54区（付図1・図版9・14）

B地区の西隅に当たり、5-24区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅と田畠であった。標高はALでT.P.+11.10m、ISでT.P.+11.00mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた四角形である。調査面積は約280㎡である。

調査により確認した土層は基本的に8層あり、第1～6層で近・現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第7層上面で井戸、溝、鋤溝、段、流路を検出した。

層序（第37図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、ONからCOを境として南西方向に堆積している。上面の高さはT.P.+11.00mである。層厚は0.2mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 黒色土（10YR2/1：第III-a層）で、FPからEQを境として0.2mの標高差があり、南西方向に下がっている。上面の高さはYMでT.P.+10.90m、ISでT.P.+10.70mである。層厚はYMで0.1m、ISで0.2mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器・瓦が出土した。

第3層 黄灰色土（2.5Y8/6：灰色土のブロック土混じり（7.5Y5/1）：第V層）で、全域にはほぼ水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.70mである。層厚は0.2mを測る。整地土である。遺物は近世・近代以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 灰色土（7.5Y5/1：第VII-a層）で、EOからDPを境にして西南方向が畝、EOから南西方向に0.2mの標高差がある。上面の高さはISでT.P.+10.50m、ALでT.P.+10.30mである。層厚はISで0.1m、ALで0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

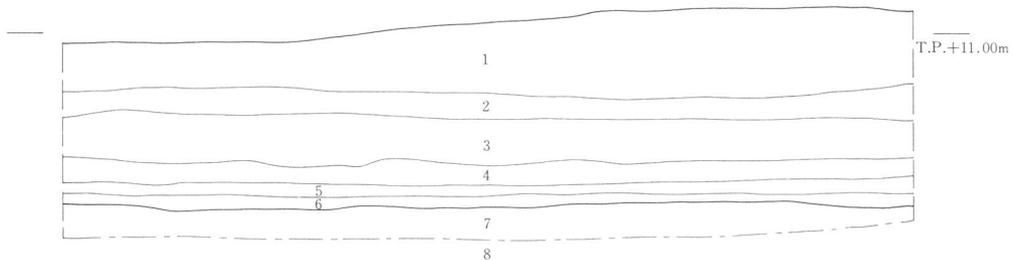
第5層 明褐灰色土（7.5YR7/1：第VII-b層）で、EOからDPを境にして西南方向が畝、EOから南西方向に0.2mの標高差がある。上面の高さはISでT.P.+10.40m、

A LでT.P.+10.20mである。層厚はI Sで0.05m、A Lで0.1mを測る。床土である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第6層 明褐色土（7.5Y R5/8：第Ⅶ-c層）で、F PからE Qを境にして西北方向に堆積している。上面の高さはF PでT.P.+10.20m、A LでT.P.+10.10mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第7層 黄色粘土（5Y 8/6：第Ⅷ層）で、I RからH Sを境にして西北側が低く0.3m、D NからC Oを境にして西北側が約0.2m低く、全域に広がっている。上面の高さはI SでT.P.+10.50m、A LでT.P.+10.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第8層 明褐色土（7.5Y R5/6：礫混じり：第Ⅷ層）で、全域に広がっている。上面の高さはT.P.+10.40mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第37図 末廣遺跡5-54区基本土層断面図

遺構

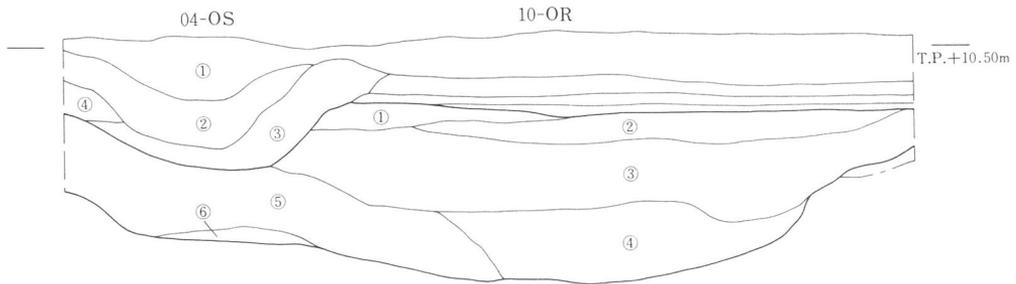
01-OW I Sの北部で検出した不整半円形の井戸である。東南部は調査区外へ伸び、東北部は5-24区の01-OWに続く。肩部長径2.5m・短径1.5m、底部長径1.9m・短径1.1m、深度0.95m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は3層で、上から褐灰色土（10Y R5/1）が0.2m、灰黄褐色粘土（10Y R4/2：明黄褐色粘土混じり）が0.4m、緑灰色粘土（5G6/1）が0.35mである。遺物は灰黄褐色粘土から近世・近代の陶磁器・紡錘形の土錘、緑灰色粘土から近世・近代の陶磁器が出土した。

02-OS GRからF Qを通してE Pまで東南方向に伸びるL字形の溝である。GRで東北方向にわずかに屈曲する。東北端は5-24区の07-OSに続く。検出長16.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y 5/1）である。遺物は出土しなかった。

03-OS EOからF Pを通してHRまで東南方向に伸び、HRの東北部で西南から東

北へと伸びる溝と合流するT字形の溝である。東北方向へ伸びた部分はUターンして西南方向へ曲がっている。西北端と西南端は調査区外へ伸びる。検出長18.0m、幅0.3~0.7m、深度0.1~0.2mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

04-O S (第38図) C OからDNまで北北東方向にはほぼ直線的に伸びる溝である。南南西端は調査区外へ伸び、北北東端は5-24区の21-O Sに続く。検出長7.0m、幅1.5m、深度0.5~0.7mを測る。断面形状はU字形である。埋土は4層あり、①褐色土(10Y R4/6:灰色土・黄色粘土混じり)、②灰色土(5Y6/1:黄色粘土混じり)、③灰色土(5Y4/1)、④灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は近世・近代の陶磁器・瓦が出土した。



第38図 末廣遺跡5-54区04-O S・10-O R埋土断面図

05-O Z D OからF Qで検出した鋤溝群である。東北部は5-24区の28-O Zに続く。条数は4条あり、西北から東南に伸びている。長さ4.0~13.0m、幅0.2~0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

06-O Z G OからH Rで検出した鋤溝群である。西南部は調査区外へに続く。条数は約15条あり、東北から西南に伸びている。検出長0.3~1.5m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

07-O Z E OからH Rで検出した鋤溝群である。条数は3条あり、西北から東南に伸びている。長さ6.0~13.5m、幅0.2~0.3m、深度1.0mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

08-O Z D OからG Rで検出した第7層を削り込んだ段である。東北側が低くなっており、高低差は0.2mである。段の上面はT.P.+10.35mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.15mで、同じく平坦である。低い部分には灰色土(7.5Y5/1)、明褐灰色土(7.5

Y R7/1)、明褐色土 (7.5Y R5/8) が堆積していた。5-24区の29-O Zにつながる。

09-O Z HSからHRで検出した第7層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.15mである。段の上面はT.P.+10.45mで、割合平坦である。下面はT.P.+10.30mで、同じく平坦である。低い部分には黄灰色土 (2.5Y 8/6) が堆積していた。5-24区の29-O Zにつながる。

10-O R (第38図) CNからDOで検出した流路である。検出面での平面形状は緩やかに曲線を描く。西南端は調査区外へ伸び、東北端は5-24区の29-O Rに続く。長さ6.0m、幅3.5m、深度0.85mを測る。断面形状は西北側が二段でテラスを有し、上部は口の開いたU字形、下部はU字形である。埋土は5層で、①灰褐色土 (7.5Y R5/2)、②明褐色土 (7.5Y R5/6: 礫混じり)、③灰褐色粘土 (7.5Y R5/2)、④灰オリーブ色砂 (5Y 6/2)、⑤灰オリーブ色砂 (5Y 6/2: 小礫の粗砂混じり) である。遺物は出土しなかった。

まとめ

08・09-O Z・10-O Rを境にして08-O Zの上・下面に異なった方向の鋤溝が伸びる2面の耕地と、09-O Zの上面で1面、流路の西北で1面の計4面の耕地が推定される。04-O Sは10-O Rの上に掘り込まれた水路である。10-O Rは出土遺物がなく、埋没した時期は不明である。なお、04-O Sからは近世～近代の陶磁器片が出土した。

5-B地区のまとめ

当地区は旧佐野飛行場の跡地にあたる。1945年以降の遺構は、飛行場建設時の整地土よりも上層の水田床土面で検出している。南北に伸びる礫詰暗渠 (5-33区の01-O S、5-18区の04-O S)、鋤溝などがあり、戦後に開拓地として利用されたようである。

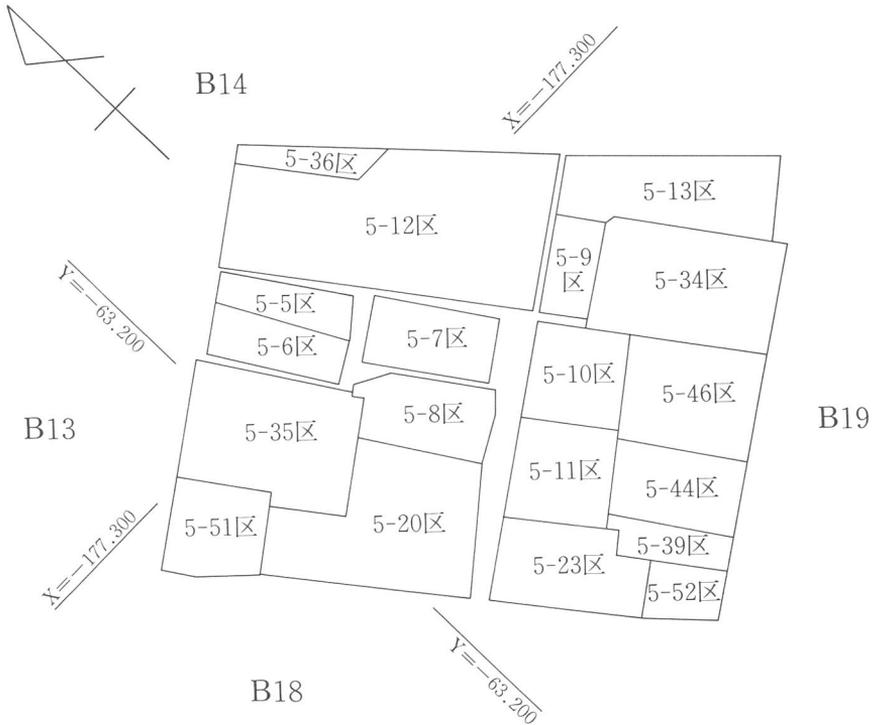
飛行場建設時の整地土よりも下層ないし地山面で確認、検出した遺構が大半であるが、遺物の多くは整地土からの出土で、遺構からは出土遺物が無いか、極わずかで、それぞれの遺構の時期は明確にしがたい。

B地区の西南部で弧を描いて伸びる流路 (5-24区の04・21-O S) と、その東方に曲線的に伸びる水路 (5-18区の05-O S、5-60区の05-O S、5-43区の02-O S、5-25区の03-O S) は明治年間 (作成年は不明) の「地籍図」に描かれた地割りと整合しており、存続機関の一端が推定できる。また両水路は近世の遺物が出土しており、江戸時代まで遡る可能性が考えられる。一方、礫詰暗渠 (5-60区の03-O S、5-58区の01・03-O S)、段はこれらの水路と結びついていくようである。

3. 5-C地区の調査

市道高松町1号線と無名道路（旧上町末廣線）に挟まれた範囲で、面積は約10,000㎡である。調査用の地区割りでは大C-3-5-B13・14・18・19地区の交点が西北中央部にあたる。高松町1号線側は道路沿いが個人住宅、奥が田畠であり、5-13・34・9・46・10・44・39・11・52・23区に分割して調査した。無名道路側も同様に道路沿いには個人住宅、奥が田畠であり、5-36・12・7・5・6・8・35・20・51区に分割して調査した。

当地区の西北端を上町末廣線ではなく1本東南の無名道路で区切ったのは、現在の町末廣線は昭和30年代の後半から40年代に末廣池を一部埋めて造られた新しい道路だからである。



第39図 末廣遺跡5-C地区調査区配置図

5-13区（付図2・図版15・16）

C地区の東隅部で東南辺が市道高松町1号線に面し、5-34区の東北東に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+10.70mである。調査区の形状は底辺が東北を向

いた四角形である。調査面積は約630m²である。

調査により確認した土層は基本的に6層あり、第1・2層で近・現代の、第3層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第5層上面で土坑、溝、鋤溝、段を検出した。

層序（第40図）

第1層 明オリーブ灰色土（5GY7/1：第Ⅲ-a層）で、西北方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはT.P.+10.70mである。層厚は0.4mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

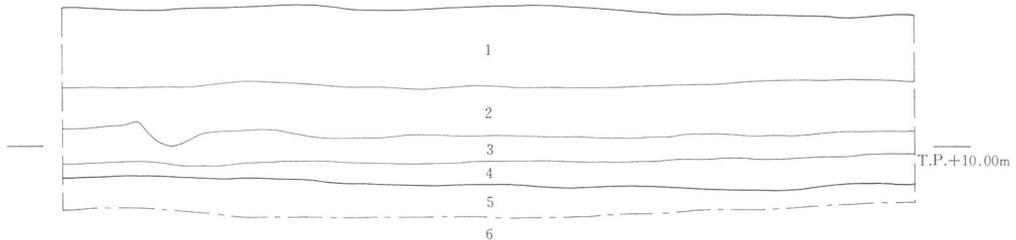
第2層 灰色土（5Y4/1：にぶい黄橙色土のブロック土混じり（10YR7/3）：第Ⅴ層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.2mを測る。整地土である。遺物は近世～現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 灰色粘土（N6/0：第Ⅶ-a層）で、FXとGUを境として西北方向に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.2mを測る。旧耕作土である。遺物は近世の陶磁器が出土した。

第4層 灰白色粘土（10YR7/1：第Ⅶ-c層）で、FXとGUを境として西北方向に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.90mである。層厚は0.1mを測る。旧耕作土である。遺物は出土しなかった。

第5層 明黄褐色粘土（10YR7/6：第Ⅳ層）で、FXとGUを境として南東方向に高くなり、0.2mの標高差がある。上面の高さはCUでT.P.+9.80m、FXでT.P.+10.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。

第6層 浅黄色土（2.5Y7/4：第Ⅶ層）で、FXとGUを境として南東方向に高くなり、0.2mの標高差がある。上面の高さはT.P.+9.70mである。段丘礫層である。



第40図 末廣遺跡5-13区基本土層断面図

遺構

01-00 EVの東南端で検出した隅丸五角形の土坑である。肩部長径0.8m・短径0.7m、底部長径0.6m・短径0.4m、深度0.1mを測る。断面形状は浅い逆台形である。埋土

は1層で、褐灰色土（5Y R6/1）である。礫が多量に出土した。遺物は出土しなかった。

02-O S E Xの西南部からF Vを通過してF Uの西南部まで東北東方向に17-O Z（段）の下に沿って、直線的に伸びる溝である。西南西端は5-9区の02-O Sに続き、東北東端は調査区外へ伸びる。検出長13.0m、幅0.3~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

03-O S E WからE Vを通過してF Uまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。西南西端は5-9区の06-O Sに続き、東北東端は調査区外へ伸びる。検出長11.5m、幅0.3~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

04-O S E WからE Vを通過してF Uまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。西南西端は5-9区の04-O Sに続き、東北東端は調査区外へ伸びる。検出長11.5m、幅0.3~0.4m、深度0.04~0.06mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

05-O S F VからJ Yまで南南東方向に伸び、J Yの南西部から東北東方向に直角に曲がり、I Bに伸びる溝である。東北東端は調査区外へ伸びる。検出長21.5m、幅0.4~0.7m、深度0.06~0.15mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

06-O S L BからJ Aを通過してF Xまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。J Aの西北部で05-O Sに切られる。南南東端は調査区外へ伸びる。検出長30.5m、幅0.3~0.5m、深度0.1~0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

07-O S L BからJ Aを通過してF Wまで北北西方向に直線的に伸びる溝である。J Yの東北部で05-O Sに切られる。南南東端は調査区外へ伸びる。検出長30.5m、幅0.4~0.5m、深度0.05~0.25mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

08-O S M Yの東部からL Bまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。検出長6.0m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

09-O S M AからM Bまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。検出長5.5m、幅0.2m、深度0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）

である。遺物は出土しなかった。

10-OZ LUからEWで検出した鋤溝群である。条数は約15条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.0～6.0m、幅0.2～0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

11-OZ FUからKAで検出した鋤溝群である。条数は8条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ3.0～11.5m、幅0.2～0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

12-OZ JBからJCで検出した鋤溝群である。条数は6条あり、西南西から東北東に伸びている。長さ4.5～7.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

13-OZ GXからGYで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.8～3.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

14-OZ FWからKAで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ4.0～7.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

15-OZ FWからFUで検出した鋤溝群である。条数は3条あり、西南西から東北東に伸びている。長さ1.0～6.0m、幅0.2～0.3m、深度0.04～0.06mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

16-OZ HVからHWで検出した鋤溝群である。条数は6条あり、西南西から東北東に伸びている。西南西端は5-34区の12-OZに続く。長さ4.0～6.0m、幅0.4～0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

17-OZ FXからFUで検出した第5層を削り込んだ段である。北側が低くなっており、高低差は0.3mである。段の上面はT.P.+10.15mで、割合平坦である。下面是T.P.+9.85mで、同じく平坦である。低い部分には灰色粘土（N6/0）、灰白色粘土（10YR7/1）が堆積していた。5-9区の13-OZにつながる。

まとめ

土坑・溝・鋤溝・段は出土遺物がないか、極僅かで、時期は明らかでない。大半が近代以降と推定される耕作に伴う遺構である。

5-34区（付図2・図版15・17）

C地区の東北部で東南辺が市道高松町1号線に面し、5-13区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はQUでT.P.+10.70mである。調査区の形状は長辺の一辺が西南を向いた長方形である。調査面積は約710m²である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1・2層で現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第4層上面で井戸、溝、鋤溝を検出した。

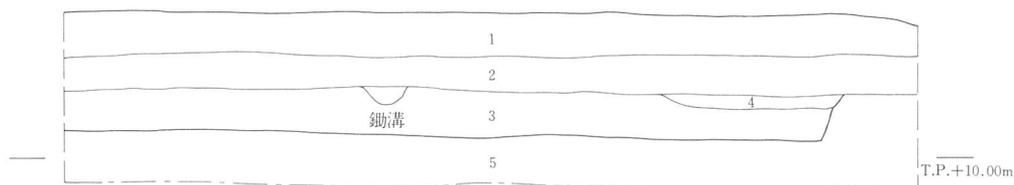
層序（第41図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.70mである。層厚は0.2mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 暗灰黄色土（2.5Y5/2：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第3層 浅黄色土（2.5Y7/3：第XIII層）で、全域にほぼ水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.2mを測る。遺物は出土しなかった。

第4層 灰白色土（5Y7/2：礫混じり：第XIV層）で、全域に広がっている。上面の高さはT.P.+10.10mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第41図 末廣遺跡5-34区基本土層断面図

遺構

01-OW LUの南部からMUの北部で検出した不整楕円形の井戸である。長軸が北方向を指す。肩部長径3.2m・短径2.4m、底部検出長径2.0m・検出短径1.5m、深度0.45m以上を測る。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。確認した埋土は1層で、褐灰色土（10Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

02-OW KTの東南部からLUの西北部で検出した不整楕円形の井戸である。長軸が東北方向を指す。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では二段であり、上部は口の開いた逆台形、下部は逆台形であった。肩部長径2.8m・短径2.2m、深度0.5m、

二段目長径1.9m・短径1.5m、底部検出長径1.0m・検出短径0.8m、深度0.52m以上を測る。確認した埋土は1層で、褐灰色土（10Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

03-OW JSの東南部からKTの西北部で検出した楕円形の石組の井戸である。長軸が西北方向を指す。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では二段でテラスを有し、上部は口の開いたU字形、下部は逆台形であった。肩部長径1.9m・短径1.7m、深度0.22m、二段目長径1.25m・短径1.2m、底部長径0.8m・短径0.7m、深度0.48m以上を測る。確認した埋土は1層で、褐灰色土（10Y R6/1）である。遺物は陶磁器が出土した。

04-OS MYの中央部からKXの中央部まで南南東方向に伸び、MYで東北東方向に直角に曲がる、底辺が南南東を向いたL字形の溝である。北北西端は5-13区へ伸びるが不明であり、東北東端は5-13区の08-OSに続く。検出長9.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色粘土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

05-OS IVの東南部からKXを通してMYの中央部まで北北西方向に直線的に伸びる溝である。検出長19.5m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y4/1）である。遺物は出土しなかった。

06-OS MYの中央部からOVまで西南西方向に伸び、OVの東南部で北北西方向に曲がり、NVの中央部まで伸びる底辺が東南を向いたL字形の溝である。東北東端は5-13区の09-OSに続く。検出長18.5m、幅0.2~0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

07-OS MXの中央部からKWを通してJVの北部まで南南東方向に直線的に伸びる溝である。検出長15.5m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

08-OS OVの中央部からKTを通してISの西南部まで南南東方向に直線的に伸びる溝である。検出長27.0m、幅0.3m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OS PVの西部からMTを通してIRの東南部まで南南東方向に直線的に伸びる溝である。南南東端は5-18区、北北西端は5-9区へ伸びるが共に不明である。検出長30.5m、幅0.4m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

10-OS ISの西南部からJSの東南部まで北北西方向に伸び、JTの西南部で東方

向へ曲がる、底辺が南南東を向いた角の丸いL字形の溝である。北北西端が5-9区へ伸びるが不明である。検出長7.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

11-O S I Rの東南部からK Sを通過してK Tの北部まで北北西方向に伸びる、底辺が南南東を向いた角の丸いL字形の溝である。K Sの東北部で08-O Sに切られている。検出長10.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y4/1)である。遺物は出土しなかった。

12-O Z H UからJ Uで検出した鋤溝群である。条数は6条あり、西南西から東北東に伸びている。東北東端は5-13区の17-O Zに続く。長さ2.0~8.0m、幅0.4~0.5m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

13-O Z J WからL Wで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ4.0~6.5m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

まとめ

南南東から北北西に伸びる溝に接するように3基の井戸が溝に平行に並んでいる。これらの溝が田畠の境界であったと考えられる。ただこれらの溝の東北東側では鋤溝の方向が異なることと、03-O W付近で屈曲する溝のあることから、当地区では3面の耕地が検出されたことになる。遺物は、第1・2層で現代の陶磁器、03-O Wで近世・近代の陶磁器を少量出土しただけであり、遺構はすべて近代以降のものと考えられる。

5-9区(付図2・図版15・16)

C地区の東南部の中央寄りで5-34区の西北に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+10.60mである。調査区の形状は底辺が西北を向いた台形である。調査面積は約230㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1層で近・現代の、第2~4層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第5層上面で井戸、溝、鋤溝、段を検出した。層序(第42図)

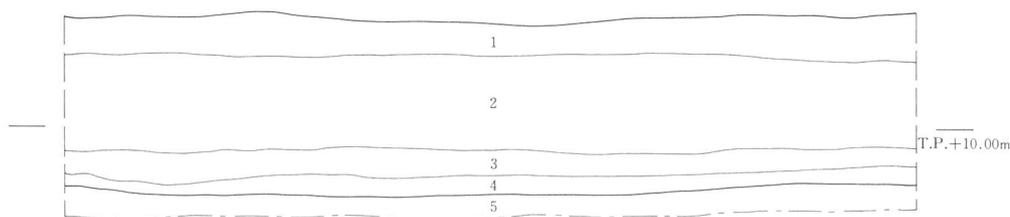
第1層 暗オリーブ灰色土(5GY7/1:第III-a層)で、全域に水平堆積している。層厚は0.2mを測る。現代の耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

第2層 灰色土（5Y4/1：にぶい黄橙色土のブロック土混じり（10Y R7/3）：第V層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.5mを測る。整地土である。遺物は近世以降の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第3層 灰色粘土（N6/0：第Ⅶ-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.90mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。

第4層 灰白色粘土（10Y R7/1：第Ⅶ-c層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.80mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。

第5層 明黄褐色粘土（10Y R7/6：第Ⅳ層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.70mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第42図 末廣遺跡5-9区基本土層断面図

遺構

01-O W H Qの東北部で検出した楕円形の井戸である。長軸が東北東方向を指す。断面形状は二段で、上部は口の開いた逆台形であり、下部は未完掘で不明であるが、調査終了段階ではU字形であった。肩部長径2.1m・短径2.0m・深度1.0m、二段目長径1.7m・短径1.3m、底部長径1.5m・短径1.0m、深度0.6m以上を測る。確認した埋土は1層で、褐灰色粘土（10Y R5/2）である。遺物は出土しなかった。

02-O S F Tの東南部からG Rの中央部まで東北東方向に直線的に伸び、G Rの中央部で南南西方向に緩やかに曲がる溝である。東北東端が5-13区の02-O Sに続く。検出長13.0m、幅0.2~0.5m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（10Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

03-O S F Qの西南部からH Rの西辺中央付近まで南南東方向に伸び、I Pの西北部まで西南西方向に伸びる、底辺が東北東を向いたL字形の溝である。H Rの西辺中央部から屈曲し、G Sの西北部からG Qの中央部までは、ほぼ東北東方向に伸びている。北北西

端は5-12区の23-O Sに、西南西端は5-10区の02-O Sに続く。検出長15.0m、幅0.5~0.8m、深度0.13mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10Y R6/1)である。遺物は出土しなかった。

04-O S F Tの東部からG Sを通過してF Sの中央部まで東北東方向に直線的に伸びる溝である。F Sの西南部で途切れる。東北東は5-13区の04-O Sに続く。検出長12.5m、幅0.2m、深度0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10Y R5/1)である。遺物は出土しなかった。

05-O S F SからF Tまで東北東方向に直線的に伸びる溝であり、08-O Sと並行している。東北東端は5-13区の03-O Sに続く。検出長4.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10Y R4/1)である。遺物は出土しなかった。

06-O S G Pの東北部からH Qの東北部まで南南東方向に伸び、H Oの東南部まで西南西方向に伸びる、底辺が東北東を向いたL字形の溝である。東北東端は5-12区の20-O Sに、西南西端は5-10区の01-O Sに続く。検出長9.5m、幅0.3m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

07-O S E Tの西北部からF Rの東北部(中央寄り)まで西南方向に伸び、F Rの東南部まで南南東方向に伸びる、底辺が西を向いた開き気味のL字形の溝である。検出長10.0m、幅0.5~0.7m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

08-O S F SからF Tまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。東北東端は調査区外に伸び、5-13区の03-O Sに続いている。検出長5.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10Y R4/1)である。遺物は出土しなかった。

09-O Z F QからG Qで検出した鋤溝群である。条数は6条あり、南南東から北北西に伸びている。北北西端は5-12区の32-O Zに続く。長さ2.0~3.0m、幅0.3m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

10-O Z F SからF Tで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、西南西から東北東に伸びている。長さ1.8~4.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形で

ある。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

11-OZ GPからHPで検出した鋤溝群である。条数は3条あり、西南西から東北東に伸びている。長さ3.0~6.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OZ GPからHPで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ3.0~4.5m、幅0.2m、深度0.06mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

13-OZ FUの西南部からGRの中央部まで直線的に伸び、HRの西辺中央部にかけて曲がり、IPの西北部まで伸びる第5層を削り込んだ段である。北側が低くなっており、高低差は0.15mである。段の上面はT.P.+9.85mで、割合平坦である。下面はT.P.+9.70mで、同じく平坦である。低い部分には灰色粘土(N6/0)、灰白色粘土(10YR7/1)が堆積していた。5-13区の17-OZ、5-10区の04-OZにつながる。

まとめ

井戸・溝・段・段の下で伸びる溝は出土遺物がないか、極僅かで、時期は明らかでない。大半が近代以降と推定される耕作に伴う遺構である。段を境にして上下2面の耕地が復元できるが、その下面では段に直交して伸びる03-OZを境にして09-OZを検出した東北部と11・12-OZを検出した西南部の2面に耕地が分けられる。

5-46区(付図2・図版15・18)

C地区の東南辺で市道高松町1号線に面し、5-34区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅と空地であった。標高はTPでT.P.+11.50mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約550㎡である。

調査により確認した土層は7層あり、第1・2層で近・現代の、第3・4層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第6層上面で土坑、溝、鋤溝、流路を検出した。

層序(第43図)

第1層 褐色土(灰色土・黄色土混じり：第II層)で、全域に水平堆積している。層厚は1.0mを測る。盛土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

第2層 灰色土(5Y4/1：黄色土のブロック土混じり(2.5Y7/8)：第V層)で、SRとQOを境として南方向に緩やかに傾斜している。上面の高さはT.P.+10.40mである。層厚は0.2mを測る。整地土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦が出土した。

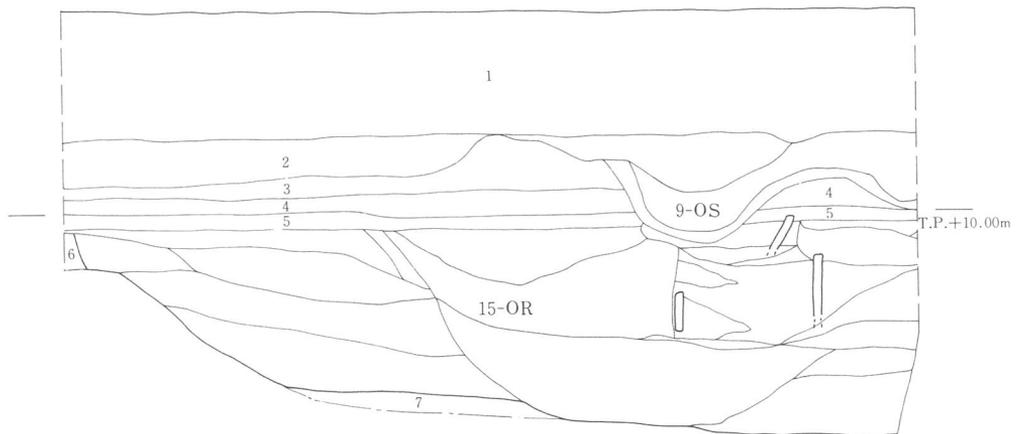
第3層 灰色土（5Y4/1：第Ⅶ-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.20mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 明黄褐色土（10YR7/6：第Ⅶ-b層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.1mを測る。床土である。遺物は近世以降の陶磁器・紡錘形の土錘が出土した。

第5層 浅黄色土（5Y7/3：第Ⅷ層）で、SRとONを境として南方向に傾斜している。上面の高さはT.P.+10.00mである。層厚は0.1mを測る。遺物は出土しなかった。

第6層 黄色粘土（2.5Y8/6：第Ⅸ層）で、NOとPTを境にして南西方向に傾斜している。上面の高さはT.P.+9.90mである。層厚は0.2mを測る。地山である。遺物は出土しなかった。

第7層 灰白色土（5G7/1：礫混じり：第Ⅹ層）で、NOとPTを境にして北東方向に堆積している。上面の高さはSPでT.P.+9.10m、QTでT.P.+9.70mである。段丘礫層である。遺物は出土しなかった。



第43図 末廣遺跡5-46区基本土層断面図

遺構

01-00 NNの西南部からONの西北部で検出した不整楕円形の土坑である。長軸が東方向を指す。肩部長径1.5m・短径1.0m、底部長径0.9m・短径0.7m、深度0.2mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5YR4/2：黄色土混じり）である。遺物は出土しなかった。

02-00 RRの西部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸が北北東方向を指す。肩部長辺1.0m・短辺0.6m、底部長辺0.89m・短辺0.4m、深度0.1mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰褐色土(7.5YR4/2:黄色土混じり)である。遺物は出土しなかった。

03-00 QOの西北部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸が北北西方向を指す。肩部長辺1.10m・短辺0.6m、底部長辺1.0m・短辺0.5m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土(7.5YR4/2:黄色土混じり)である。遺物は出土しなかった。

04-OS NRの中央部からOPを通過してPNの北部まで東北東方向に直線的に伸びる溝である。5-44区に伸びるが、不明である。OQの西北部で12-OSに切られる。検出長18.0m、幅0.2m、深度0.06mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

05-OS NRの南部からOPを通過してQNの東北部まで東北東方向に直線的に伸びる溝である。5-44区に伸びるが、不明である。OQの東北部で12-OSに切られる。検出長17.0m、幅0.3m、深度0.06mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

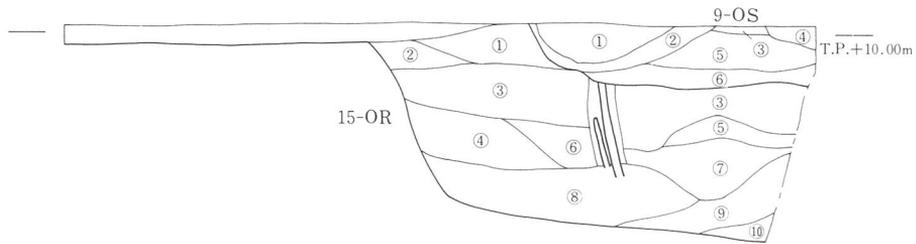
06-OS RPの西部からQRの西北部を通過してOQの東南部まで伸びる、底辺が東を向いたL字形の溝である。検出長15.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y65/1)である。遺物は出土しなかった。

07-OS QRからQQまで西南西方向に直線的に伸びる溝である。06-OSに切られている。検出長4.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y4/1)である。遺物は出土しなかった。

08-OS QOからROまで西北方向に直線的に伸びる溝である。西北端は調査区外へ伸びるが、不明である。検出長3.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(N5/0)である。遺物は出土しなかった。

09-OS (第44図・図版18) ROの東南部からSQの西南部まで東南方向に緩やかに曲がる溝である。東南端は直接ではないが、5-54区の21-OSに続く。西北端は5-44区の01-OSに続く。検出長3.5m、幅1.5m、深度0.3mを測る。断面形状は口の開いたU字形である。埋土は6層あり、①褐色土(7.5YR4/4:灰黄色土・黄色土混じり)、②黄灰色土(2.5Y5/1)、③灰色土(5Y5/1)、④灰白色土(N7/0)、⑤褐灰色土(10YR5/

1：礫混じり)、⑥褐灰色土 (10YR4/1) である。遺物は褐色土、灰白色土から近世以降の陶磁器が出土した。



第44図 末廣遺跡5-46区09-OS・15-OR埋土断面図

10-OS QOの中央部からPPを通過してORの中央部まで東北方向に直線的に伸びる溝である。08-OSを切っている。検出長7.5m、幅0.2m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

11-OS QOからPPを通過してOQまで東北方向に少し蛇行しながら伸びる溝である。西南端は5-44区に伸びるが、不明であり、08-OSを切っている。検出長13.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OS OTからORを通過してNOまで東南東方向に直線的に伸びる溝である。礫詰の暗渠である。東南東端は5-34区、西北西端は5-10区に伸びるが、いずれも不明である。検出長22.0m、幅0.3~0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1：拳大の礫混じり)である。遺物は出土しなかった。

13-OZ NQからRPで検出した鋤溝群である。条数は5条あり、西南西から東北東に伸びている。長さ1.2~5.5m、幅0.2m、深度0.06mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

14-OZ PQからRSで検出した鋤溝群である。条数は約30条あり、南南東から北北西に伸びている。長さ1.0~11.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

15-OR (第44図・図版18) ROからSQで検出した流路である。検出面での平面形状は丸味をもった凹凸形である。西南方向は5-44区の16-ORに、南南東方向は直接つながらないが、5-24区の29-ORに続く。断面形状は部分的であるが、二段でテラスを有し、上部は口が開いたU字形、下部はU字形である。検出長9.0m、検出幅2.0m、深度1.2mを測る。埋土は10層で、①灰黄色粘土(2.5Y7/2)、②暗褐色土(10YR3/4)、③灰

黄褐色土 (10Y R6/2)、④灰黄褐色土 (10Y R5/2)、⑤灰色粘土 (5Y6/1：多量の酸化物混じり)、⑥黄褐色土 (10Y R5/6)、⑦灰色粘土 (5Y R6/1)、⑧灰色粘土 (N5/0)、⑨明褐色砂 (7.5Y R5/8)、⑩明青灰色微砂 (5B G7/1) である。遺物は出土しなかった。

まとめ

土坑、溝、鋤溝、流路は出土遺物が無いか、極僅かで時期は詳かでない。01～03－OSを除けば、大半は近代以降と推定される耕作に伴う遺構である。09－OSは明治時代の地籍図に見られる水路と重なるものであり、1942年に開始された佐野飛行場建設工事の際の整地土で埋没している。また、09－OSは15－ORの上に掘り込んでおり、15－ORは09－OSの掘削時より時期が遡る。01～03－OSは出土遺物が無く、時期・性格ともに不明である。礫詰暗渠の12－OSは整地土とその下の耕作土除去後に検出した。04・05－OSを切っていることから飛行場建設以前のものであるか、他の遺構と比べて新しい時期のものである。

5－10区 (付図2・図版15・18)

C地区の中央部で5－46区の西北に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+10.50mである。調査区の形状は一边が西南を向いた正方形である。調査面積は約370m²である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1～3層で近・現代の、第4層で近世の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第5層上面で溝、段を検出した。

層序 (第45図)

第1層 緑色土 (7.5G Y6/1：第III－a層) で、全域に水平堆積している。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

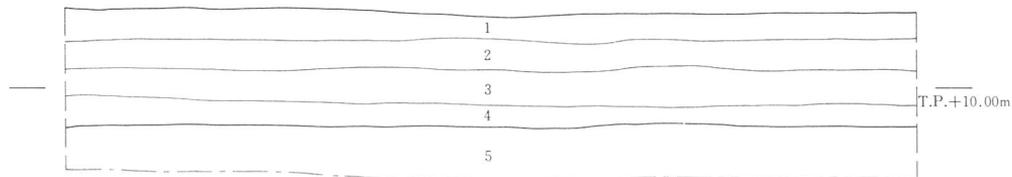
第2層 灰色シルト (5Y7/1：第III－a層) で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.30mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

第3層 灰色土 (5Y4/1：黄色土のブロック土混じり (2.5Y7/8)：第V層) で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.2mを測る。整地土である。遺物は近・現代の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が出土した。

第4層 灰色粘土 (10Y5/1：第VII－a層) で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.90mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器

が出土した。

第5層 灰色粘土（7.5Y6/1：第X V層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.70mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第45図 末廣遺跡5-10区基本土層断面図

遺構

01-O S HOからINを通してIMまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。礫詰の暗渠である東北東端は5-9区の06-O Sに続き、西南西端は調査区外へ伸びる。検出長7.5m、検出幅0.3m、深度0.7m以上を測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色粘土（7.5Y6/1：礫混じり）ある。遺物は出土しなかった。

02-O S IOからIMを通してJLまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。東北東端は5-9区の03-O Sに続き、西南西端は調査区外へ伸びる。検出長14.0m、幅0.7m、深度0.15mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色粘土（10Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

03-O S KPからLNを通してMLまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。西南西端は5-11区に伸びるが、不明である。検出長16.0m、幅0.2~0.3m、深度0.07mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

04-O Z HNからJLで検出した第5層を削り込んだ段である。北北西側が低くなっており、高低差は0.25mである。段の上面はT.P.+9.90mで、割合平坦である。下面はT.P.+9.65mで、同じく平坦である。低い部分には灰色粘土（10Y5/1）が堆積していた。5-9区の12-O Zにつながる。

まとめ

溝、段、段の下に伸びる溝、礫詰の溝は段と平行して伸びるものである。出土遺物が無く、時期は明らかでない。大半は近代以降と推定される耕作にともなう遺構と考えられる。

5-44区（付図2・図版15・19）

C地区の西南部で東南辺が市道高松町1号線に面し、5-10区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はT.P.+11.00mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約380m²である。

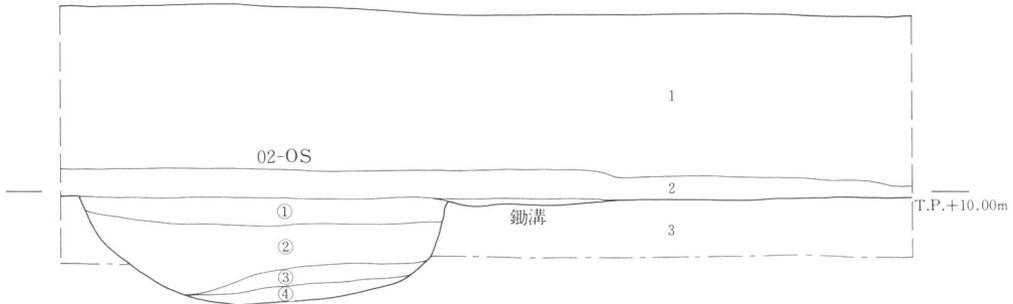
調査により確認した土層は基本的に3層あり、第1・2層で現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第3層上面で溝、鋤溝、段、流路を検出した。

層序（第46図）

第1層 褐色土（灰色土・黄色土混じり：第II層）で、全域にあり、住宅建築時の盛土である。層厚は0.9mを測る。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 褐灰色土（10Y R5/1：第III-a層）で、全域に広がる耕作土である。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.1mを測る。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第3層 明黄褐色粘土（10Y R7/6：第IV層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.00mである。地山である。遺物は出土しなかった。



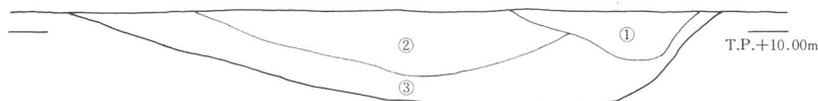
第46図 末廣遺跡5-44区基本土層断面図

遺構

01-O S（第47図） OMの西南部からQ Nを通過してROの西北部まで北北西方向に伸びる、弓形の溝である。東南東端は5-46区の09-O Sに続き、北北西端は5-11区へ伸びるが、不明である。検出長12.0m、幅1.0~2.0m、深度0.24mを測る。断面形状は口の開いたU字形である。埋土は3層で、①黄橙色土（10Y R7/8）、②黄橙色土（10Y R7/4：径10cm大の礫混じり）、③黄灰色土（2.5Y 4/1）である。遺物は黄橙色土から近世以降の陶磁器、黄灰色土から近世以降の陶磁器・瓦が出土した。

02-O S（第46図） UOの西北部からS Nを通過してRMの西部まで東南方向に直線的に伸びる溝である。RMでの西南部で浅くなり、終わっている。東南端は調査区外へ伸び

るが、不明である。検出長14.5m、幅1.0～2.0m、深度0.57mを測る。断面形状はU字形である。埋土は4層で、①明黄褐色土（10Y R6/6：鉄分（赤味）混じり）、②褐色土（10Y R5/4：微砂・鉄分混じり）、③褐灰色土（10Y R6/1：微砂混じり）、④明褐色粗砂（10Y R7/6）である。遺物は出土しなかった。



第47図 末廣遺跡 5-44区01-O S埋土断面図

03-O S TOからVMを通してWLまで東北東方向に直線的に伸びる溝である。西南西端は5-39区の03-O Sに続く。検出長15.0m、幅0.2m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（7.5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

04-O S SKの東南部からRMの東北部まで東北方向に伸び、QMの東南部まで北北西方向に伸びる、底辺が東北を向いた、短く少し開き気味のL字形の溝である。西南端は5-39区の01-O Sに続く。検出長12.0m、幅0.3～0.5m、深度0.14mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/2）である。遺物は出土しなかった。

05-O S SKの東南部からRMの西北部まで東北東方向にはほぼ直線的に伸びる溝である。西南西端は5-39区の02-O Sに続く。検出長9.5m、幅0.2～0.3m、深度0.13mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/2）である。遺物は出土しなかった。

06-O S RMの東南部からUOの東北部まで東南方向にはほぼ直線的に伸びる溝である。東南方向は調査区外へ伸びる。検出長13.5m、幅0.5m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/2）である。遺物は出土しなかった。

07-O S TOからSNを通してRMまで東南方向にはほぼ直線的に伸びる溝である。東南端は調査区外へ伸びる。検出長12.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（7.5Y R6/2）である。遺物は出土しなかった。

08-O S PLの中央部からPMの東北部まで北北西方向にはほぼ直線的に伸びる溝である。北北西端は直接つながらないが、5-11区の04-O Sに続く。検出長9.0m、幅0.5～0.6m、深度0.15mを測る。断面形状は口の開いたU字形である。埋土は1層で、褐灰色土（10Y R5/1）である。遺物は出土しなかった。

09-OS PLの東北部からQMの中央部まで南南東方向に直線的に伸びる溝である。北北西端は5-11区へ伸びるが、不明である。検出長7.5m、幅0.9m、深度0.16mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

10-OS QLからPKまで東南方向に緩やかに曲がる溝である。西北端は5-11区の03-OSに続く。検出長6.5m、幅0.4m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

11-OZ PLからRJで検出した鋤溝群である。条数は5条あり、西南から東北に伸びている。長さ1.5~2.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OZ QLからRLで検出した鋤溝群である。条数は2条あり並行している。南南東から北北西方向に伸びている。長さ0.5~2.3m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

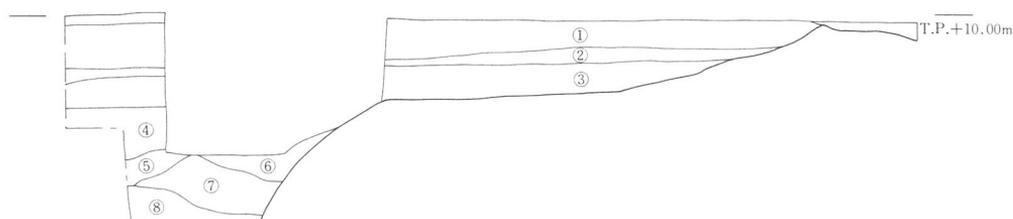
13-OZ RLからSLで検出した鋤溝である。条数は1条であり、東南から西北に伸びている。長さ2.5m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y6/1)である。遺物は出土しなかった。

14-OZ SKで検出した鋤溝である。条数は1条であり、西南から東北に伸びている。長さ1.0m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土(7.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

15-OZ RMの東南部からSKの東南部で検出した第3層を削り込んだ段である。西北側が低くなっており、高低差は0.1mである。段の上面はT.P.+9.80mで、割合平坦である。下面はT.P.+9.70mで、同じく平坦である。低い部分には褐灰色土(10YR5/1)が堆積していた。5-39区の05-OZにつながる。

16-OR (第48図) PLからTOで検出した流路である。検出面での平面形状は長方形である。北北西端は5-11区の12-ORに、南南西端は5-46区の15-ORに続く。断面形状は未完掘で不明であるが、調査終了段階では二段で、上部は口の開いた浅いU字形、下部は逆台形であった。検出長23.0m、検出幅4.0m、深度0.13m以上を測る。確認した埋土は8層で、①灰色土(7.5Y6/1:小礫混じり)、②灰色粘土(7.5Y5/1)、③灰色粘土(7.5Y4/1)、④浅黄色土(2.5Y7/4)、⑤黄色粘土(2.5Y8/8)、⑥灰黄色粘土(2.5Y7/

2)、⑦浅黄色粘土 (2.5Y7/3: 微砂混じり)、⑧浅黄色粗砂 (2.5Y7/4) である。遺物は出土しなかった。



第48図 末廣遺跡 5-44区16-OR埋土断面図

まとめ

01-OSを除けば他の溝、鋤溝、段、流路は出土遺物が無く、時期は明らかでない。大半は近代以降の耕作に伴う遺構と考えられる。01-OSは5-46区の09-OSに続く水路である。16-ORは5-46区の15-ORに続く谷である。15-OZを境にして上面(東南)と下面(西北)の2枚の耕地が復元できる。段の下面では段と異なった方向の11・12-OZを検出している。また上面は削平を受けており、鋤溝は認められなかった。02-OSは03・05-OS、15-OZに切られており、他の遺構と比べると时期的に遡る可能性が考えられる。しかし、出土遺物がまったく無く、時期・性格ともに明らかにはしがたい。ただ、どんなに遡っても近世後半以降であろう。

5-39区 (付図2・図版15・19)

C地区の西南部で東南辺が市道高松町1号線に面し、5-44区の西南に隣接している。調査直前は個人住宅であった。標高はT.P.+8.00mである。調査区の形状は長辺の一边が西南を向いた長方形である。調査面積は約130㎡である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1～3層で現代の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第4層上面で溝、鋤溝、段を検出した。

層序 (第49図)

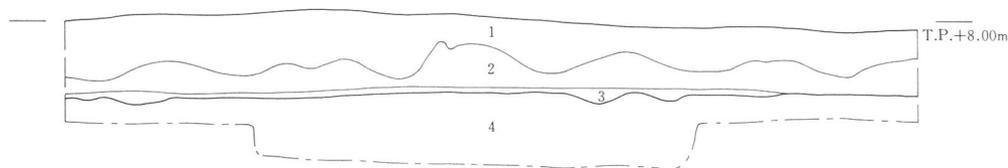
第1層 褐色土(灰色土・黄色土混じり: 第II層)で、西北方向に緩やかに傾斜し、全域に広がっている。層厚はR Iで0.2mを測る。盛土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 灰色土(N6/0: 第III-a層)で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+7.80mである。層厚は0.2mを測る。耕作土(畝)である。遺物は現代の陶磁器が

出土した。

第3層 黄灰色土 (2.5Y5/1: 第Ⅲ-b層) で、V KからU Lを境として東南方向に堆積している。上面の高さはT.P. +7.60mである。層厚は0.05mを測る。床土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第4層 黄褐色土 (2.5Y5/6: 第Ⅳ層) で、U JからT Lを境として西北側が低くなっており、0.2mの標高差がある。上面の高さはT.P. +7.55mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第49図 末廣遺跡5-39区基本土層断面図

遺構

01-O S T Kの西北部からS Kの東南部まで東北東方向に直線的に伸びる溝である。東北東端は5-44区の04-O Sに続く。検出長2.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土 (7.5Y R6/2) である。遺物は出土しなかった。

02-O S S Kの南部からT Jの東北部まで西南西方向に直線的に伸びる溝である。東北東端は5-44区の05-O Sに、西南西端は直接ではないが、5-23区の09-O Sに続く。検出長3.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土 (7.5Y R6/2) である。遺物は出土しなかった。

03-O S V Mの中央部からV Lを通してW Mの北部まで東北東方向に直線的に伸びる溝である。東北東端は5-44区の03-O Sに続き、西南西端は5-52区へ伸びるが不明である。検出長4.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土 (7.5Y R6/2) である。遺物は出土しなかった。

04-O Z R JからT Jで検出した鋤溝群である。条数は6条あり、南南西から北北東に伸びている。北北東端は5-44区の11-O Zに続く。長さ1.0~5.0m、幅0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土 (7.5Y5/1) である。遺物は出土しなかった。

05-O Z R JからT Kで検出した第4層を削り込んだ段である。西北側が低くなって

おり、高低差は0.1mである。段の上面はT.P.+9.80mで、割合平坦である。下面はT.P.+9.70mで、同じく平坦である。低い部分には黄灰色土(2.5Y5/1)が堆積していた。5-44区の15-OZにつながる。

まとめ

溝、段、段と平行して伸びる溝、鋤溝は出土遺物が無く、時期は明らかでない。遺構の大半は近代以降の耕作に伴うものと考えられ、近世にまで遡る遺構は存在していないようである。

05-O S (段)を境にして、上面(東南)と下面(西北)の2枚の耕地が復元できる。段の下面では04-O Zを検出しているが、上面は削平を受けており、鋤溝は検出していない。

5-11区(付図2・図版15・19)

C地区の西南部の中央寄りで、西北辺が開拓道水路に接し、5-44区の西北に隣接している。調査直前は田畠であった。標高はT.P.+10.35mである。調査区の形状は一辺が西南を向いた正方形である。調査面積は約420m²である。

調査により確認した土層は基本的に4層あり、第1層で現代の、第2・3層で近世以降の遺物が出土した。遺構の検出面は1面で、第4層上面で溝、鋤溝、流路を検出した。

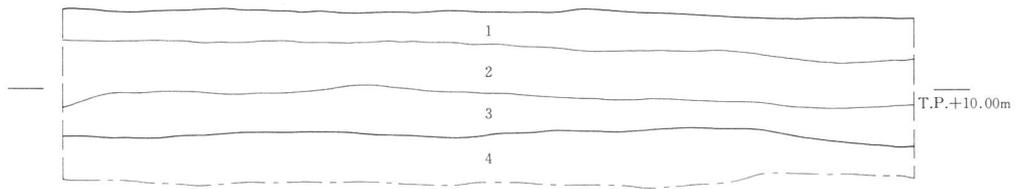
層序(第50図)

第1層 緑灰色粘土(5GY5/1:第III-a層)で、全域に水平堆積している。層厚は0.25mを測る。耕作土である。遺物は現代の陶磁器が出土した。

第2層 灰色土(5Y4/1:黄色土(2.5Y7/8)のブロック土混じり:第V層)で、PLとLIを境として西北方向に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.2mを測る。整地土である。遺物は近世の陶磁器・瓦・紡錘形の土錘が近・現代の陶磁器とともに出土した。

第3層 緑灰色粘土(10GY5/1:第VII-a層)で、PLとLIを境として西北方向に水平堆積している。上面の高さはT.P.+9.90mである。層厚は0.2mを測る。耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。

第4層 灰白色粘土(7.5Y7/1:第IV層)で、東北側が低くなっており、PLとLIを境として0.2mの標高差がある。上面の高さはT.P.+9.70mである。地山である。遺物は出土しなかった。



第50図 末廣遺跡5-11区基本土層断面図

遺構

01-OS LIからMHを通してNGまで南南西方向に直線的に伸びる溝である。南南西端は5-23区の07-OSに続き、北北東端は5-8区へ伸びるが不明である。検出長11.0m、幅0.4m、深度0.1mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10YR5/1)である。遺物は出土しなかった。

02-OS LHからMHを通してNGまで南南西方向に直線的に伸びる溝である。南南西端は5-23区の05・06-OSに続き、北北東端は5-8区へ伸びるが不明である。検出長8.0m、幅0.8m、深度0.09mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10YR5/1)である。遺物は出土しなかった。

03-OS PKの東北部からMJの東北部まで北北西方向に伸び、LIまで西北方向に緩やかなカーブを描く溝である。南南東端は5-44区の10-OSに続き、西北端は11-ORにつながる。検出長17.0m、幅0.4m、深度0.08mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10YR6/1)である。遺物は出土しなかった。

04-OS OKからMKを通してLJまで南南東方向に直線的に伸びる溝である。南南東端は直接ではないが、5-44区の08-OSに続き、北北西端は11-ORにつながる。検出長13.0m、幅0.5m、深度0.12mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐灰色土(10YR5/1)である。遺物は出土しなかった。

05-OS LJで検出した西北西方向に直線的に伸びる溝である。04-OSに切られ、東南東端は11-ORにつながる。検出長3.5m、幅0.3m、深度0.11mを測る。断面形状はU字形である。埋土は1層で、灰色土(5YR5/1)である。遺物は出土しなかった。

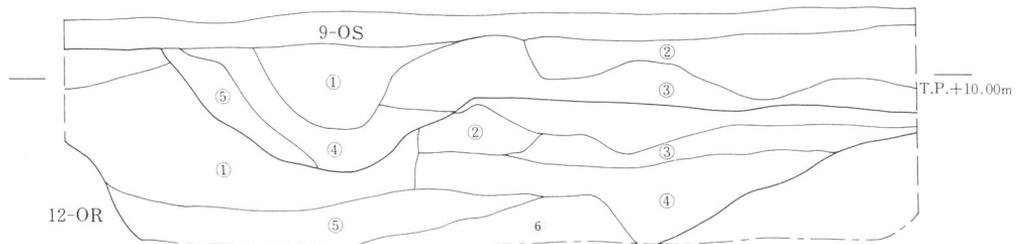
06-OS MJで検出した西北西方向に直線的に伸びる溝である。03-OSに切られている。検出長3.0m、幅0.3m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土(5YR6/2)である。遺物は出土しなかった。

07-OS MKからNKの北部まで北北西方向に直線的に伸びる溝である。検出長5.0m、幅0.2~0.3m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、褐

灰色土（5Y R5/2）である。遺物は出土しなかった。

08-O S M Jの北部で西北西方向に伸び、L Iの東南部で北北東方向に伸びる、底辺が南南西を向いたL字形の溝である。03-O Sに切られている。検出長3.5m、幅0.2～0.4m、深度0.07mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰褐色土（5Y R6/1）である。遺物は出土しなかった。

09-O S（第51図） K IからOMまで北北西方向に伸びる溝である。12-O Rの中にあり、平面では検出していないが、東南壁東側の断面で確認した。東南端は5-44区の01-O S、北北西端は5-8区の04-O Sに続く。断面形状は底部が口の開いた浅いU字形である。幅2.0m、深度0.7mを測る。埋土は5層で、①明黄褐色粘土（10Y R7/6）、②明黄褐色粘土（10Y R6/6）、③緑灰色粘土（10G Y5/1）、④灰色粘土（10Y5/1）、⑤灰色粘土（10Y6/1）である。近世以降の陶磁器・瓦が出土した。



第51図 末廣遺跡5-11区09-O S・12-O R埋土断面図

10-O Z O KからN Kで検出した鋤溝群である。条数は2条あり、北北西から南南東に伸びている。長さ2.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y5/1）である。遺物は出土しなかった。

11-O Z M JからN Tで検出した鋤溝である。条数は1条であり、南南西から北北東に伸びている。長さ1.5m、幅0.2m、深度0.05mを測る。断面形状は浅いU字形である。埋土は1層で、灰色土（5Y6/1）である。遺物は出土しなかった。

12-O R（第51図） K IからOMで検出した流路である。検出面での平面形状は底辺が東北を向いた凹形である。南南東端は5-44区の16-O Rに続く。断面形状は完掘していないため不明であるが、調査終了段階では逆台形であった。検出長20.5m、幅4.0～7.5m、深度0.8m以上を測る。確認した埋土は6層で、①灰オリーブ色粘土（5Y5/2：大小の礫混じり）、②淡黄色粘土（2.5Y8/3）、③浅黄色粘土（2.5Y7/3）、④灰黄色粘土（2.5Y7/2）、⑤灰白色粘土（N7/0）、⑥灰色粘土（10Y5/1）である。どの層からも遺物は出土しなかった。

まとめ

09-OSを除けば、他の溝、鋤溝、流路は出土遺物が無く、時期は詳かでない。大半は近代以降の耕作に伴う遺構である。09-OSは平面では検出していないが、断面で確認しており、5-44区の01-OSにつながり、5-8区の04-OSに続く水路である。

09-OSの西南側では、01・02-OSが1.2mの間隔で側溝状に伸び、耕地の地境となるようである。

5-52区（付図2・図版15・19）

C地区の南隅部で東南辺が市道高松町1号線に面し、5-39区の西南に隣接している。調査直前は農業用倉庫であった。標高はXJでT.P.+10.60m、VHでT.P.+10.30mである。調査区の形状は底辺が東南を向いた台形である。調査面積は約130㎡である。

調査により確認した土層は基本的に5層あり、第1・2層で近・現代の、第3・4層で近世以降の遺物が出土した。遺構は検出しなかった。

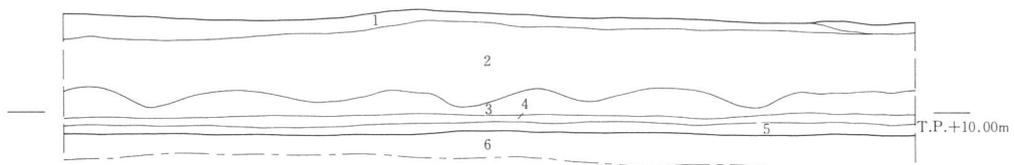
層序（第52図）

第1層 黒褐色土（7.5YR3/2：第III-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.60mである。層厚は0.1mを測る。耕作土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

第2層 灰色土（5Y4/1：黄色土（2.5Y7/8）のブロック土混じり：第V層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.50mである。層厚は0.4mを測る。整地土である。遺物は近・現代の陶磁器が出土した。

第3層 灰色土（7.5Y5/1：第VII-a層）で、全域に水平堆積している。上面の高さはT.P.+10.10mである。層厚は0.1mを測る。旧耕作土である。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。

第4層 灰白色土（7.5Y7/1：第VII-b層）で、全域に広がる床土である。上面の高さはT.P.+10.00mである。層厚は0.1mを測る。遺物は近世以降の陶磁器が出土した。



第52図 末廣遺跡5-52区基本土層断面図